



歴代の会誌表紙 Vol.13 1月号 昭和4年建築大観号

特集 第65回 青年技術者

2018 07
Vol.99 No.1156

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会

会誌「建築と社会」の電子化公開に伴う掲載論文、図版、 写真等の著作権譲渡のお願い

日本建築協会（以下「本会」という）は、1917年（大正6年）の創立以来、会誌「建築と社会」（創刊時は「関西建築協会雑誌」以下「本誌」という）を刊行して参りました。101年の長きに渡り本誌を刊行できましたことは、ひとえに会員各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

この度、本会は本誌に掲載された貴重な資料の容易な閲覧を目的として、創刊号に遡って電子化し、直近一定年を除く全文を本会会員に向けて無料公開することが2018年4月の常任理事会で了承されました。

本誌を電子化公開するにあたり、掲載された論文、記事、図版、写真は、著作権（複製権、公衆送信権を含む）が本会に帰属していることが必要となります。そこで本会では、本誌に掲載された論文、記事の著作権を著者から本会に譲渡願うこととし、また図版、写真に関しては「複製権」「公衆送信権」の使用許諾をお願いする次第です。

著作者のみなさまには、電子化公開の目的と意義をご理解いただき、著作権の譲渡および、使用許諾をお願い申し上げます。

この件に関しましてご了承いただけない場合、あるいはご質問等がある場合は2018年11月末日までに本会事務局宛にご連絡ください。

お申し出のなかった論文、記事、図版、写真等につきましては、ご了承いただいたものとし、電子化公開の作業を進めさせていただきます。

なお、期限後にお申し出があった場合においても、ご相談の上、対応させていただきます。

今回のお願いは本誌電子化公開が目的であり、これまで著作者のみなさまが有していた権利としての研究活動のための論文の個人的利用等についてはこれまでと同様です。

みなさまのご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます

【本件に関するお問い合わせ】

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMMビル7階B室（私書箱107号）

TEL：06-6946-6981 / FAX：06-6946-6984 / E-mail：soumu@aaj.or.jp

一般社団法人 日本建築協会 事務局

会告

定時総会議決のお知らせ

平成30年6月21日開催の平成30年度定時総会において、下記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
平成29年度事業報告の件
(詳細P2)
- ・第2号議案
平成29年度決算報告の件
(詳細P5)
- ・第3号議案
常設委員会新設の件
(詳細P7)

- ・第4号議案
平成30年度事業計画の件
(詳細P8)
- ・第5号議案
平成30年度収支予算の件
(詳細P9)
- ・第6号議案
役員選任の件
(詳細P10役員会務分掌参照)

●今回退任された理事
矢野 和久氏 大阪ガス(株)
香西喜八郎氏 (株)東畑建築事務所
工藤 務氏 東リ(株)

退任された理事の方には、長年にわたり会務遂行にご尽力いただきありがとうございました。
再任、新任の理事、監事はP10の会務分掌の表のとおりです。

通常理事会議決のお知らせ

平成30年6月5日開催の平成30年度第1回通常理事会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
平成29年度事業報告の件
(詳細P2)
- ・第2号議案
平成29年度決算報告の件
(詳細P5)
- ・第3号議案
常設委員会新設の件
(詳細P7)

- ・第4号議案
平成30年度事業計画の件
(詳細P8)
- ・第5号議案
平成30年度収支予算の件
(詳細P9)
- ・第6号議案
役員選任の件
(詳細P10役員会務分掌参照)

臨時理事会議決のお知らせ

平成30年6月21日開催の平成30年度第1回臨時理事会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
役付役員選任の件
- ・第2号議案
常任理事、常設委員長委嘱の件

- ・第3号議案
理事の会務分掌の件
いずれもP10の会務分掌の表のとおりです。

定時評議員会議決のお知らせ

平成30年6月5日開催の平成30年度定時評議員会において、右記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
評議員会議長互選の件

- ・第2号議案
役員候補者推薦の件

平成29年度事業報告

平成29年4月1日～平成30年3月31日

昨年3月30日に協会は創立100周年を迎えた。「記念式典」をはじめとした各種イベントの実施や記念誌の刊行等に取り組むなど、意義深い記念すべき年となった。

平成29年度は、100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」踏み出す101年目のスタートに当たることから、2つの新しい企画を立ち上げた。次世代を担う若い方々に活動の場を提供する「未来創生プロジェクト」と初代会長片岡安の名を冠した「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールで、協会の目玉となるものである。

また、他団体や協会以外の活動との連携も積極的に行い活動のリンケージを広げるとともに、従来から実施している「建築と社会」誌の発行をはじめ、講演会の開催、見学会や顕彰事業の実施、刊行物の発行などに取り組んだ。

収支では、記念事業である「建築と社会」誌のアーカイブデータ化に要した費用を除く直接事業収支については、収入では予算に対しての会費収入、契約約款収入、出版委員会収入の伸びがその他の事業収入の減をカバーし、予算額を若干上回った。支出では事業費、管理費とともに予算額を下回り、約120万円の黒字となった。

記念事業収支については、「建築と社会」誌アーカイブ化のための費用として記念事業積立預金から4百万円取崩す予定であったが、平成29年度は創刊号から現在までの会誌のPDF化に要した費用215万円を取崩し、残額の185万円は平成30年度に、会員のためのアーカイブ公開のシステム構築費、新しい協会リーフレット作成費用等に当てるために取り崩す予定である。

I 本 部

◎役員会等の開催状況

1. 総会、理事会、評議員会、常任理事会

定時総会 平成29年6月23日（金）

- ①平成28年度事業報告・収支決算報告
- ②平成28年度公益目的支出計画実施報告
- ③平成29年度事業計画・収支予算計画
- ④役員改選

第1回 通常理事会 平成29年6月8日（木）

- ①平成28年度事業報告・収支決算報告
- ②平成28年度公益目的支出計画実施報告
- ③平成29年度事業計画・収支予算計画
- ④役員改選

第2回 通常理事会 平成29年11月22日（水）

- ①平成29年度上半期事業執行状況

第1回 臨時理事会 平成29年6月23日（金）

- ①会長選任
- ②役付役員選任
- ③常任理事ならびに常設委員長の委嘱
- ④理事の会務分掌

定時評議員会 平成29年6月8日（木）

- ①副議長改選
- ②役員推薦

常任理事会 8回開催

- ①理事会提出議案の作成、理事会議決事項の処理
- ②協会の会務執行 など

会長、副会長、常任理事、支部長会議

平成29年11月22日（水）

- ①平成29年度上半期事業執行状況
- ②意見交換

2. 常設委員会

協会の事業を円滑に遂行するため、4つの常設委員会を設置している。

(1) 編集委員会

協会の会誌「建築と社会」の企画・編集のため、編集委員会を設置している。

編集委員会は特集小委員会、作品作風小委員会、広告企画小委員会の3つの小委員会で構成している。

更に特集小委員会は計画分科会（計画系、建築計画系、インテリア・住宅系）と構造分科会、設備分科会、施工材料分科会、法令分科会の5つの

分科会に分かれている。編集委員会を11回、特集小委員会を47回、作品作風小委員会11回、広告企画小委員会を11回開催した。また、2018年4月特集号発行のため、特別編集委員会を5回開催した。

(2) 事業委員会

見学会や講演会、研修会などを企画する情報見学小委員会を7回開催し見学会を4回実施した。

(3) 出版委員会

建築に関する図書の企画・編集・刊行を行うため、11回開催した。

(4) 教育委員会

建築工事実務講習会の打ち合わせのため講習会小委員会や工高生のデザインコンクールを開くための工高生教育小委員会を運営しており、講習会小委員会を3回、工高生教育小委員会を3回開催した。また、工高生デザインコンクール募集規程作成会を1回実施した。

大阪府や建築団体に構成する大阪府住まいまちづくり普及協議会に協力した。

3. 特別委員会

協会の顕彰事業を円滑に遂行するため、4つの特別委員会を設置している。

(1) 青年技術者選考委員会

設計・計画、構造、設備、施工など建築に関連する分野から満35歳以下の青年技術者を顕彰するため、選考委員会を4月12日（水）に開催した。

(2) 工高生デザインコンクール審査委員会

工高生デザインコンクールは、工高生の設計技能向上のため、昭和30年創立以来毎年実施してきた。10月14日（土）に審査委員会を開催し、11月11日（土）に表彰式を実施した。

(3) 「建築と社会」賞選考委員会

「建築と社会」に掲載された前年の作品、記事の中から社会性、環境などに配慮した建築作品や建築にかかわる論文や記事などを顕彰するため、選考委員会を5月9日（火）に開催した。

(4) 「片岡安賞」日本建築協会論考コンクール審査委員会

101年目を迎えた平成29年度は100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため、論考の発表の場を提供する「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールを立ち上げ審査委員会を3回開催した。

4. 100周年関連事業委員会

創立100周年関連事業を実施するため、2つの委員会を設置していたが、創立100周年を機に10年委員会 は解消し、史料研究会は新たな企画の検討を行った。

(1) 史料研究会

平成28年度は、関西における歴史的な建築や「建築と社会」誌に掲載された論考について解説し同誌へ連載し、平成28年10月号で終了した。平成29年度は新委員を加え、「再読関西近代建築」の続編として1976年～90年ぐらゐの論考、作品（建築）、随想、対談などの内容の再読を30年5月号からの開始を目指し5回開催した。

5. 未来創生プロジェクト

101年目を迎えた平成29年度は100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため、小中高校生から40歳代と次世代を担う若手が積極的に参加する場「未来創生プロジェクト」を発足させた。このプロジェクトは3つの委員会で構成している。

(1) 建築次世代委員会

10年委員会の「学生のための見学会」を継承し、建築と社会を担う人材育成に資する活動を創造するため委員会を発足させた。平成29年度は7回開催した。

(2) 2040委員会

日本建築協会が100年にわたり築いてきた歴史の上に、「次世代（Next Generation）」の想いを集結させ、「次代（Next Era）」が創造的で魅力的なものとなるべく、これからの「建築と社会」のあるべき姿を思考（志向、試行）することを目的に委員会を発足させた。平成29年度は6回開催した。

(3) U-35委員会

若手会員の増強と協会活動の活性化を目指すU-35委員会を15回実施するとともに、委員相互の勉強会として、トークバトン会を3回開催した。

◎事業の執行状況

1. 「建築と社会」誌の発行

「建築と社会」は、大正6年の創立以来協会活動の中核として、会員相互あるいは会員と社会を結び役割を果たしている。毎月発行し会員の手元に届けている。平成30年3月号で通巻1152号を数えるに至った。

発行月	特 集 内 容	特集以外の主な内容
4月号	東海支部特集	●作品作風
5月号	建築設備の伝統と革新	●gallery
6月号	第64回青年技術者	●法令コーナー
7月号	100年前の建築、100年後の建築～匠匠・空間の視点から～	●構造・設備の頁
8月号	観光立国を目指した宿泊施設について	●建築と社会を考える
9月号	100年前の建築、100年後の建築～施工・材料の視点から～	●メンバーズフォーラム
10月号	社会に繋がるディテール	●新製品レビュー
11月号	関西で木と生きる	●インフォメーション
12月号	時間軸に挑むクリエイター達～時をデザインするということ	など
1月号	東畑建築事務所創設85周年温泉と暮らす	
2月号	第24回会員作品「私の空間作法」	
3月号	東海支部特集	

2. 講演会の開催

話題の建築物や構造物、都市問題など様々なジャンルを対象にエピソードや苦労話、ノウハウなどを聞く講演会を毎年開催している。平成29年度は2回開催した。

定時総会記念講演 平成29年6月23日（金） 60名
「大阪新美術館計画案について」

（株）遠藤克彦建築研究所代表取締役 遠藤克彦

出版委員会企画 平成29年7月12日（水） 41名
第39回くプロのノウハウ講座「図解 一発で通す！確認申請」出版記念講演

（株）竹中工務店設計部申請リーダー 野口 元

（株）日本確認検査センター常務取締役 平沢隆志
（一社）日本建築協会出版委員 仲本尚志

3. 見学会の実施

著名建築物や近代建築などの見学会を毎年実施している。平成29年度は4回実施した。

- ・中之島フェスティバルタワー・ウエスト

平成29年6月20日（火） 32名

- ・近畿大学 ACADEMIC THEATER

平成29年7月15日（土） 27名

- ・大阪工業大学OIT梅田タワー

平成29年9月9日（土） 24名

- ・「大徳寺 孤蓬庵 忘筌」茶室見学会

平成29年11月11日（土） 34名

4. 建築工事実務講習会の開催

昭和32年以降、毎年主として中堅以下の建築技術者を対象に標記講習会を実施している。平成29年度は平成30年1月18日（木）に実施し67名が参加した。

5. 顕彰事業の実施

(1) 青年技術者の顕彰

昭和29年度から毎年実施している。今回は32名を顕彰した。顕彰者を称え激励するため、総会後に表彰式を行った。

- ・設計・計画部門 14名

磯村雅敏、伊藤貴弘、鶴飼浩平、大野竜也、興津俊宏、貝野 悠、倉田 遥、内藤多加志、中川雄輔、中壽賀嘉将、東村壮裕、水谷友也、箕浦浩樹、山本善宏

- ・構造部門 5名

片岡 大、榊原啓太、原啓太、田中健嗣、松本裕之、葦科 誠

- ・設備部門 9名

安心院 智、川原圭貴、小浦一平、副島正成、名倉真紀子、西村鉄平、平井大介、藤井 梢、三畑 一

- ・施工部門 4名

中川啓太郎、榊原達夫、平野 篤、山口紘史

(2) 「建築と社会」賞の顕彰

作品部門3点、論考部門2点、審査員特別賞2点を選び、総会後に表彰式を行った。

・作品部門

①京都リサーチパークアステラス製薬 京都朱雀事業所

建築主 大阪ガス都市開発㈱
アステラス製薬㈱

設計 ㈱日建設計

監理 大阪ガス都市開発㈱
㈱日建設計

施工 ㈱大林組

②田辺三菱製薬本社ビル

建築主 田辺三菱製薬㈱

C M r ㈱山下設計
㈱山下ピー・エム・コンサルタンツ

設計監理 ㈱大林組大阪本店一級建築士事務所

施工 ㈱大林組

③城東区複合施設

建築主 大阪市

設計監理 大阪市都市整備局公共建築部
㈱日建設計

施工 浅沼・中林特定建設工事共同企業体

・論考部門

①おもてなしと建築

東京都江戸東京博物館館長
東京大学名誉教授
工学院大学特任教授 藤森照信

②建築は、みんなで“つくる”

ーパパ、あの建物つくってんで。全部やないけどな…。ー

㈱竹中工務店技術本部長 村上陸太

・審査員特別賞

①特集「都市の記憶をたどって」

企画 編集委員会 計画系分科会

②特集「人の移動・物の移動・情報の移動」

企画 編集委員会 設備分科会

(3) 優秀卒業生の表彰

優秀な建築系学科の卒業生を表彰することにより、研鑽意欲の向上を促し、激励するため昭和27年から実施している。平成29年度は工業高校や専門学校など32校58名を表彰した。

6. コンクールの実施

(1) 工高生デザインコンクールの実施

平成29年度で63回を数える。平成29年度は、「伝統工芸館」を設計課題に募集したところ、20校128点の応募があり10作品13名を表彰した。

・最優秀賞
北田 幹・谷口毅和

・優秀賞
岸 夕海、松下琴音

・入選
阿部隼人、上野航祐、黒住隆二、千福友里奈、角田広紀、中西梨乃・志智麗未・中田朋伽、和田龍輝

(2) 「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールの実施

初年度の平成29年度は、「これからの建築と社会ーその関係を問う」をテーマに募集したところ、18点の応募があり昨年11月に第1次審査を行い、平成30年3月10日（土）には公開プレゼンテーションと最終審査を実施した。平成30年6月21日（木）の総会で第1回目の表彰式を行う。

・片岡安賞
該当なし

・奨励賞
AIがもたらす新たな「知」と社会
㈱大林組設計本部設計部 一居康夫

・奨励賞
スルーアーキテクチャー ー建築・社会・共同体のゆるい関わり合いー
慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科
西野 翔

・佳作
これからの建築と社会ーその関係を問う
近畿大学文芸学部 教授 AIR一級建築士事務所代表 岡本清文

・佳作
これからの建築と社会ーその関係を問う
芦原太郎建築事務所大阪オフィス 北村 潤

・佳作
人びとがつくる「場所」という現象をとらえる

大阪工業大学准教授 林田大作

・佳作
建築と社会の幻想曲
伊熊昌治建築設計事務所 伊熊昌治

7. 出版物の刊行

時代のニーズに即した新しい著書の発掘を第一とし、建築に関する図書の企画・編集・刊行を行っており、昭和24年以来多くの図書を出版してきた。「建築技術選書」と「プロのノウハウ」シリーズはその代表である。

平成29年度は、「プロのノウハウ」シリーズ『改訂版イラストでわかる消防設備の技術』を発行した。また、シリーズ以外で『図解 住まいの寸法』を刊行した。

8. 共催、後援、協賛事業

協会の事業主旨に合致する事業に共催、後援、協賛した。

(1) 共催

・大阪都市景観建築賞
大阪府、大阪市、(公社)大阪府建築士会、(一社)大阪府建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会近畿支部、(一社)日本建築協会

・WORLD Café「建築女子がきずく未来」
(公社)大阪府建築士会

(2) 後援

・建築物省エネ法・省エネ設計技術講習会
(公社)大阪府建築士会

・大阪工業大学梅田キャンパスにみる省CO₂の技術とデザイン (公社)大阪府建築士会

・LIVING&DESIGN2017 (一社)L&D

・なにわ建築フェスタ2017年児童画展
(一社)大阪府建築士事務所協会

・オトナ工芸魂2017
大阪工芸会オトナ工芸魂実行委員会

・「建築紛争の現状と課題（その5）」ー大阪地方裁判所における建築裁判からー
(一社)日本建築学会近畿支部

・「シンポジウム（仮称）建築基礎・地盤に関する研究開発の現状と課題」
建築研究開発コンソーシアム

・溶接亜鉛めっき工場見学会他
(公社)大阪府建築士会

・安井武雄展 ㈱安井建築設計事務所

・開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会 (一社)大阪府建築士事務所協会、(一社)日本建築士事務所協会連合会

・建築学生ワークショップ伊勢2018
NPO法人アートアンドアーキテクトフェスタ

・建築材料・住宅設備総合展 KENTEN2017
(一社)日本建築材料協会

・「卒業展2018」 修正建設専門学校

・第5回福祉住環境サミット
(一社)福祉住環境アソシエーション

・講習会「火炎性状予測計算ハンドブック」
(一社)日本建築学会

・「実務者のための設計・監理契約書講習会」他1件
(公社)大阪府建築士会

・まちあるきプロジェクト「ぶらり大阪“景観”ウォーク阿倍野区編」
(一社)大阪府建築士事務所協会

・関西建設人ゴルフ大会
関西建設人ゴルフ大会委員会

・講習会「早わかり「モデル建物法」による入力シート作成解説」 (公社)大阪府建築士会

・講習会「木造住宅を学ぶ」
(公社)大阪府建築士会

(3) 協賛

・平成29年度「住生活月間」
住生活月間実行委員会

・平成29年度（第27回）大阪府公共建築設計コンクール「あすなる夢建築」
大阪府、(公社)大阪府建築士会、大阪府住宅供給公社

・建築・建材展2018 ㈱日本経済新聞社

・第41回人間ー生活環境系シンポジウム
人間ー生活環境系学会

・平成30年度1級・2級建築施工管理技術検定試験受験講習会 (一財)地域開発研究所

・セミナー「最近の裁判例で学ぶ建築物の設計・施工における瑕疵をめぐる法的問題について」

(公社)ロングライフビル推進協会

・セミナー「建築火災安全設計の考え方と基礎知識」
(一社)日本建築学会近畿支部

9. 建築関係団体等との交流、連携

建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を積極的に推進するため、平成21年度から在阪建築4団体（大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会）で構成する会長・支部長懇談会に4回出席した。平成29年度は、引き続き在阪建築4団体インターンシップに協力、参加した。また、関西建築界恒例行事の忘年懇親会を日本建築協会が当番会として12月14日（木）に開催した。

「イケフェス大阪」との連携事業として大阪ガス㈱と連携し『大阪ガスビルに託された夢ー白亜のビルと近代大阪』をタイトルに関西を代表する建築史家石田潤一郎氏と設計者の承諾を受け継ぐ佐野吉彦氏がそれぞれの視点からトークイベントを展開した。

10. 工事請負契約約款事業

民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款委員会に委員を派遣するとともに、引き続き「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」及び「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」、「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」、「民間（旧四会）連合協定マンション修繕工事請負契約書類（書式・約款）」を販売した。

現在販売している4つの約款・書式の説明用パンフレットが約款委員会から発行され、販売窓口等で配布し、約款の周知、啓発に努めた。

11. 役員派遣

大阪商工会議所に2号議員として役員1名を派遣した。

（一財）大阪建築防災センターに監事として役員1名を派遣した。

Ⅱ 支 部

〔中国支部〕

◎役員会等の開催状況

1. 総会、常議員会、幹事会の開催

定時総会 平成29年5月15日（月）

①平成28年度事業報告

②平成28年度収支決算報告及び監査報告

③平成29年度事業計画（案）

④平成29年度収支予算（案）

⑤役員改選（案）

⑥建築施工技術研究委員会活動報告

⑦日本建築協会創立100周年記念事業報告

⑧その他

第1回 常議員会 平成29年4月18日（火）

①平成28年度事業報告

②平成28年度収支決算報告及び監査報告

③平成29年度事業計画（案）

④平成29年度収支予算計画（案）

⑤役員改選（案）

⑥建築施工技術研究委員会活動報告

⑦日本建築協会創立100周年記念事業報告

⑧平成29年度支部総会開催（案）

第1回 幹事会 平成29年7月20日（木）

①中国支部総会報告

②平成29年度通常理事会・総会・臨時理事会報告

③平成29年度若手・新入社員技術講習会報告

④平成29年度中堅社員技術講習会

⑤その他

第2回 幹事会 平成29年12月15日（金）

①本部通常理事会報告

②平成29年度中堅社員技術講習会

③実務講習会

④平成30年度施工技術研究委員会活動報告（研修スケジュール等）

⑤その他

第3回 幹事会 平成30年3月15日（木）

①平成29年度建築工事実務講習会報告

②平成30年度総会・常議委員会

③平成29年度決算（案）・30年度予算（案）

④平成30年度施工技術研究委員会活動（研修スケジュール等）

⑤その他

◎事業の執行状況

1. 若手・新入社員技術講習会の開催

平成29年6月7日(水)実施。参加者は40名。

①若手・新入社員の心構え

講師：尾野本 悟(広島工業大学教授)

②初歩の積算

講師：八道 憲一(鹿島建設(株)中国支店次長)

③型枠支保工の構造計算入門

講師：川上 善嗣(広島工業大学准教授)

④施工実績と鉄筋コンクリート工事のポイント

講師：井上昇(清水建設(株)広島支店工事長)

⑤交流会

2. 中堅社員技術講習会の開催

平成29年10月4日(水)実施。参加者37名

①掘削・土留工事の安全管理

講師：尾野本 悟(広島工業大学教授)

②鉄骨工事の品質管理

講師：貞永 誠(株竹中工務店生産統括部技術部長)

③コンクリート工事の施工管理

講師：山根 幸男(株大林組所長)

④安全パトロールでの気づき

講師：藤田 伸介(藤田労働安全コンサルタント事務所所長元厚生労働技官)

⑤交流会

3. 建築工事実務講習会の開催

平成30年2月15日(木)実施。参加者27名

①施工計画

講師：井上 昇(清水建設(株)広島支店工事長)

②仮設見積

講師：尾野本 悟(広島工業大学教授)

③積算業務

講師：八道 憲一(鹿島建設(株)中国支店次長)

④交流会

4. 工事請負契約約款事業

「民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款」及び「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」、「民間(旧四会)連合協定リフォーム工事請負契約書類(書式・約款)」を販売した。

〔東海支部〕

◎役員会等の開催状況

1. 総会、常議員会、幹事会の開催

定時総会 平成29年5月26日(金)

- ①平成28年度事業報告・収支決算報告
- ②平成29年度事業計画・収支予算計画
- ③役員改選
- ④支部規程

第1回 常議員会 幹事会 平成29年4月17日(月)

- ①平成28年度事業報告・収支決算報告
- ②平成29年度事業計画・収支予算計画
- ③平成29年度次期役員会構成
- ④総会当日の段取り
- ⑤各常置委員会活動報告

第2回 常議員会 幹事会 平成29年5月26日(金)

- ①平成29年度支部総会
- ②平成28年度事業報告・収入支出決算
- ③平成29年度事業計画
- ④当日の段取り

第3回 常議員会 幹事会 平成29年6月21日(水)

- ①平成29年度常置委員会構成
- ②平成29年度定時総会収支
- ③各常置委員会活動報告

第4回 常議員会 幹事会 平成29年7月19日(水)

- ①平成29年度常置委員会構成
- ②来年度支部総会日程
- ③各常置委員会活動報告

第5回 常議員会 幹事会 平成29年8月21日(月)

- ①平成29年度常置委員会構成
- ②各常置委員会活動報告

第6回 常議員会 幹事会 平成29年9月20日(水)

- ①2017年度の会員名簿前段資料
- ②上半期事業報告
- ③各常置委員会活動報告

第7回 常議員会 幹事会 平成29年10月24日(火)

- ①本部報告「平成29年度上半期事業報告」
- ②常置委員会活動報告

第8回 常議員会 幹事会 平成29年11月16日(木)

- ①建築と社会2018年3月東海特集号、「東海の建築」第85号

②常置委員会活動報告

第9回 常議員会 幹事会 平成29年12月4日(月)

- ①建築と社会2018年3月東海特集号、「東海の建築」第85号

②常置委員会活動報告

第10回 常議員会 幹事会 平成30年1月23日(火)

- ①建築と社会2018年3月東海特集号、「東海の建築」第85号

②平成30年度事業計画

③平成29年度決算見込み、平成30年度予算審議

④常置委員会活動報告

第11回 常議員会 幹事会 平成30年2月15日(木)

- ①建築と社会2018年3月東海特集号、「東海の建築」第85号

②平成30年度事業計画

③平成29年度決算見込み、平成30年度予算審議

④常置委員会活動報告

第12回 常議員会 幹事会 平成30年3月15日(木)

- ①建築と社会2018年3月東海特集号「東海の建築」第85号

②平成30年度事業計画

③平成29年度決算見込、平成30年度予算審議

④平成30年度支部役員人事

⑤常置委員会活動報告

⑥平成30年度支部総会案内

2. 常置委員会の開催

これまでの総務、編集、会員、事業、研修、青年の6つの委員会を設置して支部運営を行っている。

(1) 総務委員会

平成29年度総会準備および平成28年度決算、平成29年度予算作成のため4回開催した。

(2) 編集委員会

「東海の建築」第85号構成・手配及び「建築と社会」東海特集特別編集内容打合せのため3回開催した。

(3) 会員委員会

会員名簿、協賛社名簿手配、確認のため4回開催した。

(4) 事業委員会

研修旅行、来期海外研修旅行、現地集合見学会の打ち合わせを4回実施した。

(5) 研修委員会

建築工事実務講習会日時、講師検討・手配準備、講師打ち合の準備のため4回開催した。

(6) 青年委員会

30代の若手設計者の意見交換会「納マリ倶楽部」を2回開催。若手による支部活動の活性化を図っている。

◎事業の執行状況

1. 支部機関紙「東海の建築」の発行

「東海の建築」第85号を執筆。12月1日発行。

「建築と社会」東海特集号の執筆。

2. 見学会の実施

6月17日(土)「アンフォーレ安城」現地集合見学会実施。34名参加。

研修旅行「秋本番！清里・茅野建築の旅」を10月8、9日(日、月)に実施。参加者は15名。

3. 講演会の開催

平成29年5月26日(金)の定時総会後に開催。参加者は40名

講師：加茂 紀和子氏「(株)みかんぐみ 代表/名古屋工業大学 教授」

演題：「建築の思考～みかんぐみの試行」

4. 建築工事実務講習会の開催

平成30年1月24日(水)名古屋商工会議所にて開催。参加者は46名。

①施工計画

講師：日吉智紀(清水建設名古屋支店)

②仮設見積

講師：相原仁史(大林組名古屋支店)

③積算業務

講師：木原 陽(竹中工務店名古屋支店)

5. 支部会員名簿の発行

平成29年11月30日に東海支部会員名簿2017年度版を発行した。

6. 会員交流会の実施

団体会員の商品説明会を1回行った。

7. 「建築と社会」3月号 東海特集の編集事業

平成30年3月号の企画、編集を担当。

タイトルは「建築がつなぐ記憶・新たな創造」とした。

今年は「保存と活用」をテーマに名古屋市・稲葉地配水塔・演劇練習館「アクテノン」を取り上げた。また若手設計者の意見交換会「納マリ倶楽部」を紹介した。

作品作風：東海4県下などの建築作品20点

スケッチブック：支部会員作品10点

東海の建築：開口4点

東海支部だよりとして、「清里・茅野建築の旅」を紹介した。

8. 建築関係団体との交流、連携

- ・建築八団体(愛知建築士会、愛知県建築士事務所協会、日本建築家協会東海支部愛知地域会、日本建築学会東海支部、日本建築構造技術者協会中部支部、日本積算協会東海北陸支部、愛知県設備設計監理協会、日本建築協会東海支部)連絡協議会に6回出席した。

- ・1月5日(金)に八団体共催の新年互礼会を「名古屋国際ホテル」で開催。

- ・中部建築賞協議会に協力し中部建築賞を運営。

〔京都支部〕

◎役員会等の開催状況

1. 総会、役員会、常議員会の開催

定時総会 平成29年7月14日(金)

- ①平成28年度事業報告・収支決算報告
- ②平成29・30年度役員選任
- ③平成29年度事業計画・収支予算計画

役員会 平成29年7月6日(木)

①通常総会の運営

第1回 常議員会 平成29年4月5日(水)

- ①新年度事業年間計画の策定
- ②日本建築協会100周年記念事業の報告

第2回 常議員会 平成29年5月1日(月)

- ①清風荘見学・研修会の実施
- ②平成29年度事業計画

第3回 常議員会 平成29年9月1日(金)

- ①支部設立70周年記念事業
- ②平成29年度後期分 事業企画

第4回 常議員会 平成29年10月11日(水)

- ①平成29年度後期事業計画のテーマと担当者
- ②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第5回 常議員会 平成29年11月29日(水)

- ①平成29年度後期事業計画のテーマと担当者
- ②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第6回 常議員会 平成29年12月27日(水)

- ①平成29年度後期事業計画のテーマと担当者
- ②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第7回 常議員会 平成30年1月31日(水)

- ①平成29年度後期事業計画のテーマと担当者
- ・若い世代向けの座学の企画
- ・高田光雄氏講演会

- ②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

第8回 常議員会 平成30年3月1日(木)

- ①平成30年度事業計画のテーマと担当者
- ②支部設立70周年記念誌の編集テーマ・担当者

◎事業の執行状況

1. 講演会、見学会、勉強会の実施

①清風荘見学会を平成29年6月3日(土)に実施。参加者49名。

②伊勢神宮茶室及び茶庭見学・研修会を平成29年7月11日(火)に実施。参加者17名。

2. 2級建築士受験講習会の開催

京都府建築士会共催「製図(基本・応用)」平成29年7月9日(日)～9月3日(日) 受講者：30名

①2級受験講習会 製図(基本) 2日間

講師：福井基文/福井一級建築士事務所
京都府建築士会事業委員会委員

②製図(応用) 延べ6日間

講師：福井基文/福井一級建築士事務所
京都府建築士会事業委員会委員

3. 工事請負契約約款事業

「民間(旧四会)連合協定工事請負契約約款」及び「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」、「民間(旧四会)連合協定リフォーム工事請負契約書類(書式・約款)」を販売した。

平成29年度決算報告

貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	28,811,120	42,669,921	-13,858,801
貯蔵品	62,190	23,976	38,214
未収入金	968,517	2,645,550	-1,677,033
前払費用	657,780	1,310,760	-652,980
仮払金	64,970	55,300	9,670
流動資産合計	30,564,577	46,705,507	-16,140,930
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	12,850,000	15,000,000	-2,150,000
事業基金積立預金	29,000,000	29,000,000	0
退職給付引当資産	9,088,348	9,088,348	0
特定資産合計	50,938,348	53,088,348	-2,150,000
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260	111,260	0
長期預け金	447,963	447,963	0
保証金	3,527,250	3,527,250	0
その他固定資産合計	4,086,473	4,086,473	0
固定資産合計	55,024,821	57,174,821	-2,150,000
資産合計	85,589,398	103,880,328	-18,290,930
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	627,602	16,187,651	-15,560,049
前受金	5,427,614	7,781,281	-2,353,667
預り金	153,623	102,660	50,963
流動負債合計	6,208,839	24,071,592	-17,862,753
2. 固定負債			
退職給付引当金	8,992,415	8,555,502	436,913
固定負債合計	8,992,415	8,555,502	436,913
負債合計	15,201,254	32,627,094	-17,425,840
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(41,945,933)	(44,532,846)	(-2,586,913)
正味財産合計	70,388,144	71,253,234	-865,090
負債及び正味財産合計	85,589,398	103,880,328	-18,290,930

科 目	当年度	前年度	増 減
会議費	1,758,586	1,610,317	148,269
旅費交通費	308,190	404,630	-96,440
通信運搬費	372,327	379,540	-7,213
集金費	432,490	458,668	-26,178
消耗品費	1,862,877	1,730,472	132,405
備品購入費	0	75,384	-75,384
修繕費	0	0	0
印刷製本費	0	0	0
光熱費	220,242	217,963	2,279
火災保険料	19,610	17,670	1,940
租税公課	907,800	685,600	222,200
建物管理費	4,439,343	4,256,712	182,631
事務委託費	1,370,736	1,370,736	0
雑費	1,683,319	1,478,186	205,133
経常費用計	61,626,632	83,312,022	-21,685,390
当期経常増減額	-865,090	-10,472,008	9,606,918
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
退職給付引当金戻入	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-865,090	-10,472,008	9,606,918
一般正味財産期首残高	71,253,234	81,725,242	-10,472,008
一般正味財産期末残高	70,388,144	71,253,234	-865,090
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	70,388,144	71,253,234	-865,090

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法
 什器備品…定額法によっている。
- (2) 引当金の計上基準
 退職給付引当金…期末退職給与の要支給額を引当てている。
- (3) 消費税等の会計処理
 消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	0	0	0	0
特定資産				
記念事業積立預金	15,000,000	0	2,150,000	12,850,000
事業基金積立預金	29,000,000	0	0	29,000,000
退職給付引当資産	9,088,348	0	0	9,088,348
小 計	53,088,348	0	2,150,000	50,938,348
合 計	53,088,348	0	2,150,000	50,938,348

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
小 計	0	—	—	—
特定資産				
記念事業積立預金	12,850,000	—	(12,850,000)	—
事業基金積立預金	29,000,000	—	(29,000,000)	—
退職給付引当資産	9,088,348	—	(95,933)	(8,992,415)
小 計	50,938,348	—	(41,945,933)	(8,992,415)
合 計	50,938,348	—	(41,945,933)	(8,992,415)

正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	33,399,867	33,674,750	-274,883
個人正会員受取会費	8,688,300	8,784,000	-95,700
個人正会員（地方）受取会費	907,200	915,600	-8,400
団体正会員受取会費	23,779,167	23,956,250	-177,083
準会員受取会費	25,200	18,900	6,300
事業収益	27,139,404	38,950,552	-11,811,148
事業収益	26,478,544	38,242,552	-11,764,008
事業雑収益	660,860	708,000	-47,140
雑収益	222,271	214,712	7,559
経常収益計	60,761,542	72,840,014	-12,078,472
(2) 経常費用			
事業費	42,377,007	64,876,132	-22,499,125
給料・手当	13,843,503	13,148,302	695,201
法定福利費	2,405,073	2,746,001	-340,928
事業費	25,871,139	48,757,560	-22,886,421
事業雑費	257,292	224,269	33,023
管理費	19,249,625	18,435,890	813,735
給料・手当	4,614,501	4,382,767	231,734
退職給付費用	436,913	436,912	1
法定福利費	801,691	915,333	-113,642
福利厚生費	21,000	15,000	6,000
助成費	0	0	0

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
(直接法により減価償却を行っている場合)
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。
(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,112,560	1,001,300	111,260
合 計	1,112,560	1,001,300	111,260

付属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記2に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細 (単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	8,555,502	436,913	0	0	8,992,415

財産目録

平成30年 3 月31日現在 (単位：円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	28,811,120		
現金手許有高	32,521		
普通預金 三井住友銀行大阪中央支店	1,103,845		
普通預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	4,279,087		
普通預金 りそな銀行北浜支店	3,198,304		
定期預金 りそな銀行北浜支店	150,000		
郵便振替口座 マーチンダイズビル内支店	3,013,419		
普通預金 郵貯銀行マーチャンダイズビル内支店	38,046		
定期預金三井住友銀行大阪中央支店	1,000,000		
定期預金三菱東京UFJ銀行瓦町支店	11,000,000		
普通預金 広島銀行本川支店	1,183,500		
普通預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	852,628		
普通預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	1,008,681		
定期預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	1,505,779		
普通預金 みずほ銀行京都中央支店	275,948		
普通預金 郵貯銀行御池柳馬場支店	142,922		
郵便振替口座 御池柳馬場支店	26,440		
貯蔵品	62,190		
切手・はがき	62,190		
未収入金	968,517		
会誌収入	135,000		
個人正会員会費収入	688,800		
個人地方会員会費収入	105,000		
団体正会員会費収入	22,917		
準会員会費収入	16,800		
前払費用	657,780		
教育委員会事業費（30年度）	655,380		
集金費（30年度グループ会費集金手数料）	2,400		
仮払金	64,970		
見学会・会議保険料	64,970		
流動資産合計		30,564,577	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計		0	
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	12,850,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	12,850,000		
普通預金 りそな銀行北浜支店	0		
事業基金積立預金	29,000,000		

科 目		金 額	
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,000,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	20,000,000		
退職給付引当資産	9,088,348		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,088,348		
特定資産合計	50,938,348		
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260		
書棚 1 式	111,260		
長期預け金	447,963		
預け金 三菱UFJモルガン・スタンレー証券	447,963		
保証金・敷金	3,527,250		
本部事務所賃貸契約による保証金	3,436,650		
京都支部事務所貸借敷金	90,600		
その他固定資産合計	4,086,473		
固定資産合計		55,024,821	
資産合計			85,589,398
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	627,602		
会誌発行費	91,154		
10年委員会費 会議保険料	6,448		
租税公課	530,000		
前受金	5,427,614		
個人正会員会費収入	1,682,400		
個人地方会員会費収入	113,400		
団体正会員会費収入	3,235,414		
準会員会費収入	8,400		
会誌収入	388,000		
預り金	153,623		
給与源泉税預り	24,280		
報酬源泉税預り	124,343		
誤振込み預かり	5,000		
流動負債合計		6,208,839	
2. 固定負債			
退職給付引当金	8,992,415		
固定負債合計		8,992,415	
負債合計			15,201,254
正味財産			70,388,144

収支計算書

平成29年 4 月 1 日から平成30年 3 月31日まで (単位：円)

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
会費収入	32,212,142	33,399,867	0	33,399,867	-1,187,725
個人正会員	8,397,504	8,688,300	0	8,688,300	-290,796
個人正会員（地方）	874,398	907,200	0	907,200	-32,802
団体正会員	22,921,340	23,779,167	0	23,779,167	-857,827
準会員	18,900	25,200	0	25,200	-6,300
支部活動収入	1,422,960	1,422,960	-1,422,960	0	1,422,960
事業収入	30,345,120	28,877,516	-1,738,112	27,139,404	3,205,716
事業収入	29,525,120	28,216,656	-1,738,112	26,478,544	3,046,576
事業雑収入	820,000	660,860	0	660,860	159,140
雑収入	205,800	222,271	0	222,271	-16,471
雑収入（支部正味財産繰入収入）	592,580	0	0	0	592,580
前受金収入	0	5,427,614	0	5,427,614	-5,427,614
前払費用収入	0	655,380	0	655,380	-655,380
仮払金収入	0	2,743,598	0	2,743,598	-2,743,598
預り金収入	0	5,361,220	0	5,361,220	-5,361,220
貯蔵品収入	0	0	0	0	0

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
事業活動収入計	64,778,602	78,110,426	-3,161,072	74,949,354	-10,170,752
２．事業活動支出					
事業費支出	42,986,450	41,410,291	-1,738,112	39,672,179	3,314,271
事業関係人件費支出	16,833,450	16,248,576	0	16,248,576	584,874
事業費支出	25,933,000	24,904,423	-1,738,112	23,166,311	2,766,689
事業雑支出	220,000	257,292	0	257,292	-37,292
管理費支出	21,254,066	20,235,672	-1,422,960	18,812,712	2,441,354
管理関係人件費支出	5,611,150	5,416,192	0	5,416,192	194,958
退職給付支出	0	0	0	0	0
福利厚生費支出	25,000	21,000	0	21,000	4,000
助成費支出	1,422,960	1,422,960	-1,422,960	0	1,422,960
会議費支出	1,935,000	1,758,586	0	1,758,586	176,414
旅費交通費支出	255,000	308,190	0	308,190	-53,190
通信運搬費支出	440,000	372,327	0	372,327	67,673
集金費支出	500,000	432,490	0	432,490	67,510
消耗品支出	1,805,000	1,862,877	0	1,862,877	-57,877
備品購入費支出	150,000	0	0	0	150,000
修繕費支出	30,000	0	0	0	30,000
印刷製本費支出	200,000	0	0	0	200,000
光熱費支出	220,000	220,242	0	220,242	-242
火災保険料支出	20,000	19,610	0	19,610	390
租税公課支出	1,000,000	907,800	0	907,800	92,200
建物管理費支出	4,470,000	4,439,343	0	4,439,343	30,657
事務委託費支出	1,370,736	1,370,736	0	1,370,736	0
雑支出	1,799,220	1,683,319	0	1,683,319	115,901
記念事業費支出	4,000,000	2,704,828	0	2,704,828	1,295,172
前受金支出	0	7,781,281	0	7,781,281	-7,781,281
預り金支出	0	5,310,257	0	5,310,257	-5,310,257
前払費用支出	0	2,400	0	2,400	-2,400
仮払金支出	0	2,753,268	0	2,753,268	-2,753,268
貯蔵品支出	0	38,214	0	38,214	-38,214
事業活動支出計	68,240,516	80,236,211	-3,161,072	77,075,139	-8,834,623
事業活動収支差額	-3,461,914	-2,125,785	0	-2,125,785	-1,336,129
Ⅱ 投資活動収支の部					
１．投資活動収入					
特定資産取崩収入					
退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	0	0
記念事業積立預金取崩収入	4,000,000	2,150,000	0	2,150,000	1,850,000
投資活動収入計	4,000,000	2,150,000	0	2,150,000	1,850,000
２．投資活動支出					
特定資産取得支出	436,913	0	0	0	436,913
退職給付引当資産取得支出	436,913	0	0	0	436,913
記念事業積立預金支出	0	0	0	0	0
事業基金積立預金支出	0	0	0	0	0
中期国債ファンド積立支出	0	0	0	0	0
保証金支出	0	0	0	0	0
投資活動支出計	436,913	0	0	0	436,913
投資活動収支差額	3,563,087	2,150,000	0	2,150,000	1,413,087
Ⅲ 財務活動収支の部					
１．財務活動収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	0
２．財務活動支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0
Ⅳ 予備費支出					
当期収支差額	101,173	24,215	0	24,215	76,958
前期繰越収支差額	29,127,820	29,127,820	0	29,127,820	0
次期繰越収支差額	29,228,993	29,152,035	0	29,152,035	76,958

- １．資金の範囲**
資金の範囲には、現金・預金・未収入金及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記２に記載するとおりである。

２．次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金 預 金	42,669,921	28,811,120
未 収 入 金	2,645,550	968,517
合 計	45,315,471	29,779,637
未 払 金	16,187,651	627,602
合 計	16,187,651	627,602
次期繰越収支差額	29,127,820	29,152,035

常設委員会の新設

〔「未来創生プロジェクト」を常設委員会とする件〕

- 理由
昨年度100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」の実現のため、次世代を担う若手が積極的に参加する場「未来創生プロジェクト」を発足させた。このプロジェクトは様々な活動を通じて、建築と社会の未来を探り、創り、育てるとともに人材の発掘・育成を目的としており、当協会の主要事業の一つであることから今回常設委員会とするものである。

- 根拠
定款第37条

- 概要
このプロジェクトは３つの委員会で構成する。
(1) 建築次世代委員会
若年層から大学生までを対象に建築と社会を担う人材育成に資する活動を行う。
(2) 2040委員会
これからの「建築と社会」のあるべき姿を思考（志向、試行）することを目的に活動を行う。
(3) U－35委員会
主に35歳以下の若手設計者が集い、建築の身近にある様々な社会との接点を見つめる活動を行う。

- 設置時期
平成30年 6 月21日

「新しい地平へ」は、一世紀にわたる協会の歴史が歩んできた道のりに思いを馳せ、次の世代へと引き継がれる一歩をしっかりと踏み出すという意味を込めている。

平成30年度事業計画

平成30年 4月1日～平成31年 3月31日

1. 平成30年度の活動方針

平成30年度日本建築協会は、100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため、昨年度スタートさせた「未来創生プロジェクト」と「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールに引き続き取り組む。「未来創生プロジェクト」については、体験型ワークショップや他業種同世代との交流会などの新企画に取り組むとともに、公開型イベントを実施し次世代を担う若手の参加を促す。もうひとつの「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールについては、2年目になることから昨年よりも多くの方が参加しチャレンジできる受け皿になることを目指す。

協会の中心事業である「建築と社会」誌は記事、内容をより一層充実するとともに、時代に応じたテーマによる催しや近代建築物の見学会、講演会、講習会、出版物の企画・発行、建築関係団体等との交流・連携など、数々の活動に引き続き取り組んでいく。

平成30年度予算については、今年度から具体的活動始める「未来創生プロジェクト」の三つの委員会に予算配分を行った。

その他の収支は前年度予算額を基本に、前年度決算額や事業計画を加味し作成した。記念事業については、会員のためのアーカイブ公開システム構築費用及び新たな入会リーフレット作成等の費用に当てるため、記念事業積立預金の繰越額185万円を取り崩す。

安定した事業運営のためには会員の確保による会費収入の維持が最大の課題である。個人や企業に対し協会の役割を積極的にアピールするとともに、魅力あるプログラムを提供し会員の増強を図らねばならない。

個々の事業についても増収、増益を図るための工夫が必要である。特に協会事業のメインである「建築と社会」誌については、広告特集号の有無に左右されない安定した広告収入の確保に力を入れるとともに、会誌発行経費のきめ細やかな抑制を図る等、より一層の努力が求められる。

会誌以外の事業についても経費抑制に努め、事業費の削減を図るとともに管理費についても経費削減に努める。

平成30年度も収入の増、支出の削減を目標に財務体質の強化に努め、事業の活性化を図る。

2. 平成30年度活動計画

(1) 編集委員会

協会の会誌「建築と社会」誌の企画・編集のほか青年技術者及び「建築と社会賞」並びに昨年度創設した「片岡安賞」論考コンクールの顕彰事業を実施する。

①会誌「建築と社会」の発行

- ・大正6年の創立以来、協会活動の中核として会員相互あるいは会員と社会を結ぶ役割を果たしてきた会誌「建築と社会」は、平成30年度もタイムリーな内容の特集として毎月掲載する。
- ・「作品作風」、構造・設備の頁など連載にも引き続き取り組むとともに今年度から新たに「再読関西近代建築」の続編を掲載する。
- ・会員の建築作品や論考、活動報告などについても随時掲載していく。

②青年技術者の顕彰

- ・満35歳以下の青年技術者を対象とする青年技術者顕彰制度は、平成29年度で64回に達し、建築界の優秀な人材を顕彰してきた。平成17年度からその意義をより一層深めるため、表彰式及び受賞者も出席しての懇親会をあわせて実施している。

- ・平成30年度も引続き実施するとともに、「建築と社会」誌に掲載する。表彰式を総会後の懇親会時に行う。

③「建築と社会賞」の顕彰

- ・「建築と社会」誌にふさわしい建築作品や論文、記事などを顕彰する。
- ・平成30年度も「作品部門」、「論考部門」、「審査員特別賞」を引き続き実施するとともに、会誌「建築と社会」に掲載する。表彰式を総会後の懇親会時に行う。

④「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールの顕彰

- ・日本建築協会は、1917年に片岡安らによって設立されて以来、会誌「建築と社会」に多くの優れた論考を掲載し、建築界をリードする役割を担ってきた。
- ・創立100周年を迎えたのを機に、本会が歩んできた歴史を見つめ直し、会誌「建築と社会」がさらに優れた論考の受け皿となり、建築界全体にとって有益な媒体になることを目指して「片岡安賞」日本建築協会論考コンクールを昨年度に引き続き実施する。
- ・この賞は100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため発足したものであり、様々な世代やいろいろの立場の方が広く参加いただける言論のプラットフォームの一翼を担うイベントになることを期待し、今年度も優れた論考を顕彰する。表彰者を会誌「建築と社会」に掲載し、総会後の懇親会時に表彰式を行う。

(2) 事業委員会

著名建築物や茶室、近代建築などの見学会、話題建築を紹介する講演会、研修会などを引き続き実施する。

①情報見学小委員会

- ・新建築や古建築などの見学会や時代に合ったテーマによる講演会などの催しを毎年度実施している。話題建築については、設計者・施工者等から話を聞く場を設けている。
- ・平成30年度は4回程度の見学会を実施するとともに、講演会を1回程度実施する。

②「イケフェス大阪」との連携、協力

- ・昨年度と同じく10月に実施される「イケフェス大阪」と連携、協力したイベントを実施する。

(3) 出版委員会

時代のニーズに即した新しい著書の発掘や建築に関する図書の企画・編集・発行を行っている。平成30年度も引き続き建築に関する図書の企画・編集・刊行を計画しており、意匠系・構造系・設備系の作品を提供する。これまで開催してきた新刊の出版記念講演会だけでなく、既刊図書について生の声を聞く講習会も検討していく。

(4) 教育委員会

建築工実務講習会や工高生を対象とした建築に関するデザインコンクール、優秀な建築系学科卒業生の表彰などを引き続き実施する。また、大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会が実施する諸行事に協力していく。100周年関連事業委員会の解消に伴い、史料研究会は教育委員会に移行する。

①建築工実務講習会の実施

- ・昭和32年以降、毎年主として初・中堅クラスの建築技術者を対象に標記講習会を実施している。平成29年度で延95回を数えている。
- ・平成30度も本部、中国・東海支部でそれぞれ実施する。

②工高生デザインコンクールの実施

- ・工高生の設計技能向上と奨励のため、昭和30年創設以来毎年テーマを変えて実施しており、平成29年度で63回を数えた。平成30年度も引き続き実施する。

③建築系学科優秀卒業生の表彰

- ・研鑽意欲の向上を促し、激励することを目的に

建築系学科優秀卒業生を表彰する。平成30年度も引き続き会員校及び会誌購読校を対象に実施する。

④大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会への参画

- ・平成30年度も引き続き協議会が実施する諸行事に協力する。

⑤史料研究会の運営

- ・「再読関西の建築」を「建築と社会」誌に連載するための企画、編集を行う。

(5) 未来創生プロジェクト

昨年度100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため発足した「未来創生プロジェクト」に引き続き取り組む。

①建築次世代委員会の活動

- ・「学生のための現場見学会」
学生を対象に工事段階の現場見学会を年2回程度実施する。
- ・「(仮称) 学生のための現場見学会 高等学校・工科高校版」
高校生まで対象を下げて工事段階の現場見学会を1回程度実施する。また、大学生対象との同時開催も検討する。
- ・「(仮称) 体験型ワークショップ」
建設に関わる実体験を協会がコーディネートし、生きた体験を提供する。

②2040委員会の活動

- ・若手論客との討論会（2018年7月ごろ開催予定）
「2040年の社会」を議論するにあたり、その主役となるより若い世代の論客との議論を通じて、価値観の持ち方、望む社会像などに潜む世代間の考え方の違いを浮き彫りにし、これからの社会の方向性を、世代を超えてともに考える。
- ・他業種同世代との交流会（2018年12月ごろ開催予定）
建築に携わるメンバーとは価値観やスキルの異なる、同世代の他業種の人たちと「2040年の社会」についてともに議論をしながら、交流を進める。建築に携わるだけでは見えてこない新たな視野を獲得しつつ、ともに新しい社会を模索するメンバーのネットワークを広げていく。

③U-35委員会の活動

- ・委員相互の勉強会「トークバトン」を引き続き開催する。
- ・各年度の活動を総括し、U-35委員会からのアウトプットを広く公開する公開型イベント「action」に引き続き取り組む。平成30年度は20年後の私たちの未来について考える「建築と未来」をテーマに実施する。

(6)「建築と社会」創刊号からのアーカイブ化

- ・100周年を契機に「建築と社会」創刊号からデータ化したバックナンバーの公開を目指す。公開方法などについては、WGを立ち上げ検討していく。

(7) 工事請負契約約款事業

- ・引き続き民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款委員会に委員を派遣する。
- ・引き続き「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」をはじめ、「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」、「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」、「マンション修繕工事請負契約約款」の販売を行う。

(8) 他団体との交流、連携

- ・建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を行う。特に、平成21年度から進めてきた関西建築4団体（大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会）会長・支部長意見交換会での連携活動を引き続き推進する。
- ・平成30年度も4団体が緊密に連携し、共同で

- きることを検討・実行していく。
- ・建築関係団体以外の団体との連携事業も引き続き取り組む。
- (9) 役員派遣
- ・平成30年度も引き続き大阪商工会議所に2号議員として役員1名を、(一財)大阪建築防災センターにも監事として役員1名をそれぞれ派遣する。
- (10) 支部活動
- 〔中国支部〕
- ①指導、宣伝、技術向上事業
- ・「若手・新入社員技術講習会」「中堅社員技術講習会」「建築工事実務講習会」を実施する。
- ②協力事業
- ・行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。
- ③他団体との連絡、連携
- ・官公庁との連絡会や新年互礼会など建築6団体と連携する。
- ④工事請負契約約款の販売
- ・「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」及び「民間（旧四会）連合協定

- リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売する。
- 〔東海支部〕
- ①指導、宣伝、技術向上事業
- ・「講演会・見学会」や「建築工事実務講習会」、「『建築と社会』東海特集号の企画・編集」を行う。
 - ・今年度は海外建築見学会を企画・実施する。
 - ・支部活性化事業として、機関誌「東海の建築」の刊行やホームページの更新、会員名簿を発行する。
 - ・座談会など支部の活動をPRできるイベントを企画する。
 - ・若手会員の交流会「納マリ倶楽部」の開催
 - ・支部復活60周年記念に向けた事業準備を行う。
- ②会議、会合への参加
- ・愛知県建築開発等行政推進団体協議会、中部建築賞協議会など各種団体の会議や会合などに参加する。
- ③協力事業
- ・行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。
- ④他団体との連絡、連携

- ・官公庁との連絡会や新年互礼会など建築8団体と連携する。
- 〔京都支部〕
- ①指導、宣伝、技術向上事業
- ・教育、研究者、建築、造園、各種デザインや文化財関係者等による「講演会」や「見学会」、「研修会」を行う。
 - ・若い世代も参加しやすい事業企画を検討する。（シリーズ企画「木、色、庭」を考えると年4～6回）
- ②協力事業
- ・行政や団体が実施する「講演会」や「2級建築士受験講習会」などの事業に共催、協力を行う。
- ③支部創立70周年記念事業として「建築と社会」特集号を発刊する。
- ④工事請負契約約款の販売
- ・「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」をはじめ「小規模建築物・設計施工一括用工事請負等契約約款」及び「民間（旧四会）連合協定リフォーム工事請負契約書類（書式・約款）」を販売する。

平成30年度収支予算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入				
個人正会費	8,320	8,398	-78	14,400円／1名
個人正会費(地方)	860	874	-14	12,600円／1名
団体正会費	22,800	22,921	-121	25,000円／1口
準会費	25	19	6	8,400円／1名
会費収入計	32,005	32,212	-207	
②支部活動収入	1,417	1,423	-6	本部から支部への活動収入
支部活動収入計	1,417	1,423	-6	
③事業収入				
事業収入	30,964	29,325	1,639	本部及び支部の事業収入
事業雑収入	840	820	20	会員交流会、事業協力金外
事業収入計	31,804	30,145	1,659	
④雑収入	214	206	8	利息、雑損処理後の過年度会費外
⑤記念事業収入	100	200	-100	記念誌の販売収入
⑥支部正味財産増加分繰入	519	593		
事業活動収入計	66,059	64,779	1,280	
2. 事業活動支出				
①事業費支出				
事業関係人件費支出	16,429	16,833	-404	法定福利費含む
事業費支出	27,349	25,933	1,416	本部及び支部の事業費
事業雑支出	300	220	80	会員交流会外
事業費支出計	44,078	42,986	1,092	
②管理費支出				
管理関係人件費支出	5,476	5,611	-135	法定福利費含む
退職給付支出	0	0	0	
福利厚生費支出	23	25	-2	職員福利厚生費
助成費支出	1,417	1,423	-6	本部から支部への活動費
会議費支出	1,985	1,935	50	本部・支部総会外会議費
旅費交通費支出	250	255	-5	旅費、交通費
通信運搬費支出	445	440	5	電話、FAX、メール、郵送等通信費
集金費支出	450	500	-50	会費、グループ会費、広告料集金手数料等
消耗品費支出	2,148	1,805	343	HP維持費、PCソフト、トナー、文房具外消耗品
備品購入費支出	250	150	100	事務所内備品購入
修繕費支出	30	30	0	事務所内修繕
印刷製本費支出	100	200	-100	印刷製本費

科 目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
光熱費支出	220	220	0	電気代
火災保険料支出	20	20	0	火災保険料
租税公課支出	1,000	1,000	0	消費税、法人府市民税
建物管理費支出	4,469	4,470	-1	事務所賃借料等
事務委託費支出	1,078	1,371	-293	支部事務局委託費
雑支出	2,107	1,799	307	監査、保守、協賛、購読、未収金償却外
管理費支出計	21,468	21,254	214	
③記念事業費支出				
記念事業費支出	1,850	4,000	-2,150	アーカイブ公開、記念入会パンフ作成
事業活動支出計	67,396	68,241	-844	
事業活動収支差額	-1,337	-3,462	2,125	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入				
退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	
記念事業積立預金取崩収入	1,850	4,000	-2,150	記念事業費に充当
投資活動収入計	1,850	4,000	-2,150	
2. 投資活動支出				
①特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	366	437	-71	30年度末要支給額引当て
記念事業積立預金支出	0	0	0	
特定資産取得支出計	366	437	-71	
投資活動支出計	366	437	-71	
投資活動収支差額	1,484	3,563	-2,079	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	146	101	45	
前期繰越収支差額	28,633	29,128	-494	
次期繰越収支差額	28,780	29,229	-449	

(注) 前期繰越収支差額には、29年度決算額（支部正味財産増加分繰入額を除く）を充当している。

(注) 平成30年度については、借入限度額を30,000,000円とする。

平成30年度

日本建築協会役員会務分掌

平成30年 6 月21日現在・順不同・敬称略

役付役員

会 長	設楽 貞樹	（株）安井建築設計事務所
副会長	米井 寛	（株）東畑建築事務所 会長職務代行 総務・財務担当
副会長	田中日出男	（株）きんでん 会勢担当
副会長	天野 直樹	（株）竹中工務店 編集担当
副会長	川口 晋	（株）大林組 事業担当
副会長	* 田坂 隆之	大阪ガス（株） 研修担当

理事 ◎印は常任理事 ○印は委員長

（総務）5 名		葛田 守弘	（株）鴻池組
大林 剛郎		（株）大林組	
栗原 信英		栗原工業（株）	
佐野 吉彦		（株）安井建築設計事務所	
立野 純三		（株）ユニオン	
◎○山形 政昭		大阪芸術大学	
（財務）3 名		奥村太加典	（株）奥村組
今西 邦夫		（株）今西組	
* 中野 健生		東リ（株）	
（編集・出版）8 名		◎○中尾 勝悦	中尾総合建築設計事務所
◎○西 博康		清水建設（株）	
松崎 公一		鹿島建設（株）	
佐藤 榮一		（一社）日本建築材料協会	
竹中 統一		（株）竹中工務店	
杉本 浩		（公財）建築技術教育普及センター	
船越 淳久		関西電力（株）	
◎ 吉村 英祐		大阪工業大学	
◎○勝山 太郎		（株）日建設計	
（会勢）10 名		浅沼 健一	（株）浅沼組
告野 満彦		野里電気工業（株）	
葛田 守弘		（株）鴻池組	
池田 耕二		清水建設（株）	
近藤 徹		不二熱学工業（株）	
光用 薫		戸田建設（株）	
寺田 靖		（一社）大阪建設業協会	
篠原 佳則		（株）安井建築設計事務所	
高松 隆夫		広島工業大学	
中井 進		日建設計コンサルクォン・マナジメン（株）	
（事業）6 名		◎○中尾 勝悦	中尾総合建築設計事務所
児玉 謙		（株）日建設計	
城口 俊雄		（株）大阪城口研究所	
酒井 祥三		西松建設（株）	
中嶋 功		（株）熊谷組	
* ◎○中村 文紀		（株）東畑建築事務所	
（研修）6 名		富永 昌雄	八千代電設工業（株）
長瀬 博一		（有）長瀬建築研究所	
金井 隆夫		大成建設（株）	
梶山 卓二		（株）昭和設計	
永原 穰		王建工業（株）	
本多 友常		本多環境・建築設計事務所	
常務理事	森本 勉	役付役員含む理事合計45名	

監事	三木 徹	（株）安井建築設計事務所
	前田 隆司	（株）前田商会

顧問	塩野 孝行	（株）都市再生機構
----	-------	-----------

* 印は新任

平成30年度

日本建築協会評議員名簿

議長：赤松 千州 副議長：嘉納 秀一

平成30年 6 月 1 日現在・順不同・敬称略

技術 1	赤松 千州	(株)東畑建築事務所	
総合 11	薮内 昭男	(株)浅沼組	* 渡津 弘己 (株)鴻池組
	* 寺内 伸	(株)安藤・間	浅野 博光 (株)奥村組
	川上 宏伸	(株)大林組	毛利 俊彦 三井住友建設(株)
	林 伸昭	戸田建設(株)	田中顕三郎 田中建設(株)
	中道 正伸	(株)中道組	藤井謙太郎 藤井建設(株)
	原 眞一	コーナン建設(株)	
電気 4	北村 康一	(株)きんでん	嘉納 秀一 三宝電機(株)
	森 博明	三和電気土木工事(株)	嶋田 雅景 (株)クリハラント
空調 3	* 辻 武寿	(株)精研	若林 尚史 若林設備工業(株)
			* 金子 達哉 (株)三冷社
建材 2	森村 泰明	森村金属(株)	深江 隆司 アスワン(株)
中国支部 2	* 尾野本 悟	広島工業大学	村重 保則 現代設計(株)
東海支部 6	福田 泰造	福田泰造建築事務所	加藤 武範 (株)メックステクノ東海
	河田 克博	名古屋工業大学	土井 敬三 (株)竹中工務店
	佐伯 博	ひろ建築企画	松元 親司 (株)東畑建築事務所
京都支部 3	高田 光雄	京都美術工芸大学	伊熊 昌治 伊熊昌治建築設計事務所
	菅澤 茂	環境文化保存計画菅澤1級建築士事務所	

32名 *は新任

平成30年度

日本建築協会支部長（順不同・敬称略）

中国 高松 隆夫 広島工業大学

東海 篠原 佳則 （株）安井建築設計事務所

京都 長瀬 博一 （有）長瀬建築研究所

平成30年度

日本建築協会委員

下記のとおり各委員会委員を委嘱しました。

◎委員長 ○副委員長 ▲小委員会委員長 △幹事 ☆顧問 *30年度新委員
(所属名は略称 順不同・敬称略)

■編集委員会 (82名)

会誌「建築と社会」の企画、編集。

- ◎ 勝山 太郎／日建設計
○ 戸川 勝之／安井建築設計事務所

●特集小委員会

計画分科会

〈計画系分科会〉

- 飯田 匡／大阪大学大学院
鈴木 克彦／京都工芸繊維大学大学院
△ 田中 直人／島根大学大学院
松田奈緒子／大阪産業大学
守井 辰／日建設計
吉村 英祐／大阪工業大学

〈建築計画系分科会〉

- 神戸 嘉也／大林組
△ 桑原 悠樹／竹中工務店
下坂 浩和／日建設計
中辻 浩介／ジェアール西日本コンサルタンツ
東 拓郎／東畑建築事務所
樋口 展寛／鴻池組
松岡 英緯／大建設
三谷 帯介／鹿島建設
米山 剛史／UR設計
渡部 剛／安井建築設計事務所

〈インテリア・住宅系分科会〉

- 赤川貴世友／安井建築設計事務所
今井 充彦／日建スペースデザイン
岩田 圭司／UR都市機構
川合 隆之／積水ハウス
河西 孝平／大林組
△ 黒柳 亮／竹中工務店
塚口 洋之／塚口洋之設計事務所
ペリー史子／大阪産業大学

構造分科会

- * 宇野 綾真／北條建築構造研究所
岡田 健／日建設計
岸本 光平／竹中工務店
瀧野 敦夫／奈良女子大学
△ 角田 耕一／大林組
* 蘆原 学／ZEN建築構造事務所
* 松本 裕之／安井建築設計事務所
宮久保秀樹／鴻池組
向井 洋一／神戸大学大学院

設備分科会

- 有尾清二郎／竹中工務店
木谷 晃之／コイズミ照明
北野 勝也／きんでん
佐々木章二／総合設備コンサルタント
寺井 千佳／安井建築設計事務所
夏井 重行／元・富士ネオ工業
△ 橋本 直樹／日建設計コンストラクション・マネジメント
梶井 貴廣／総合設備コンサルタント
宮崎ひろ志／関西大学
森山 正和／摂南大学前教授
山本 雅洋／大林組

施工材料分科会

- * 門野 陽／鴻池組
桜井 和男／竹中工務店
△ 高橋 秀一／大和ハウス工業
藤丸 啓一／清水建設
山口 紀宏／大林組
山崎 順二／浅沼組
吉田 正友／大阪工業大学

- * 吉居 哲／鹿島建設

法令分科会

- * 植平 浩司／兵庫県
* 岡田 耕介／京都市
△ * 垣内 明／堺市
河野 学／京都市住宅供給公社
* 高田 大輔／奈良県
* 福岡 誉顕／神戸市

●作品作風小委員会

- ▲ 東井 嘉信／大林組
居内 章夫／徳岡設計
池上 明／エー・アイ・アーキテクトスタジオ
稲垣 和江／イナガキケンチクケンキュウショ
太田 栄治／高松建設
加嶋 章博／摂南大学
菊池 浩輔／安井建築設計事務所
倉渕奈千子／田中啓文総合建築研究所
澤田 純一／兵庫県県土整備部
高木 秀晃／昭和設計
鞆野 淳司／竹中工務店
西田 佳代／日建設計
芳谷 晴彦／清水建設
平野 尉仁／東畑建築事務所
増田 敬彦／増田敬彦一級建築士事務所

●広告企画小委員会

- 小川 雄介／竹中工務店
小山 昭／東畑建築事務所
金築 雄／清水建設
野山 将男／大林組
藤田 昌宏／安井建築設計事務所
▲ 前田 衛／日建設計
山辻 直樹／大成建設

■事業委員会 (18名)

見学・講演・説明・展示・懇親会などの企画、実施。

- ◎ 中尾 勝悦／中尾総合建築設計事務所

●情報見学小委員会

- 大平 卓磨／竹中工務店
大森 雅人／清水建設
奥村 朋孝／鴻池組
○ 小平 弥史／昭和設計
小林 正和／大林組
阪口 浩平／きんでん
島田 正和／日建設計
田崎 祐生／武庫川女子大学
梶田 豊／ジェアール西日本コンサルタンツ
寺西 興一／大阪府登録文化財所有者の会

- 豊田 充広／高松建設
▲ 中尾 勝悦／中尾総合建築設計事務所
夏井 重行／元・富士ネオ工業
沼田 典久／久米設計
樋上 新治／ラシンプランニング
宮本 克己／鹿島建設
森 雅章／安井建築設計事務所
脇田 隆史／東畑建築事務所

■出版委員会 (11名)

建築に関する図書の企画・編集・刊行、ならびに講座の企画、実施。

- ◎ 西 博康／清水建設
* 伊藤 由章／きんでん
上原 正行／U建築工房
菅原 敏晃／竹中工務店
玉水 新吾／ドクター住まい
仲本 尚志／atelier UNI-SUPPORT
西尾 徹／きんでん
藤山 宏／造景空間研究所
堀野 和人／スマイリズム
山浦 晋弘／安井建築設計事務所
* 弓崎 幸治／東畑建築事務所

■教育委員会 (26名)

建築教育についての調査・研究・講習会の企画・実施ならびに工高生デザインコンクールの企画、実施。「再読関西の建築」を「建築と社会」誌に連載するための企画、編集。

- ◎ 山形 政昭／大阪芸術大学

●講習会小委員会

- 阿字地正人／大林組
* 東 琢／鴻池組
川井 裕基／鹿島建設
北野 祥児／清水建設
* 谷本 達哉／浅沼組
* 福島 祥司／戸田建設
松田 繁／竹中工務店

●工高生教育小委員会

- 岡田 依子／大阪市立工芸高等学校
門脇 裕之／大阪市立都島工業高等学校
白川 陽子／今宮工科高等学校
* 田中おと吉／修成建設専門学校
▲ 谷口 幸雄／日建設計コンストラクション・マネジメント
中村 真二／東畑建築事務所
永島 敏郎／安井建築設計事務所
* 成田 雄大／中央工学校OSAKA
* 宗林 功／大阪工業技術専門学校
矢倉 鉄也／大阪市立都島工業高等学校
* 吉田 裕彦／大阪工業技術専門学校

大阪府住まいづくり教育普及協議会

●史料研究会

- ▲ 橋寺 知子／関西大学
石田潤一郎／京都工芸繊維大学前教授

- 植松 清志／植松建築事務所
桐浴 邦夫／京都建築専門学校
山形 政昭／大阪芸術大学
* 福原 和則／大阪工業大学
* 三宅 拓也／京都工芸繊維大学
☆ 坂本勝比古／神戸芸術工科大学名誉教授

■未来創生プロジェクト (38名)

100周年記念事業のテーマである「新しい地平へ」を実現するため、体験型ワークショップや他業種同世代との交流会、公開型イベントの企画、実施。

- ◎ 中村 文紀／東畑建築事務所

●建築次世代委員会

- ▲ 菅原 幸也／日建設計コンストラクション・マネジメント
* 入江 真吾／大林組
大村 泰正／清水建設
門野 陽／鴻池組
川上比奈子／摂南大学
* 朽木 義綱／大阪工業大学
松田 繁／竹中工務店
松村 明／安井建築設計事務所

●2040委員会

- * 清原 健史／安井建築設計事務所
國本 暁彦／竹中工務店
黒川 祐樹／日建設計
△ 駒井 陽次／Style Agency/PARK Lab.
中村 祐記／大林組
平野 尉仁／東畑建築事務所
吉永 規夫／Office for Environment Architecture

●U-35委員会

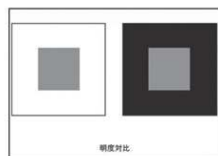
- * 石井衣利子／梓設計
* 磯村 雅敏／高松建設
興津 俊宏／竹中工務店
鬼頭 朋宏／大成建設
小林 敬政／大建設
小原 信哉／山下設計
駒井 陽次／Style Agency/PARK Lab.
下田 康晴／東畑建築事務所
関村 光代／昭和設計
高畑貴良志／日建設計
* 立松 裕規／東畑建築事務所
辻本 知夏／安井建築設計事務所
出来 佑也／昭和設計
平岡 翔太／大建設
廣富 純／佐藤総合計画
* 広瀬 和也／東畑建築事務所
三谷 帯介／鹿島建設
箕浦 浩樹／大林組
△ 宮武 慎一／安井建築設計事務所
森下 大右／昭和設計
吉田 悠佑／大林組
若江 直生／日建設計

全175名

渡辺安人氏 講演会

カラーテクニカルコンサルタント
(アーキタイプ工房)「生活環境の色彩心理生理・
和の色彩感覚と景観調和」主催：(一社)日本建築協会京都支部
共催：(公社)日本建築家協会京都地域
会・事業委員会文化財担当委
員会

「色彩」の知識素養は法規にはないので、建築士資格試験の範疇には含まれていません。そのため、建築学科に「色彩学」の講義が無い大学が多くあります。その結果、建築士は、色彩に関して理論的な知識が無いままに、戸建住宅から高層ビルまで、インテリア、外観共に各自の嗜好や美的センスだけに頼って色選定を行っている状況が大半ではないでしょうか。目に見えるものには全て色があります。意識せずとも色は人間の心理生理に多大な影響を与えており、色一つで快適にも不快にもなります。また外観は都市景観形成にも影響を与えています。今回は特に①色選定時に注意すべき色彩心理生理に関する内容と②日本の都市景観に相応しい外観色彩の考え方について考察します。



日時 2018年 7月20日(金)
18:30~20:30(質疑30分含む)
定員 25名(先着順)
参加費 会員1,000円、一般1,500円、
学生 500円
会場 京都建設会館別館4階会議室
(京都市中京区押小路通柳馬
場東入橋町641)
最寄駅 地下鉄東西線「市役所前」駅
より徒歩7分、地下鉄烏丸線
「烏丸御池」駅より徒歩10分

■申込方法

①講演会名「7/20渡辺安人氏講演会」
②氏名、③勤務先名、④当日連絡先、
⑤E-mailアドレスまたはFAX番号、
⑥日本建築協会会員/日本建築家協会
会員/一般(非会員)/学生の別
上記項目を明記しFAXにて京都支部へ
お申し込みください。

■申込先 (一社)日本建築協会京都支部
事務局 FAX 075-255-6077

■講師プロフィール

渡辺安人

(わたなべ やすと)

1986年総合色彩コン

サルタント(株)日本カ

ラーテクノロジー研

究所設立参画。専務取締役を経て1999

年退職。現在、アーキタイプ工房とし

て個人活動。一級カラーコーディネー

ター [環境色彩]、二級建築士。

現在、多数の大学で色彩学非常勤講師、

企業研修、セミナーなどの講師。日本

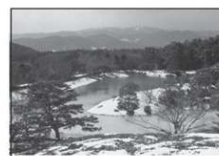
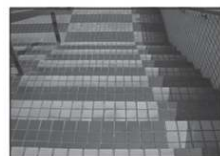
色彩学会会員「街の色研究会・京都」

副会長、長岡京市景観デザイン審査会

委員、京都府景観アドバイザー他。

著書『色彩学の実践』『建築と色彩

(共著)』共に学芸出版社。

第1回学生のための
現場見学会「国立循環器病
研究センター移
転建替整備事業」

当プロジェクトは、JR岸辺駅周辺に健康や医療関連の機能集積が進む北大阪健康医療都市開発のメイン事業である国立循環器病研究センターの移転建替整備事業です。心臓病と脳卒中を対象とした世界でも稀有な最先端の予防・治療・研究施設で、オープンインベーションを推進させる病院・基盤センター・研究所の一体的な施設づくりを実現しています。

設計の川上段階から生産性向上の構工法を盛り込み、免震装置上部柱脚の鉄骨化をはじめ、躯体はPca柱、梁Sのハイブリット構造等、多様な省力化・省人化工法に取り組みました。見学当日は躯体工事がほぼ完了し、内外装仕上げ工事を中心に見学することができます。またBIM活用による施工についてもご紹介します。

建築主 国立研究開発法人 国立
循環器病研究センター
基本設計・監理 (株)佐藤総合計画
実施設計 (株)日本設計、(株)竹中工務店
施工 (株)竹中工務店
日時 平成30年 7月 9日(月)
13:30~16:30(予定)
受付 13:00~
講師 (株)竹中工務店ご担当者
所在地 大阪府吹田市岸部新町1番
最寄駅 JR岸辺駅から徒歩7分
阪急正雀駅から徒歩15分
集合 国立循環器病研究センター
作業所事務所
(詳細は参加証に記載)

定員 30名(先着順)
参加費 500円(保険代)
締切日 平成30年 7月 5日(木)
*ただし定員になり次第、締め切らせていただきます。

申込方法 ①催し名
②学校名・学部・学科
③学生氏名(ふりがな)・
学年
④引率者 職名・氏名
(ふりがな)
※学生のみの場合不要
⑤参加証送付先住所
⑥連絡先電話番号・E-mail
上記項目を明記しFAX (06-6946-6984)
か、E-mail (jigyoka@aaj.or.jp) にて
お申し込みください。(担当：内山)



(仮称) デサントR&D センター見学会

日 時
2018年7月24日(火)
14:30~16:30
(予定)

見学先 (仮称)デサントR&Dセンター
所在地 茨木市彩都やまぶき二丁目
3番2号

締め切り
7月16日(月)

※ただし定員に達し次第、締め切らせていただきます

(仮称) デサントR&Dセンターはスポーツブランドのトップメーカーである株式会社デサントのオリンピックに向けたウエアの開発拠点です。最先端の実験、解析、試験、製作環境を整備し、「世界一、速いウエアを作る。」をコンセプトとして、人が集まり共創できる場、最先端技術の創造・発信の場を目指しています。特徴的な分節屋根は敷地環境に流れるベクトルとデサントスピリットである滑降をオーバーレイされ、ブランドイメージとスポーツの躍動感を表現しています。建物形状は屋根形状、軒の長さ、ハイサイドライト高さ、柱形状などをパラメトリックに検証することで、ブランドイメージの表現と設備環境(光・風・熱)、構造最適化の双方から意匠、構造、設備の最適な形状を導いています。

建物中央の2層吹き抜けの執務空間はデザインをすぐにカタチにし、テストする環境(実験・解析・試験・測定)を実現するため、すべての部屋が執務空間に隣接し、見える化を図っています。また緑豊かな周囲への眺望を確保しながら、大庇と横ルーバーによる日射遮蔽、ハイサイドライトによる自然採光、自然通風を確保した快適な光・温熱環境を創出し、研究者の創造性と生産性の向上を図った計画としています。

(有田博・岩崎宏/株竹中工務店)

講 師 株式会社竹中工務店
有田博氏・岩崎宏氏(予定)
集 合 現地(参加証に地図記載)
最 寄 駅 大阪モノレール彩都線
彩都西駅下車徒歩約10分
定 員 30名(先着順)
参 加 費 会員1,000円/一般1,500円
学生500円
申込方法 ①催し名
②氏名(フリガナ)
③会員・一般・学生の別
④職場名または学校名
⑤郵便番号・住所
⑥当日連絡先電話番号
⑦CPD申請される方は申請
先の団体名とID番号

上記を明記しFAXかE-mailにて申込先まで
申 込 先 一般社団法人日本建築協会
TEL: 06-6946-6981
FAX: 06-6946-6984
E-mail: jigykoka@aaaj.or.jp (担当: 内山)



南東外観



デサント共創スペース

【概要】

建 築 主 株式会社デサント
設 計 株式会社竹中工務店
施 工 株式会社竹中工務店
敷地面積 約22,220㎡
建築面積 約3,389㎡
延べ面積 約4,309㎡
構造規模 S造 地上2階
竣工年月 2018年7月
主 用 途 事務所

この見学会は、建築CPD情報提供
制度認定プログラム申請中です。
(2単位)

平成30年度 第64回工高生デザインコンクール

設計課題 みんなの「こども食堂」

課題の趣旨

こども食堂は子どもやその親、および地域の人々に対し、無料または安価で栄養のある食事や団らんを提供するための社会活動の場です。

こども食堂を利用する対象者は様々で、一緒に食べる家族がいない「孤食」、いつも同じものを食べる「個食」、一種類しか食べ物が無い「固食」等、これらの「こしょく」や食事を抜きがちな「欠食」を解消するための活動が大きな機能のひとつであると考えられます。



こども食堂の歴史はあまり長くはありません。地域で見かけることも少ないかもしれません。しかし徐々にその数は増えています。

こども食堂は、子どもたちだけでなく地域とのつながりを生む場となるかもしれません。あなたが考える空間で暖かいごはんとながりを提供する、新たなみんなの「こども食堂」をオープンさせてください。

設計条件

1. 敷地：敷地の大きさ形状とも自由とし、具体的な敷地を設定する。
2. 規模：延べ面積、構造、階数は自由とする。
3. 所要室：使用方法を想定し、必要と思われるスペースを適宜設ける。

所要図等

1. 設計説明：設計意図を表すサブタイトルを必ずつけること。設計趣旨（建物の使い方、立地、周囲の状況等についての説明を含む）を記入すること。
2. 建築概要：敷地面積、建築物の構造、階数、各階床面積および建築面積、延べ床面積などを示す。
3. 敷地周辺図：敷地周辺の環境や状況を示す。縮尺を明示する。
4. 配置図：敷地における建物の位置、道路との関係、方位、縮尺を明示する。
5. 平面図：室名、寸法を記入する。縮尺を明示する。
6. 立面図：縮尺を明示する。（2面以上）
7. 断面図：室名、寸法を記入する。縮尺を明示する。（1面以上）
8. 透視図等：設計意図が最も反映するところを表現する。透視図は手書きによる作図を原則とするが、コンピュータグラフィックス、模型写真に代えてもよい。その他必要とされる手書きの図面は加えてもよい。
9. その他：応募図面には、氏名や学校名、マークなど応募者を特定あるいは類推できる内容は記載しないこと。

応募条件

1. 用紙：用紙はケント紙などの厚手の製図用紙A1判（594mm×841mm）1枚を使用し、直接描くこと。トレーシングペーパーと裏打ち用紙の重ね使用や図面のパネル化は認めない。
2. 仕上げ：所要図等は手書きによる鉛筆仕上げとする。（作図、文字）ただし、色鉛筆による着色は可。また、所要図等のうち、透視図（コンピュータグラフィックスも含む）、模型写真のほか、設計説明を補完する図や写真などは用紙に貼り付けてもよい。なお、製図用紙への図表等の印刷出力など上記以外の仕上げは禁止する。

審査員（50音順・敬称略）

審査員長 大平 滋彦／㈱竹中工務店大阪本店設計部設計第4部長
審査員 一階 聡之／㈱日建設計設計部門設計部長
小笠原 絵理／間工作舎一級建築士事務所主宰
神谷 浩司／㈱大林組大阪本店建築事業部プロジェクト設計部副部長
河崎 昌之／和歌山大学システム工学部環境システム学科准教授

戸川 勝之／㈱安井建築設計事務所設計部設計主幹
橋本 修／㈱昭和設計執行役員プロジェクト推進室室長
前田 茂樹／大阪工業大学工学部建築学科准教授
宮本 雅弘／㈱東畑建築事務所設計室部長
矢田 朝士／ATELIER-ASH主宰

このコンクールは、高校生の設計技能の向上を目的とし、昭和30年より毎年テーマを変えて開催しています。

3. 応募資格：平成30年4月現在、高等学校在籍の生徒で、個人または共同（3人まで）で制作したものとする。

応募方法

1. 応募書類に、学校名・所在地・学年・氏名を記入の上、封筒に入れ密封し、製図用紙の裏に貼りつけること。（応募書類が足りない場合は協会ホームページ（<http://www.aaj.or.jp>）からダウンロードしてください。また封筒の貼り付けは、封筒がはがれない程度で結構です。図面を破損する恐れがありますので、糊のベタ塗りはしないでください。）
2. 応募作品は学校を通じて提出すること。

締切期日

平成30年9月30日（日）の消印、あるいは受付印のあるものをもって締め切る。

送付先

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMM7階
一般社団法人 日本建築協会 第64回工高生デザインコンクール係
TEL：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984
E-mail：jigyoka@aaj.or.jp URL：http://www.aaj.or.jp

入選作品の数および賞

1. 入選作品は10点とする。
 2. 入選作品のうちから最優秀賞1点、優秀賞2点を選ぶ。
 3. 最優秀賞・優秀賞作品には、賞状および表彰盾を贈り、その他の入選作品には、賞状を贈る。
 4. 応募者全員に参加賞を贈る。
- ※入選作品の著作権は本会に属する。

入選発表および表彰式

審査の結果は、各学校ならびに本人に通知するほか、本会の会誌「建築と社会」11月号に発表し、入選作品は翌年1月号に掲載する。表彰式は、平成30年11月10日（土）に行う。

一般社団法人 日本建築協会
片岡安賞
(日本建築協会論考コンクール)
第2回 募集要項

趣旨

日本建築協会は、1917年に片岡安らによって設立されて以来、会誌『建築と社会』に多くの優れた論考を掲載し、建築界をリードする役割を担ってきました。昨年創立100周年を迎えたのを機に、本会が歩んできた歴史を見つめ直し、会誌『建築と社会』が更に優れた論考の受け皿となり、建築界全体にとって有益な媒体となることを目指します。この目的に則り、昨年より論考コンクールを実施し、優れた論考を顕彰し、会誌『建築と社会』に掲載することとなりました。ふるってご応募ください。

■募集テーマ：建築をつくるひと—これからの姿を問う

すまいや公共建築物から私たちのまちまで、更には社会の様々な制度や仕組みまで、「建築」は多様なモノやコトや行為を含みます。これらを「つくる」には、発案し企画し合意し予算をつけ発注し計画し設計し施工し維持し使い保ちしてゆくあらゆる活動が関わり、多くのひとびと—専門家も素人も—の営みが求められます。これらの多様で錯綜した姿は、あるいはその任意の断面は、これからどのようになるか、あるべきか、その想いや答えを描いて下さい。

■審査委員会

審査委員長：舟橋國男（大阪大学名誉教授）
審査委員：岩前 篤（近畿大学教授）
花田佳明（神戸芸術工科大学教授）
山浦晋弘（安井建築設計事務所）
勝山太郎（本会編集委員長）

■審査方法

- ・全審査委員による査読の上、一次審査を行う。
- ・一次審査により選出されたものを対象とし、公開プレゼンテーションを開催する。その後最終審査を行い、受賞論考を決定する。

■応募条件

- ・投稿料は無料とする。なお選考に伴う旅費は応募者の負担とする。
- ・応募者の国籍、年齢、所属は問わない。
- ・応募論考は単著、共著を問わない。
- ・応募論考は未発表のものに限る。ただし、会誌『建築と社会』に掲載された記事の改稿による論考は可とする。
- ・使用言語は日本語に限る。
- ・質問は受け付けない。
- ・受賞者は本会会員になることとする。

■著作権・版權

- ・著作権は応募者に帰属する。
- ・ただし本会にかかわる出版・印刷においては、一般社団法人日本建築協会が自由に使用することができるものとする。

■執筆要領

- ・頁数は、会誌『建築と社会』掲載時4頁（12,000文字程度）。
- ・必要事項を記入した応募用紙とともに担当窓口へメール送付もしくはA4サイズに印刷したものを郵送する。
なお、応募用紙は本会ホームページからダウンロードする。
- ・電子データにて提出する場合、文書作成ソフトWord（Microsoft社）もしくはそれに類するもので原稿を作成する。添付画像は解像度300dpi以上とし、合計10MB以上になる場合は分割して送信すること。

■スケジュール

2018年	
5月	募集要項公開
10月31日	応募締切（消印有効、電子投稿の場合23時50分）
11月～1月31日	一次審査
2019年	
3月上旬	一次審査通過論考の公開プレゼンテーション 及び最終審査会開催（詳細は『建築と社会』に掲載）
5月	受賞論考・著者名発表（『建築と社会』2019年5月号）
6月	論考本文を会誌『建築と社会』2019年6月号に掲載
6月	表彰式（一般社団法人日本建築協会定時総会）

※なお後日受賞論考に基づく講演会・討論会を開催することがある。

■発表と表彰

- ・受賞論考の論題と著者名を会誌『建築と社会』2019年5月号にて発表し、全文を6月号に掲載する。
- ・同6月の本会総会にて表彰し、受賞論考著者には賞状及び副賞を贈る。

■提出先

一般社団法人日本建築協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMM7F
電話 06-6946-6981
メールアドレス<hensyu2@aaaj.or.jp>

主催：一般社団法人 日本建築協会

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMM7F TEL 06-6946-6981 FAX 06-6946-6984 URL <http://www.aaaj.or.jp>
後援：（公社）大阪府建築士会、（一社）大阪府建築士事務所協会、（公社）日本建築家協会近畿支部、（一社）日本建築学会近畿支部

『建築と社会』 平成31年2月号
「第25回 会員作品特集号 “私の空間作法”」
作品募集

モノクロ
掲載無料



『建築と社会』2月号では、会員作品発表の場として「第25回会員作品特集号 “私の空間作法”」を企画しています。対象は、建築・ランドスケープデザイン・インテリアデザイン・まちづくり・アート等、空間に関わるすべてとし、完成作品、計画案を問いません。また表現方法は、写真、CG等の別を問いません。

■掲載内容

1. 写真：外観、内観、ディテール、模型写真等。（プリントの場合、サイズはキャビネ判程度。電子データの場合、解像度300dpi以上）
CGやパース、コンセプト図等でも可。
2. 説明文：①ページタイトル（作品名称とは別に検討してください）、②作品についての考えを300字程度にまとめた文章。
3. 概要：作品名称、所在地、設計者、施工者、建築面積、延床面積、構造規模、工期など。

※イラストレーターで原稿作成用のフォーマットをご準備しています。必要であれば、予め担当までご一報ください。

■掲載に際しての補足

1. 応募できる人は、本会会員に限ります。
入会は日本建築協会ホームページ（<http://www.aaj.or.jp/>）の入会フォームからお願いします。
2. 写真の撮影者名は必ず付記願います。
写真に著作権等が生じる場合は、応募者にて処理願います。
3. 掲載ページ数は、原則として1社（1人）1頁とします。また、竣工予定の作品を掲載希望の場合、写真等の原稿期日は配慮いたしますので、ご連絡ください。
4. 建物の特徴や特殊な事柄については、簡単な補足説明をお願いする場合があります。
5. 作品の掲載順および誌面レイアウトの修正を含む特集全体の構成は、作品作風小委員会にて担当いたします。
6. カラー掲載をご希望の場合は、応募時にご一報の上、30,000円をご負担ください。

■掲載申込締切日および原稿送付先

1. 掲載申込締切日：
2018年10月18日（木）
2. 送付先：（一社）日本建築協会
「会員作品特集号」係
〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
E-mail: hensyu@aaj.or.jp
担当：井筒

会員のみなさの
個性あふれる作品のご応募を
お待ちしております

建築と社会

Architecture and Society
Journal of the Architectural Association of Japan

日本建築協会

2018 07

Vol.99 No.1156

■特集予告

● 8月号／平成と建築

● 9月号／木造建築物利用円滑化の取り組み(仮)

| 今月の表紙

昭和5年は1月号の『昭和4年建築大観』に始まり、学校建築、ホテル、住宅、郷土建築、工場と倉庫や建材まで多彩なテーマを取り上げて特集を組んでいます。また、特集とは別に臨時増刊号として「学校建築圖集」を発刊しました。

いろいろな懸賞の募集が掲載され、主催した懸賞の他、日本生命館新築懸賞や京都美術館建築設計懸賞の入選作が紹介されています。

郷土建築特集で紹介された建物の写真についての問い合わせが多くあったため、写真を実費頒布する広告が数ヶ月にわたって掲載されています。現在のように簡単に画像を複製できない時代の会員サービスなのかもしれません。

特集 第65回青年技術者

■設計・計画部門

太田 匠哉	●名古屋市営金城ふ頭駐車場、名古屋センタービルワークスペース再構築、熱金銅業熱田賃貸マンション	22
太田 裕人	●三井不動産ロジスティクスパーク日野(MFLP日野)、イワタニ水素ステーション東京池上	23
岡 隆裕	●六甲学院中学校・高等学校 本館、新居浜市総合文化施設・美術館 あかがねミュージアム、ダイキン工業 テクノロジー・イノベーションセンター	24
金子 公亮	●金光教大阪センター、松江市総合体育館、和歌山地方合同庁舎	25
久家 一哲	●太陽の塔内部再生プロジェクト 一芸術作品から力強くメッセージを発する建築物へ、御影公会堂耐震改修 一利用者の思いの詰まった建物を次の世代に引き継ぐ、川西市市民体育館 一ひと・まち・自然をスポーツでつなぐ	26
芝井 健一	●PEVEアリーナ「結(むすび)」、モリの子保育園、藤田保健衛生大学病院	27
下田 康晴	●長門市新庁舎、上村工業 新中央研究所、中穂積の家	28
伊達 翔	●加古川中央市民病院、日本生命病院、林病院	29
鶴見 博之	●銀座3丁目Dビル、丸本組本社ビル、カネカ未来創造館、吉城岡周辺地区保存管理・活用事業	30
鳥海 宏太	●浜松信用金庫 湖東支店、浜松信用金庫 高丘支店、大垣共立銀行 豊橋支店	31
中島 慎一	●奈良県農業研究開発センター及びなら食と農の魅力創造国際大学校、京都工芸繊維大学旧3号館改修	32
西山 尚希	●トラスコ中山プラネット大阪 「ものづくり工房」、那覇空港隣接ターミナル施設「新しい沖縄の玄関口」	33
松下 拓真	●瀬戸みどりのまち病院、三重大学医学部付属病院外来診療棟・外構整備	34
山崎 篤史	●寺岡整形外科病院、Kビル、川崎医科大学総合医療センター	35

■構造部門

赤澤 資貴	●最上級の安心と安全性とともに想いを「かたち」にした構造計画の追求 ～深江竹友寮建替計画～	36
朝日 智生	●新日鐵住金技術開発本部尼崎/守衛所 企業イメージを発信するユニット式薄板構造、神戸学院大学附属高等学校/体育棟 単純な接合で構成する確実性の高い多角形フレーム	37
西槇 毅	●茶業研究所「直交集成板」と「流通製材」による木造平屋建て研究所	38
野口 浩平	●2棟の板状マンションを免震層直上で接続した免震構造	39
花房 広哉	●制震装置を用いた偏心制御設計	40
宮脇 正尚	●V字形状を有する免震構造板状集合住宅	41
渡邊 祥	●「伊勢」に呼応した架構デザイン 一三重交通G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場	42

■設備部門

小林 佑輔	●ケイ・オプティコムビルにおける設備計画	43
高根澤 武	●小学館ビル 一働き方をかたちにした建築・構造・設備一体の建築物、アクティオホールディングス統括工場 一材料と効果のコストバランス	44
田中 祐輔	●西新橋スクエア 高レンタル比と室内環境向上の両立、DLXビルディング デザインと構造・設備の融合	45
中尾 善弘	●清水建設株四国支店における電気設備計画とエネルギー分析	46
中山 和樹	●最先端省エネルギービルの建設と新しいタスクアンビエント空調の開発	47
貫名 篤郎	●北九州病院における災害拠点病院における非常時の自立を支える地産地消の省CO2システム、日東電工茨木事業所inovastにおける多彩な研究内容にフレキシブルに対応する設備システム	48
横山 輝明	●リマニット・モーター 藤田展示場における環境・設備計画	49
吉成 正彦	●某電池材料製造工場における最適な空調設備計画	50

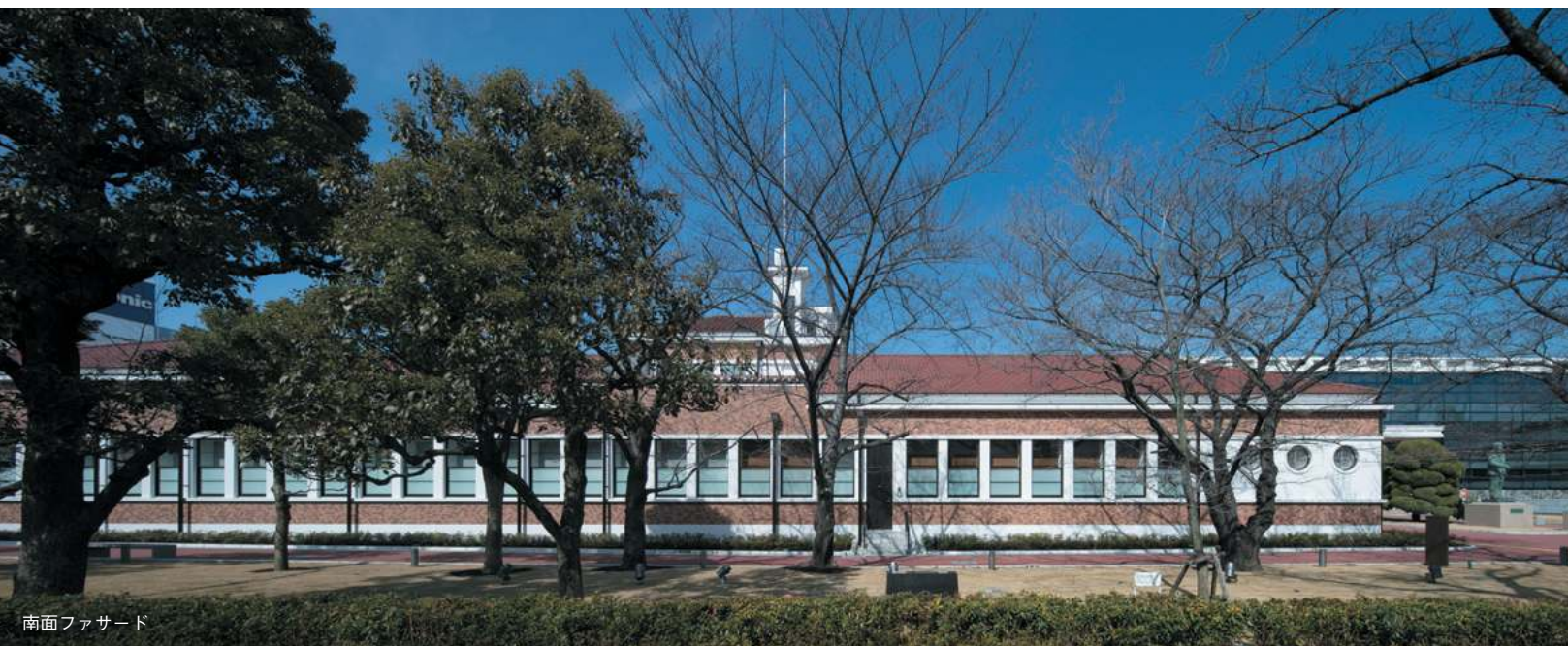
■施工部門

大川 光雄	●建築生産におけるBIMを活用した計画と実施	51
能給 哲哉	●地下工事計画の合理化による生産性向上	52
巽 祐太郎	●戦略的な合理化による労務3割削減の取り組み	53
杉井 毅	●大空間における鉄骨施工と仕上げ計画について	54

会告	会誌「建築と社会」の電子化公開に伴う掲載論文、図版、写真等の著作権譲渡のお願い 第2回建築セミナー 日本最大のプロ集団「雨漏り110番」が教える雨漏り調査の対策とポイント 定時総会議決のお知らせ、通常理事会議決のお知らせ、臨時理事会議決のお知らせ、定時評議員会議決のお知らせ 平成29年度事業報告、平成29年度決算報告、常設委員会の新設、平成30年度事業計画、平成30年度収支予算、平成30年度日本建築協会役員会務分掌、平成30年度日本建築協会評議員、平成30年度日本建築協会支部長、平成30年度日本建築協会委員 (一社)日本建築協会京都支部 主催 渡辺安人氏 講演会・第1回学生のための現場見学会「国立循環器病研究センター移転建替整備事業」 (仮称)デサントR&Dセンター見学会 第64回工高生デザインコンクール作品募集 第2回片岡安賞(日本建築協会論考コンクール) 募集要項 第25回 会員作品特集号「私の空間作法」作品募集	1 12 13 14 15 16
作品作風	松下幸之助歴史館	18
gallery	坂の上の小家●緒方幸樹	20
法令コーナー	容積率等緩和の拡大 大阪府総合設計許可取扱要領の改正●北尾葉々子	55
構造の頁	「クロスダンパー」による省スペース制震補強 一熊本城天守閣復旧整備事業一●岸 浩行	56
再読 関西の建築	昭和50年の御堂筋●橋寺知子	57
入賞発表	第17回「建築と社会」賞 入賞発表	61
Member's Forum	＜第1回建築セミナー＞ 「暮らし」から考える住まいの寸法入門講座	77
information	JIA近畿支部大会2018(滋賀大会) テーマ「水と建築」／明治維新150年 NHK大河ドラマ特別展「西郷どん」／生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。／ビッグコミック50周年展一半世紀のビッグな足跡一／第32回大阪市ハウジングデザイン賞 推薦募集	78
月間の動き	平成30年5月	80



建物エントランス



南面ファサード

松下幸之助歴史館

建 築 主 パナソニック
 設計・監理 竹中工務店（展示・内装 乃村工藝社）
 施 工 竹中工務店（展示 乃村工藝社）

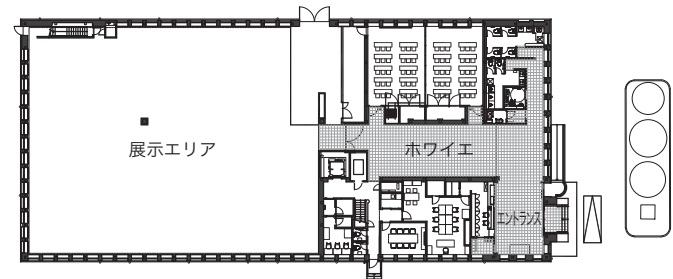
本計画は、2018年・パナソニックの創業100周年記念事業の一環として、かつて門真1006番地に、若き松下幸之助が構えた第三次本店（1933年）を復元し、新たに、松下幸之助歴史館として蘇らせるものである。50年前、創業者が存命の折りも、取り壊された第三次本店を模して工場西側の構内に歴史館が建てられたが、今回は、第三次本店が建っていた「その場所」に建物を蘇らせることで、創業者が発した言葉・想いを、時代を超えてその原点に浮かび上がらせ、創業100年の節目において、今一度創業者・松下幸之助のレガシーを最大化するものである。第三次本店は、今でいう「本社オフィス」に相当する施設であった。当時のヨーロッパの意匠を取り入れた外観が特徴になっていたが、決して豪華な材料や特殊な素材が用いられていなかったわけではない。むしろ、その内側に通風や採光が行き届いた学校の教室のような執務室が房状に連なり、所主室（松下幸之助社主室）を中心に、大きな家族の家のような機能的な仕事場（＝オフィス）を創り出していた。今回復元する建築については、当時のタイルや窓枠等の意匠を可能な限り読み取り外観を復元することはもちろん、かつての建物が「オフィス」としての機能性に主眼を置き計画されたように、「展示室」としての新しい機能にふさわしい器でありたいと考えた。第三次本店の構造は、木骨鉄網コンクリートという、類例が極めて少ない構造形式の建物であった。燃えやすいという木材の弱点を克服し、木材に耐火性能と耐久性能を持たせるための新しい技術として、当時の技術者の前向きな姿勢が垣間見られるものである。残念ながら、現在の法的基準には合致しない構造形式だが、今回の復元では、強度と変形性能に優れた鉄骨細材の列柱状に連続させる「鉄骨コロネイド（列柱）架構」により、外観形状を守りながら、大きな展示室をたった1本の柱により成立させ、自由度・可変性に優れた大スパンの展示室を実現した。また、黒煙を吹きだしていた煙突は自然換気の塔として、新たな環境機能を付加して再生し、創業所が買い付けて塔屋に設置したとされる舵輪も新たに復元し設置する。創業者・松下幸之助が100年前、新たな本店を一隻の船としてイメージして、社会という大海原に远航する気持ち・精神を改めて浮かび上がらせたいと考えた。2018年3月7日。100周年を迎えたパナソニックにとって、時を超えて現れた同じ外観の建物が、一つのものさしのように、「変わらないものはもとより、変わっていくものを同時に感じられるような」、新たな100年への未来を描く大切な場所・空間になればと願っている。

（米津正臣・近藤直人／竹中工務店）

所 在 地 大阪府門真市
 敷地面積 69,093.10㎡
 建築面積 1,343.18㎡
 延床面積 1,906.16㎡
 構造規模 S造・一部RC造 地上2階・塔屋1階
 工 期 2016年12月～2018年2月
 最 寄 駅 京阪本線 西三荘駅
 撮 影 竹中工務店



塔屋と舵輪



1階平面図



受付およびホワイエ

まち
建築
ひと

gallery

坂の上の小家

設計

緒方 幸樹



敷地は急な坂道を歩いて20分弱の坂の上、ひな壇擁壁が形成する一画で形状は平行四辺形。この地区は、国内では最も初期の斜面住宅地で、造成地開発当初の理念は「私地公景」。

東西南北関係なく山の地形にあわせて道路や宅地が設けられ、斜面は急こう配で隣地擁壁は高低差が大きい。私地公景、コスト抑制などを視野に入れ、敷地のほぼ真ん中に建物を配置しコンパクトにまとめることを意識して建坪11坪の総2階建とした。

隣地擁壁からの安全性を確保するため1階をRC造とし、2階は木造の混構造。外壁は板張りの外断熱で1・2階共包み、内部に設けた小窓や階段上部のトップライトで通風や光を取り込み控えめな表情にまとめた。屋根は寄棟で軒を伸ばし外壁や室内環境を雨、風、日差しからのしぎやすくした。軒の深さがつくる影と外壁の黒色、総2階建で凹凸の少ない控えめな表情が道に面して設けた植栽や背景に広がる既存樹木の緑を映えさせる。

2階のリビング・ダイニングの天井を屋根勾配と合わせ広がりを取り、隣地や周辺と視線が重ならないようコーナーに窓を設け、南前方に広がる大阪平野への眺望を重視した。建物内部からだけでなく周りの建物からの眺望を出来るだけ邪魔しないよう、無理のない大きさや形状にして「私地公景」に役立てたいと考えた。



緒方 幸樹（おがた こうき）

1962年 熊本県生まれ
1986年 近畿大学理工学部建築学科卒業
1986年 株式会社森永建築設計事務所勤務
1992年 ヨーロッパ遊学
1993年 緒方幸樹建築設計事務所設立
2001年～大阪工業技術専門学校非常勤講師

企画編集：澤田純一（作品作風小委員会）

■設計・計画部門——

太田 匠哉	竹中工務店
太田 裕人	大林組
岡 隆裕	日建設計
金子 公亮	日建設計
久家 一哲	昭和設計
芝井 健一	大林組
下田 康晴	東畑建築事務所
伊達 翔	大林組
鶴見 博之	大成建設
鳥海 宏太	日建設計
中島 慎一	徳岡設計
西山 尚希	安井建築設計事務所
松下 拓真	東畑建築事務所
山崎 篤史	竹中工務店

■構造部門——

赤澤 資貴	竹中工務店
朝日 智生	日建設計
西嶺 毅	東畑建築事務所
野口 浩平	大林組
花房 広哉	鹿島建設
宮脇 正尚	大林組
渡邊 祥	安井建築設計事務所

■設備部門——

小林 佑輔	竹中工務店
高根澤 武	日建設計
田中 祐輔	三菱地所設計
中尾 善弘	清水建設
中山 和樹	大林組
貴名 篤郎	日建設計
横山 輝明	竹中工務店
吉成 正彦	大林組

■施工部門——

大川 光雄	竹中工務店
熊給 哲哉	竹中工務店
巽 祐太郎	鹿島建設
杉井 毅	大成建設

部門別50音順

応募状況と結果

部門	応募数	入選数
設計・計画	17	14
構造	7	7
設備	12	8
施工	6	4

第65回青年技術者選考委員

勝山 太郎	／株式会社設計設計部門 理事グループマネージャー設計部長
岸田 文夫	／株式会社竹中工務店開発設計画本部長 (西日本担当)
長尾 健	／長尾健建築研究所代表
橋本 修	／株式会社昭和設計執行役員プロジェクト推進室室長
松原 茂樹	／大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻准教授
金尾 伊織	／京都工芸繊維大学デザイン・建築学系教授
榊田 洋子	／南桃李舎代表取締役
井村 隆	／清水建設株式会社設備設計部設計長
小倉 良友	／株式会社設計エンジニアリング部門設備設計グループ理事副代表設備設計部長
山口 善史	／株式会社大林組大阪本店建築事業部 生産技術部長
山辻 直樹	／大成建設株式会社設備設計部 購買管理室課長

青年技術者選考委員会 講評

選考委員長 勝山太郎

日本建築協会は今年創立101年を迎え、次の100年に向け新たなスタートを切った節目の年になります。そして昭和29年（1954年）から始まり、今回で65回目となる青年技術者表彰は、若い技術者の仕事の成果や取り組み姿勢を審査・表彰し、次代を担う方々を励ますという、他にはないオリジナリティを持つ意義深い顕彰制度として、半世紀以上の長い歴史を刻んできました。今年は昨年よりも4名多い42名の応募を頂きました。仕事をしながら、資料を纏め上げて頂いた応募者の方々、そして、ご推薦や応募への働きかけをして頂いた方々など、当顕彰制度の意義にご賛同頂き、ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。このたび入念な審査により33名が選出されました。講評は分野毎の審査委員のコメントによりますが、当顕彰は応募資料を通じて、総合的に「人」を表彰するものであります。実績はもちろん大切ですが、関わったプロジェクトの解説だけでなく、応募要項にも重要と記載している「青年技術者の思い」の中で、仕事を通して得られたことやビジョン等が、自分の言葉でどれだけしっかりと語られているかが、「人」を選ぶ審査側は大いに関心を寄せる点で、それらの期待に十分応えた方々が選出されています。逆に残念ながら今回選外となった方は、実績は申し分なくとも、「青年技術者の思い」の中で求めている「本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明」・「建築、都市、環境などに対する考え方、取り組み姿勢や将来展望等について」の記述が不足していて、プロジェクトは見えても「人」が見えないなど、資料作りの重点を少し変えれば良かったのになと思うような惜しい方が多く見受けられました。可能な方は是非また再応募して頂きたいと思えますし、来年ご応募頂く方々にも審査で重視しているポイントは是非ご理解頂きたいと思えます。今回、入選された方々はじめ応募して頂いた方々は、自らのこれまでの軌跡を振り返り、将来を見据えるための一つの良い機会になったと思います。是非、後輩や周囲の人たちにもこの顕彰制度の意義を積極的に伝えて頂ければと思います。そしてこの顕彰が今後とも活躍される皆さんへのエールとなり、また、これをきっかけに同世代の人たちとの交流や切磋琢磨を生む場としても発展していくことを期待しています。

■設計・計画部門

今年度の応募は、人の幸せや人と環境、人々の感情に寄り添った建築など、人と建築の関わりをテーマに、建築主との深い打ち合わせや利用者を含めた対話等、各プロジェクトに真摯に取り組まれている姿勢が強く感じ取れました。建築と社会を取り巻く環境がますます多様化する中で、建築・都市のプロジェクトにおける課題に真っ向から取り組み、技術者として成熟していく姿は高く評価されるものでした。また、今回は歴史的な建造物や文化財などの改修業務に携われた技術者も多く、興味深く応募作品を拝見させて頂きました。今年は応募17名の方より14名の方を入選といたしました。惜しむらくは一昨年来から同様に「関わられた業績」の記述はあるものの、我々が選考するにあたり一番大事にしている「青年技術者の思い」の記述が少なく、応募者ご自身の建築、都市、環境に対する考え方や取組姿勢・将来展望など、技術者としての思いが確認できない3名の方については残念ながら入選に至りませんでした。皆様についてはまだ来年も応募資格があり青年技術者としての素養はお持ちですのでは非「青年技術者の思い」を記述いただき、再度の挑戦をお待ちします。（橋本 修）

■構造部門

今年度の応募数は7件だった。審査のポイントは、プロジェクトの中での「貢献度」、「問題解決のための創意工夫」、「仕事にかける熱意」である。構造の審査員二人で全ての書類を読み込んだ後、一件ごとに感想を述べ、審査基準を満たしているかどうかを確認した。その結果、全数を入選とした。印象的だったのは、業績に加えて応募書類そのものの作り方だ。書類はA3サイズで5枚までという制限があるだけでフォーマットが無い。1つの作品を丹念に説明したものもあれば、複数の作品を紹介したものもある。紙面の密度やそこから発する熱量のようなものは人により濃淡があった。日常の業務の中でこのような書類作りは簡単ではない。しかし手間を惜しまず、限られた紙面で工夫を凝らし、独自の言葉で自分の作品や仕事観を語った応募書類からは、構造設計におけるその人の仕事ぶりも伺える気がした。7件の中には大規模な建築の中で最新の技術を追求し、業界を主導する「大きな技術」もあれば、初めて任されたプロポーザルで、あるいは設計期間が1週間という非常事態でも、オリジナリティのある構造デザインが光る「小さな技術」があった。全員前途有望な青年技術者である。後続の若い人たちのためにも業界を盛り上げてほしい。（榊田洋子）

■設備部門

本年は、設計系10名、施工系2名の計12名の応募のうち、8名を入選とした。選考に際して、「本人の役割が明確か」「力量が活かされた部分の詳細な説明があり、創意工夫が感じられるか」「取組姿勢や将来展望が表現されているか」を評価した。応募内容は、省エネ・低炭素・ZEBに向けた取り組みとしてエネルギー実態調査・運用改善・要素技術提案・竣工後の性能検証の事例、BCPへの取り組みや施工性の向上、フレキシビリティの追及、維持管理での改善、BIMによる検証等の取り組みがあり、幅広い審査となった。入選した8名とも、本人が直接関わったプロジェクトで、取り組んだ事例を明確に表現できており、その中での創意工夫が感じられた。惜しくも選考外となった方は、本人の役割と創意工夫は感じられたが、業務実績における技術的な優位性が伝わるように表現されていると入選したと思われる。業績は素晴らしいので今後に期待したい。今回の応募は省エネ・低炭素化手法の性能検証を行っている事例が多く、竣工時期の関係から検証が不十分な案件は、継続した努力を期待したい。今後も腕試しとして積極的に応募していただきたい。（井村 隆）

■施工部門

今年度の施工部門では6件の応募があった。応募内容を見ると施工合理化による生産性向上事例が2件、BIMの適用事例が2件、躯体及び仕上げ工事の施工改善事例の報告が2件となっていた。選考の結果、その中から4件を入選とした。入選した4件について、1件目は生産段階におけるBIMの活用事例で、ハイブリッド構造の納まり検討及び鉄骨建方計画にBIMを有効に活用して施工効率化を図っている。2件目では、試行錯誤を繰り返した末に高強度地盤改良体の開発を実現している。また、大規模大深度地下工事に対して様々な工夫をして施工性向上に取り組んでいる。3件目は大規模物流倉庫工事の労務を削減するため、ユニット化やPCa化など省力化工法を多面的に取り組み、結果として労務3割減を達成している。4件目は、大空間を有するホールにおいて、複雑な躯体・仕上げ工事手順を資材搬入や足場の盛替を踏まえて詳細に策定し、無理・無駄のない施工を実施している。今回の4件は、それぞれの課題に対して真摯に取り組み、確実な成果を上げている。今後も建築技術者として、ますますのご活躍を期待する。（山口善史）



おお た く や
太田 匠 哉

生 年 月 1982年12月愛知県生まれ
最終学歴 2008年京都大学大学院工
学研究科建築学専攻修了
業務経歴 2008年㈱竹中工務店入社
現在、名古屋支店設計部
●担当した主なプロジェクト
2011年 熱金鋼業熱田賃貸マンション
2012年 名古屋センタービル
ワークスペース再構築
2015年 浜松日体中学校創立十周年
高等学校創立五十周年記念
事業
2017年 名古屋市営金城ふ頭駐車場

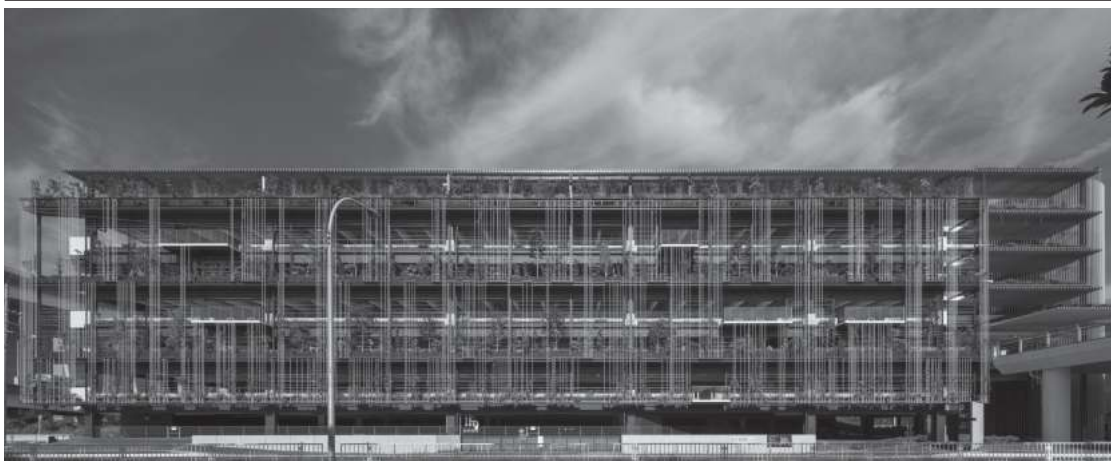
■青年技術者のことば

「有限の要素から如何に無限の魅力を生み出すか」建築設計に取り組み始め10年、常にこの思想を一貫して持ち続けています。これまで「寮」や「学校」、「駐車場」等1つの基準となる単位の繰り返しで全体が構成される建築に携わる機会が多かったです。どのプロジェクトにおいても機能的に華美な装飾を必要とせず、必要最低限の機能に対して設計が必要とされます。その中で繰り返しの要素の中で如何に人に心地よく訴えかけるものができるかを多く考え続けてきました。例えば寮では1ルームが100室連なり60mのファサードが街と対峙し、駐車場では300m×100mにも及ぶ長大な車空間の中で繰り返される躯体の構成が如何にシンプルに浮かび上がりそこに入りこむ光や人の表情が多様に浮び上がらせました。

幸運にもこれまでのプロジェクトでは建築主や多くの関係者に止まらず建物利用者や偶然近くを通りかかった方などにも「シンプルだけど「何が いいね」と声を掛けて頂くことが多くあります。それは、そういった有限のもの（明解な構成）が人に訴えやすく、そこから生まれる「何が 魅力あるもの（時間と共に刻々とかわる光や影や人の動きなどの無限の表情）がきくと人の心に響くからだ」と信じています。

■すいせん者

市川健二
㈱竹中工務店 名古屋支店
設計部 設計部長



名古屋市営金城ふ頭駐車場



名古屋センタービルワークスペース再構築



熱金鋼業熱田賃貸マンション



おお ひろ と
太田 裕人

生 年 月 1982年 6月 神奈川県生まれ
最終学歴 2007年早稲田大学理工学

研究科建築学専攻
業務経歴 2007年㈱大林組入社
現在、大阪本店建築事業
部建築設計部副課長

●担当した主なプロジェクト
2009年 パナソニック㈱セミコンダ
クター社砺波工場E棟
2011年 太陽生命長野支社
2013年 ロジポート相模原
2015年 三井不動産ロジスティクス
パーク日野 (MFLPH野)
2015年 イワタニ水素ステーション
東京池上

■青年技術者のことば

私は、建築物が都市のターミナル機能を持っていると常に意識し、日々設計を行っている。ターミナルとは、終着駅や末端、端末という語源から派生して、日本では、広く、交通機関や物が多く集まり、またひとが多く集う起終点や拠点の意で捉えられている。多くの物や情報が集まり、発信される拠点である。また、集められた物や情報を求め、たくさんのひとが集い、そしてまた、次の目標地へ向けて出発する拠点でもある。建築物には有限な敷地があり、当然そこに建てられる建物もまたそれ自身は動くことのできない固定された物である。しかし、そこに関わるひとや物の存在によって、都市インフラや交通の拠点であったり、地域文化や歴史の継承拠点であったりと、建築物が都市のターミナルとして機能していく。建築物はありとあらゆる周辺を巻き込む力を持っている。言い換えれば、建築物は都市に施した「しかけ」とも言える。そして、「しかける」ことが設計行為だ。そんな「しかけ」をどのようにするか、どんな「しかけ」をつくるか思いを巡らせ、実際に「しかける」ことが実に楽しく、わくわくさせる。私は、この思考と行為こそが建築家と社会をつなぐ接点であると考えている。

■すいせん者

松井宣明
(株)大林組 大阪本店 建築事業部
建築設計部 部長

三井不動産ロジスティクス パーク日野 (MFLPH野)

超大型物流ターミナルの効率化を実現する一方で、住宅地に隣接する敷地条件という課題に対し、真摯に回答した。建物を広大な緑地でくみ、地域環境の保全に努め、その一部を一般開放することで近隣住民にもやさしい施設を目指した。整形で暴力的になりがちな建物ボリュームは、壁で分割し、壁の集合として見せることで軽快さを与えている。また、バルコニー部分に縦樋やウェザーカバーをまとめ、粗密を強調して壁面を分節することで、スケール感の低減を図った。物流の原点に立ち返り、物とひと両方が主役である物流ターミナルの実現を意識した。



イワタニ水素ステーション東京池上

水素ステーションにコンビニエンスストアが併設された現代版ターミナル。機能的に「クローズ」な水素貯蔵棟にはソリッドな材料、重い色調を使用する一方、明るく「オープン」なコンビニ・事務所棟はガラスカーテンウォールを用いた軽い箱としている。対比的な表現の2つの建物を、交差点に対し、両腕を広げるように配置することで、「未来のインフラである水素エネルギーと生活のインフラであるコンビニエンスストアのコラボレーション」の在り方を提示している。



おか たか ひろ
岡 隆 裕

生 年 月 1982年11月兵庫県生まれ
最終学歴 2007年京都大学大学院
工学研究科建築学専攻修了

●担当した主なプロジェクト

2013年 六甲学院中学校・高等学校
本館

2014年 釜山外国語大学

南山洞キャンパス

2015年 新居浜市総合文化施設・美
術館 あかがねミュージアム

2015年 ダイキン工業 テクノロジー・
イノベーションセンター

■青年技術者のことば

これまで建築の設計を通して希求してきたことは、アクティビティを手掛りに「人」の経験を豊かにすること、場の歴史と、その建築が求められた文脈に敬意を払い、「人」が得る「価値」を最大化することです。

空間がどう使われるか。それを想像して図面に思いを込める設計者にとって、ユーザーとの対話は欠かせないものだと考えています。これまで実際にその建築・空間を使う「人」と、多くの対話を重ねてきました。そこで深く洞察し、寄り添い、ユーザーの思い通りの経験、時には思ってもみなかった「豊か」な経験・価値を提供する事こそ、設計者の使命であると信じています。そして長い時を経て残り続けるからこそ、建築は流行り廃るものであってはなりません。その土地で、求められた文脈の中で、どういう姿で立ち現れるべきか。決して回答が一つではない設計行為において、その結果は、建築主やユーザーの得る「価値」をどれだけ最大化できたか、その建築が豊かなアクティビティの受け皿として、どれだけ生き永らえ続けたか、に委ねられることと思います。建築は時に社会に大きなインパクトを与えます。それは建築と空間・時間を共にする一人一人の「人」が紡ぐ、一つ一つのストーリーが起こすものだとし、設計者として一人でも多くの人の経験を「豊か」にし、共感を得る建築を実現していくため、日々、目の前に設計に専心し、研鑽を続けていく所存です。

■すいせん者

岡田泰典

(株)日建設計 設計部門 設計部長

六甲学院中学校・高等学校 本館

創立75周年を機に建て替えられた本館は、六甲山の山並みを背に瀬戸内海を見渡す、旧本館と同じ佇まいで急坂の上に屹立する。シンメトリーで真っ直ぐな片廊下の空間構成や、生徒自らが清掃で磨き上げる人造大理石研出、木造作等の素材を継承しつつ、最新の学習環境と環境技術を備えた、時代を超えて「伝統を未来に受け継ぐ」学び舎とした。



六甲の大自然に抱かれた、質実な南面ファサード

新居浜市総合文化施設・美術館 あかがねミュージアム

別子銅山の麓、駅前のシンボルとして、新居浜市の発展を支えた銅（あかがね）を纏う、芸術・文化の活動拠点。中央のアトリウムを中心に、美術館、小劇場のホワイエ空間がつながり、地域文化・市民活動の創造・発信の場と融合する、「総合文化」の実現を目指した。



菱葺銅板が導くメインアプローチ



屋内のステージ、カフェと連続する、屋外ステージ



エントランスアトリウム

ダイキン工業 テクノロジー・イノベーションセンター

国内に分散していた開発技術者を集約した、技術イノベーションのための研究所。1,500㎡×2層、メガフロアのワンルームワークプレイスと、社外とのコラボレーション空間「フューチャラボ」「知の森」を持つ2万㎡のオフィスエリアは、2.8万㎡に及ぶフレキシブルな実験エリアと一体となって社内外協創を加速する。



オフィスエリアと実験エリア、機能の異なるファサードを統合する丸パイプ庇



中央のワイガヤステージから上下の両側30mに展開するワークプレイス



かね こ のり あき
金子公亮

生年月 1982年11月静岡県生まれ
最終学歴 2007年首都大学東京大学院工学研究科修了
業務経歴 2007年㈱日建設計入社
現在、設計部門設計部主管
●担当した主なプロジェクト
2009年 土佐堀ダイビル
2009年 金光教大阪センター
2011年 しまね海洋館アクアス
2015年 松江市総合体育館
2016年 広島経済大学明徳館
2018年 和歌山地方合同庁舎

■青年技術者のことば

設計者として大切にしたいと考えていることが2つある。

ひとつは「建築の価値を最大化するための対話をし続けること」
施主は安価で質の高い建築を要求し、設計者は設計を通して自己実現しようと考え、施工者は簡易に作って利益を上げようとする。この目的の異なる三者が集まって初めて建築は実現するが、これを前に進めるために対話が重要であることは明白である。目的が異なる立場であるからこそ、丁寧に対話することで、これまで見落としていた価値に気づくことができ、結果、建築の価値を最大化することにつながると考えている。この「対話」こそが、建築というモノ・コトづくりのダイナミズムであり、私が建築に魅了される最大の理由である。

もうひとつは「土地が持つ文脈を読み解き、それに素直になること」。

建築は土地を得て初めて成立する。建築はいずれなくなるはかないものだが、本来の目的を終えても人々から愛され、残り続けている建築がある。それらに共通するものは土地に対する素直さであり、その姿勢が美しく映り、人々の心を捉えるからだと思う。その場所に建つ意味に真摯に向き合い、解答を導き出すことが、設計者に許された職能であるとともに担うべき職責であり、時を超える建築を創る唯一の方法だと考えている。歴史、風土、環境、都市との調和。天から舞い降りたような「図」としての建築ではなく、もっと土着的で、そこから生えてきた「地」としての建築。その土地の物語を紡ぐ、語り部のような建築を目指したい。

■すいせん者

塩田哲也
㈱日建設計 設計部門 設計部長

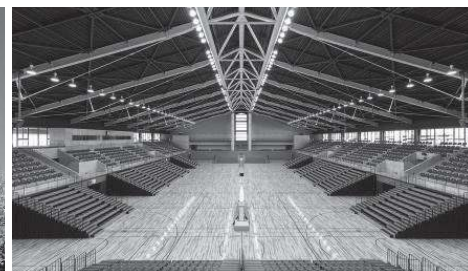
金光教大阪センター

撮影：東出清彦



松江市総合体育館

撮影：SATO PHOTO 佐藤和成



和歌山地方合同庁舎

撮影：時空アート





く が い っ て つ 久 家 一 哲

生 年 月 1984年10月長崎県生まれ
最終学歴 大阪大学大学院工学研究
科地球総合工学専攻建築
工学科目修了

業務経歴 2009年株式会社昭和設計入社
現在、同社建築設計部主査

●担当した主なプロジェクト

2009年 堺高校エコ改修
2010年 順心病院
2011年 耳原総合病院
2012年 筑後地域消防指令センター・
久留米消防署東出張所合同
新庁舎
2013年 造幣局東京支局
2014年 太陽の塔内部再生プロジェクト
川西市市民体育館
2015年 御影公会堂耐震改修
2016年 泉大津市消防本部庁舎
2017年 西脇市新庁舎市民交流施設

●受賞等

川西市市民体育館
2017年 川西市景観賞
御影公会堂
2018年 登録有形文化財選定

■青年技術者のことば

【時間軸を見据えベストな選択を】
過去・現在・未来の時間軸でとらえたときの最適解は何か常にイメージすることを大切にしている。建物の利用者の声や思いを尊重すること、ニーズを的確に汲み取り今の時代に合う提案をすること、未来においても価値を増しながら人々の生活の一部で有り続けること。

全ては利用する人に愛着を持ってもらいながら、長く大切に使うため。設計を志したときから今までぶれることのない思いである。

【人としての器と感受性を大切に】

建築づくりは一人では到底実現できない。構造・設備・施工・維持管理・運営などを見据えたバランス感覚と、視野の広さを持つことが重要と感じる。自らが率先して考えて動きながら関係者に思いを伝えることで、それぞれのベストを引き出しより質の高い建築へと導けるよう、人としての器を磨いていきたい。

どんな人の思いもくみ取っていきける感受性を高めながら、利用する人のための提案力・技術力をこれから貪欲に身につけたいと思う。

■すいせん者

鳥居久人
株式会社昭和設計 執行役員



太陽の塔内部再生プロジェクト ー芸術作品から力強くメッセージを発する建築物へー

1970年の大阪万博のテーマ館として岡本太郎にデザインされ、万博後は人が立ち入れない工作物として残っていた。地上2階建てとして捉え、現行法規の取り扱いの元、不適合箇所を洗い出し、避難安全性・耐震性能を満足させ建築物へと組み立てなおした。改修時に内外部のデザインを変えることなく芸術を展示空間として再生し、一般公開させるに至った。



御影公会堂耐震改修 ー利用者の思いの詰まった建物を次の世代に引き継ぐー

1933年に創建され、太平洋戦争の空襲や阪神淡路大震災に耐えた歴史を持ち、映画「火垂るの墓」にも登場する。満足な図面もない中、利用者の声を聞き、写真や同じ設計者の建物を見てデザインを紐解いた。文化財登録を見据えて、創建当時の意匠を復元した。戦災で座屈した集会場鉄骨トラスは屋根スラブを落とさずに全て入れかえ補強を行った。



川西市市民体育館 ーひと・まち・自然をスポーツでつなぐー

「見る」「見られる」の関係を随所に設け、利用者が自然と体を動かしたくなるような仕掛けをつくりながら、多様なプログラムを展開できる体育館とした。見上げた際に競技に支障が出ないように徹底的に部材を合理化した格子梁や、維持管理のしやすいソックダクトを提案した。外からも中からも緑が見える中で心地よく体を動かせる体育館を目指した。



しば い けん いち
芝 井 健 一

生 年 月 1983年5月福井県生まれ
最終学歴 2006年北海道大学大学院
建築都市空間デザイン学科
業務経歴 株式会社大林組 入社
現在、名古屋支店
建築設計部 副課長

●担当した主なプロジェクト
2013 東芝エレベータ15A号館
フィールド研修センター
2013 岡崎市火葬場運営事業
2013 川崎重工 弥富寮
2014 プライムアースEVエナジー(株)
品質棟・保全棟
2016 藤田保健衛生大学
坂文種報徳階病院
2017 藤田保健衛生大学大学病院
2018 プライムアースEVエナジー(株)
PEVEアリーナ「結(むすび)」
2018 プライムアースEVエナジー(株)
モリの子保育園

■青年技術者のことば

「長く親しまれる建築」
建築の宿命は「使われる」ことにある。建築は使われなくなると著名な建築家による作品であっても短命にして解体に追い込まれることがあるが、これは存在しているだけで維持費がかかるという現実がその理由だろう。設計者は施主にこの現実的な費用に見合う空間を提供しなければならない。この現実こそ彫刻やアートの創造にはない建築ならではの面白さと難しさではないだろうか。

地球環境と共生してためには建築そのものの省エネを追求することもさることながら、長きにわたって存在することが前提となる。風景や景観といった時間軸を伴う指標で価値を獲得するためには、時代の移ろいで陳腐化しない佇まいで存在しつづけることが必要になる。

愛着をもって使われ、風景・景観としての価値を獲得して地域住民にも歓迎されるような建築を残すことが設計者の使命だと考えている。自分がかかわった作品が今日も愛着をもって使ってもらえることを願っている。

■すいせん者

近井 務
(株)大林組 名古屋支店
統括部長



PEVEアリーナ「結(むすび)」

プライムアースEVエナジー(株)の創立20周年記念事業で企画された体育館で、コンセプトは災害対策拠点としての機能と徹底した省エネである。ファサードやエントランスは施主の主力製品をモチーフにして、必要な機能をメタリックな質感の外装材がパッケージングするような形状とした。



モリの子保育園

定員30名の事業所内託児所の計画で、必要諸室の間に意図的に「隙間」を設けることで風通しを良くすると共に、楽しいスペースが生まれるようにした。駐車場からの通勤動線には起伏があることに着目し、園庭で子ども達が遊ぶ様子を見守ることができるようなプランニングを意識した。



藤田保健衛生大学病院

病棟・外来・健診センターからなる病院の増築計画である。内装は既設棟まで含めた共通のデザインコードである「木」を、多様なスペースやグレード感に応じてアレンジした。増改築を何度も繰り返す広大な病院の中で一体感のある空間を提供することができた。



しも だ やす はる
下田 康 晴

生 年 月 1982年10月鳥取県生まれ
最終学歴 2007年 広島大学大学院
工学研究科社会環境シ
ステム専攻修士課程修了

業務経歴 2007年 (株)東畑建築事務所
現在、本社オフィス大阪
設計室 主任技師

●担当した主なプロジェクト

2007年 武田薬品研修所
2010年 エクセディ新本館ビル
2011年 上村工業 新中央研究所
2012年 なにわ生野病院
2015年 坂出市新庁舎
2017年 長門市新庁舎
2018年 中穂積の家（個人活動）

■青年技術者のことば

ーその先の社会へ建築を届けるー
公共建築から民間施設・住宅など
これまで経験したプロジェクトを
通じて、様々な「建築と社会」と
の接点に出会うことができました。
建築の設計において特にやりがい
を感じるのは、その社会との接点
を通じて学び培った内容に、プロ
ジェクトの文脈における可能性や
人々の想いを重ね、建築としての
価値へと昇華させることで、その
先の社会へと貢献できるところで
す。

建築を利用される方々に生き生き
と空間を使い続けて頂くことをは
じめ、その建築がおかれる社会に
対して新たな可能性や価値を提示
する姿勢を大切に、先の社会を見
据えた設計を心掛けていきたいと
思います。

今、日本の社会は縮小・超高齢化
に加え、AIなどのテクノロジーや
経済・国際社会との在り方など、
様々な局面において変化が起こり
つつあり、建築の分野においても
これからさらに大きな影響・変化
が訪れるものと思われま。

そのような変化に正面から向き合
いながら、その先の社会における
幸せな未来に貢献できる設計者を
目指して、これからも日々研鑽に
励みたいと思います。

■すいせん者

笹村 欽也

(株)東畑建築事務所

執行役員 本社オフィス 大阪副代表

長門市新庁舎



上村工業 新中央研究所



中穂積の家





だて しょう
伊 達 翔

生年月 1984年2月奈良県生まれ
最終学歴 2009年大阪大学大学院
工学研究科地球総合工学
専攻修了
業務経歴 2009年㈱大林組入社
現在、大阪本店建築事業
部建築設計部主任
●担当した主なプロジェクト
2016年 加古川中央市民病院
2017年 日本生命病院
2019年 林病院竣工予定

■青年技術者のことば

「都市とは、その通りを歩いている少年が、彼がいつの日かになりたいと思うものを感じとれる場所ではなくてはならない。」これはルイス・カーンの名言で、私が学生時代から好きな言葉の1つである。学生時代は、カーンの言葉にあるように建築は人々の感情に訴えかける力があり、それを実現することが設計だと考えていた。

しかし私も社会人になり、病院設計に携わること7年。その中で感じることは、感情に訴えかけることより、まずは感情に寄り添うことが大切ではないかということだ。病を抱えた患者の不安や手術成功後の安堵、やるせない怒り、そして悲しみ。このような喜怒哀楽の感情を受け入れるためには、人々の五感に働きかける内外空間をしっかりと創り込むことが必要だと考え、プロポーションと光、素材に拘った設計を行ってきた。クライアントの夢をただ叶えるのではなく、患者の想いや、立ち寄った人々の感情を代弁する気持ちで線を引く。その上で、クライアントの理想を上回る提案をすることこそが、設計の役割だと考えている。

人々の想いに寄り添う設計を続けることで、訪れる人々の人生が豊かになるよう、建築の構成を考え抜くことを大切にしていきたい。

■すいせん者

東井嘉信
㈱大林組 大阪本店 建築事業部
建築設計部 部長



加古川中央市民病院



日本生命病院



林病院



つる み ひろ ゆき
鶴見 博之

生 年 月 1982年 9 月静岡県生まれ
最終学歴 2009年早稲田大学大学院
修士課程修了
業務履歴 2009年大成建設(株) 入社
現在、本社設計本部
プロジェクトアーキテクト

●担当した主なプロジェクト

2012年 銀座3丁目Dビル
2013年 丸本組本社ビル
2016年 カネカ未来創造館
2017年～吉城園周辺地区保存管理・
活用事業

■青年技術者のことば

「 $+ \alpha$ の要素による最適解を超える
建築の創出」
を目指し、より良い建築にするに
はどうすればよいかということを
常に模索しながら設計を行っています。
私は建築を作り上げていく上では、
その建築に関わる人との対話がとて
も重要だと考えています。
様々な制約・要因・問題点などを
クライアントやチームメンバーを
はじめいろいろな人との対話を重
ね一つ一つ紐解きながらバランス
良くコーディネートし建築を組み
立てていくことが、出来上がった
ときに皆に喜んで頂けるすばらし
い建築を創りあげていく上では大
切だと考えています。
また、ただコーディネートだけで
終わるのではなく、その建築なら
では $+ \alpha$ のテーマ性となる要素
を何かしらその建築に付加するこ
とがその建築の質を上げると共に
作品性を上げるためには重要だと
考えています。それは小さな $+ \alpha$
のテーマでも良いと思いますが、
新しいことや他ではあまりやられ
ていないことなどを考え、常に挑
戦していきたいと思っています。

■すいせん者

平井浩之
大成建設(株) 関西支店 設計部
設計部長



銀座3丁目Dビル

銀座の伝統的なイメージを印象付ける3
層構成の彫の深いデザインとし、アーキ
コンやリン酸処理SCWなど構成素材自体
が仕上となり永続的なイメージを与える
マテリアルの選定により、銀座に相応し
いオフィスビルを追求した計画である。



丸本組本社ビル

東日本大震災により被災した会社の本社
ビルの計画である。『地域に根差した
防災拠点ビル＝ACP (Area Continuity
Planning) Building』のコンセプトを掲げ
自社の事業継続だけでなく、地域の災害
拠点ともなるビルを追求した。



カネカ未来創造館

約30年前に竣工した宿泊機能付きの研修
施設の改修・増築の計画である。有機EL
照明をはじめ、屋根や壁面に太陽光パネ
ルを設置するなど、カネカの様々な最新
技術を搭載することで既存建物との調和
と最新技術の融合を追求した。



吉城園周辺地区保存管理・活用事業

奈良公園内に位置し歴史的にも価値の高
い旧県知事公舎や吉城園を含む敷地にホ
テルを計画するプロジェクトである。既
存建物の有効利用や名勝の価値を最大限
に高めることで新たな観光拠点となる質
の高い建築を目指し設計を進めている。





とり うみ こう た
鳥海 宏太

生 年 月 1982年6月東京都生まれ
最終学歴 早稲田大学大学院理工学
研究科建築学修士課程
修了

業務経歴 2007年㈱日建設計入社
現在設計部門設計部主管

●担当した主なプロジェクト

2011年 浜松信用金庫湖東/高丘支店

2011年 リニア鉄道館

2014年 大垣共立銀行豊橋支店

2017年 津市産業スポーツセンター

SAORINA

2019年 西武鉄道池袋ビル (予定)

2021年 名古屋三井ビル北館 (予定)

■青年技術者のことば

クライアントの想い、敷地、社会的な情勢。毎回異なる状況の中で、携わらせていただいた建物において想いを共有できるコンセプトは何なのか。議論を重ね具体的な言葉を共有してから設計をしてきました。改めて思い返してみても、一つとして同じコンセプト、設計になったものはありません。また建物は竣工後、長期間まちに残り風景をつくり、多くの方々の目に触れます。自身で携わらせていただいた建物を訪れる度に、様々な発見があります。使用いただけた方々からの感想やお話は今後の糧になります。竣工後も継続して愛される姿で残り続けるためには、設計、現場段階のものづくり期間中の情熱が必要であることも実感します。

「一つとして同じものがないものづくり」

「長期間まちに残り続け風景をつくる」

建築設計はものづくりの生業としてその点が特色、やりがいかと感じます。

関係者の方々に協力していただける様自らも動き、感謝を忘れない。また基本の徹底、技術の追求を怠らずに一つ一つの設計を大切に、これからも設計に携わりたい所存です。

■すいせん者

塩田哲也

(株)日建設計 設計部門 設計部長



浜松信用金庫 湖東支店



浜松信用金庫 高丘支店



大垣共立銀行 豊橋支店



なか しま しん いち
中島慎一

生年月 1983年2月兵庫県生まれ
最終学歴 2009年京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科
建築設計学専攻修了
業務経歴 2009年㈱徳岡昌克建築設計事務所入社
現在、㈱徳岡設計 SE室
●担当した主なプロジェクト
2009年 中国武進区湖塘橋実験小学
2010年 夕陽の広場展望レストハウス
2012年 福井大学福井メディカルシ
ミュレーションセンター
2012年 沖縄の新たな発展につなげ
る大規模基地返還跡地利用
計画提案コンペ入選
2013年 京都工芸繊維大学旧3号館
改修
2013年 奈良県農業研究開発セン
ター及びなら食と農の魅力
創造国際大学校
2017年 ナカザワ建販本社社屋

■青年技術者のことば

ー風土とデザインを実行するー
受注形態が多様化しており、設計者の関わり方は一つだけではなくな
ってきているが、私は、常に地域性
の中にある普遍性を追い求め、その
地域・場所で誇りとなる建築とは何
かと考えながら、業務に取り組んで
いる。
まず、関わったプロジェクトにお
いて気候・地味・地勢などの土地環
境や特色・気風などの地域環境だけ
でなく、人間の文化の形成などに影
響を及ぼす精神的な環境である「風
土」となる価値を再定義することに
力を注ぐ。なぜなら私たちは建築を
つくるが、その環境は環境をつくり
、その環境は人をつくると考えるか
らだ。
そして、プロジェクトのどの工程
においても建築主や関係者との対話
を通して見出された建築的な問題の
解決だけでなく、風土となる環境
的な付加価値を設計図書や様々な書
類の中に「デザイン」し、意志を込
める。
それらの意志・思いの連りが関係
者を超えて人々に愛される建築につ
ながると信じ、これからも取り組
んでいきたい。

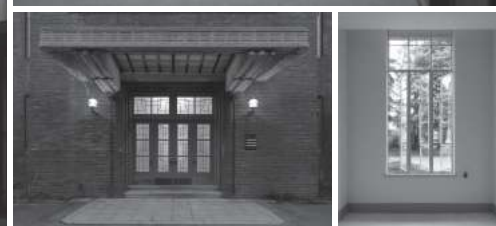
■すいせん者

藤城義文
㈱徳岡設計 取締役副社長



奈良県農業研究開発センター及びなら食と農の魅力創造国際大学校

大和三山に隣接した風致地区で、古墳を抱く敷地内に、研究所と大学校の機能集約と研究開発の機能強化を行うことで、県農業を支援する多棟型拠点施設として再整備。過去の古墳に對峙し、現在の研究成果を刻み築き上げ、これからの未来を交流して生み出していく空間づくりを目指した。



京都工芸繊維大学旧3号館改修

本野精吾教授により設計され昭和5年に竣工した、登録有形文化財の指定を受けている大学のシンボリックな建物の改修。当初意図された価値を読み取って活かし、使い続けていくことができる建物とするよう心がけた。度重なる改修により損なわれていたバウハウス校舎を彷彿させる水平連続窓を、現代の機能・性能を満たした形として現出させた。



にし やま なお き
西山 尚希

生 年 月 1982年11月岡山県生まれ
最終学歴 2007年名古屋工業大学
大学院工学研究科社会工学
専攻

業務経歴 2007年㈱安井建築設計事
務所入社/現在、大阪事務
所設計部主任

●担当した主なプロジェクト

2008年 JR西日本あいウィル
2009年 トラスコ中山宇都宮営業所・
新潟北営業所・福山支店
2012年 白鶴酒造灘魚崎浜工場
2015年 トラスコ中山プラネット大阪
積水化学タイCPVC計画
2016年 トラスコ中山郡山支店
2018年 二葉の里プロジェクト複合棟
(現在施工中)
那覇空港際内連結ターミナル
(現在施工中)

●受賞

JR西日本あいウィル
日経ニューオフィス賞近畿ニュー
オフィス奨励賞
トラスコ中山プラネット大阪
第16回堺市景観賞

■青年技術者のことば

『タイトルのつく建物』

建物をつくることは、建築主の要望・条件や周辺状況等、目の前に見えるものを上手に整えるだけではありません。整理しつつ、絶えずテーマをもって空間や仕掛けをつくることで、プラスαの価値を見出すことを目指します。

これは、建物規模の大小や用途等の与件に関係なく、設計者自身の意識や熱意によって成り立っています。また、プロジェクトを共に進めていく建築主や協働するメンバーとの対話の中からも、創りあげていくものです。

テーマの具現化を追及・実現していくと、自然とその建物にタイトルがつくと考えています。「タイトルのつく建物」を目指して、これからも設計活動をしていきたいと思っています。

■すいせん者

小林直紀

(株)安井建築設計事務所

執行役員 大阪事務所副所長

兼 大阪設計部長



トラスコ中山プラネット大阪 「ものづくり工房」

従業員が働きながら創意工夫を生み出す「工房のような建物」をコンセプトとした。凹凸のある外装ディテール、内部空間の漆喰壁やアルミキャストのルーバー、材料選定や手づくり感などで工房にある特有のクラフト感を表現した。



那覇空港際内連結ターミナル施設 「新しい沖縄の玄関口」

国際線旅客の増加に伴い、既存の国内船・国際線ターミナルの間に計画し、各々の機能拡充を図るものである。沖縄の新たな玄関口として、厳しい自然環境に配慮した大屋根、軒や凹凸による影のつくり方、琉球石灰岩の活用による構成とした。



まつ した たく ま
松 下 拓 真

生 年 月 1982年7月長野県生まれ
最終学歴 2008年名古屋工業大学
大学院産業戦略工学修士
課程修了

業務経歴 2008年㈱東畑建築事務所
入社 現在、名古屋オフィス
設計室主任技師

●担当した主なプロジェクト

2009年 特別養護老人ホーム
桜英水苑
2009年 鈴鹿農業協同組合別館
2010年 堺市浅香山病院
2011年 三重大学医学部付属病院外
来診療棟
2011年 近藤紡績浜松飲食店
2012年 JA鈴鹿庄内支店
2013年 大台町メディカルセンター
2014年 瀬戸みどりのまち病院
2015年 三重大学医学部付属病院基
幹環境整備
2016年 上村工業名古屋支店
2017年 医療法人和光会 川島病院

■青年技術者のことば

現代社会は、物や情報が溢れ、人の欲望は満たされましたが、人生の豊かさとは反比例しているように感じます。経済優先の私利私欲の追求からは人々の営みを優先したものとは生まれにくく、設計者は人々の営みについて考えることが職務と考えます。何も無いが安寧を委ねられる環境は、人や自然、地域と安心して繋がることであり、人生の豊かさを感じるのだと思います。

建築はそのような環境を提供することが一つの使命だと考えています。顧客要望、周辺環境や文化などの様々なコンテキストを読み解き、人や自然、地域とノイズ無く素直に繋がる空間を構築することが重要だと考えます。

病院において人生の豊かさを感じる設計とは何なのか。病院の主たる利用者はスタッフ、患者さん、地域の方々です。私はその中で声が聞こえないエンドユーザーの患者さん、見舞客や地域の人の視点に立ち、設計を行うよう意識しています。患者さんや家族の心理を考えると変に自己主張的で、見栄え優先の建築ではなく、彼らの心に寄り添い、安心できる優しい空間が人生の豊かさを感じる“患者さん本位の病院”だと思います。

患者さん本位の病院であり、機能的な治療空間という両義的な空間を成立させることが病院設計の醍醐味であり、今後も真摯な姿勢で心の豊かさを持った技術者となれるよう設計と向き合い続けたいと思います。

■すいせん者

瓦田伸幸
㈱東畑建築事務所
常務執行役員 名古屋オフィス代表

瀬戸みどりのまち病院

瀬戸市の医療連携における慢性期医療・在宅医療等を支える177床の療養型病院の移転プロジェクト。

敷地には南北縦断面に5mの高低差があり、それを利用してサービスや職員部門を2階に上げ、外来やリハビリ、デイケアなど1階で患者さんに纏わる部門を配置し、患者さんに優しく判りやすい病院を実現した。

「患者さん本位の病院づくり」を目指し、光庭やオープンエンドによる採光・通風・眺望を確保し、ベッドのまま出られるテラス、家族で過ごせる家族室を設けた。また、内装には暖かみを持たせ、親しみある瀬戸本業釜タイルを用いるなど、患者さんや家族が快適に療養できる病院を目指した。

安心して暮らし続けられる地域医療に貢献することを期待している。



三重大学医学部付属病院 外来診療棟・外構整備

3次救急、高度専門医療、災害時拠点病院と、地域医療連携をリードする立場の大学病院である。

超急性期医療を支える機能空間と、心の癒しを提供できる病院環境を構築することを目指した。建物中央部分の吹抜のあるメインストリートには、各診療部門のほか、カフェなどのアメニティが並び、わかりやすく気持の良い連続した空間構成とした。外構は、“患者さんを優しく迎え、大学病院の顔となるアプローチ空間”を基本コンセプトに、軸線となる歩行者専用アプローチを中心軸とし、シンボリックなテント幕の車寄せ庇を配して、超急性期病院の顔に相応しいアプローチ空間を計画した。





やまざき あつし
山崎 篤史

生年月 1982年8月島根県生まれ
最終学歴 2007年神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻修士課程修了
業務経歴 2007年㈱竹中工務店入社
2008年広島支店設計部
2012年大阪本店設計部
●担当した主なプロジェクト
2012年 寺岡整形外科病院
2012年 Kビル
2016年 川崎医科大学総合医療センター

■青年技術者のことば

建築を考える時、はじめに“人と人、人と環境との幸せな関係”をイメージする。「こんなふうに見える」「こんなふうに見える」「こんな人たちに来て欲しい」そんな関係性をつむ建築を考え、スケッチを描き、模型をつくる。そして、実際に建築として具現化するために構造・設備の設計者や施工者など、たくさんの技術者と一緒に「どうやってつくるか」「どうやったら無駄がないか」と色々な話をし、設計を進める。そうすると、ふと、もとのイメージから遠ざかっているのではないかと不安になる時がある。そういう時はもう一度、「理想」に立ち戻る。これを繰り返す中で「技術」をバネにして「理想」がジャンプする瞬間がある。この瞬間が楽しい。『「技術」だけでは建築や都市はつukれない。その傍らには「理念」が必要だ。』と恩師に教わった。設計を10年やってその意味がわかってきた。経験を積むなかで「技術」は徐々に身につけてきたように思うが、だからこそ“人と人、人と環境との幸せな関係をつくる”という私にとっての理念を忘れず、これからも「理想」と「技術」の振幅を楽しみながら設計を続けていきたい。

■すいせん者

大平滋彦
㈱竹中工務店 大阪本店
設計部 第4設計部長



寺岡整形外科病院

増築の繰り返しによって迷路化していた病院を、同一敷地内で整理・再編したプロジェクト。既存病院は複数の建物が建て込んでおり、窓が小さいため光に乏しく暗い印象であった。そのため「自然の光を患者、スタッフ皆で共有する病院」をコンセプトとし、国道から大きくセットバックして建物を配し、格子状の柱梁架構によって直射光を制御しながら大きな窓から自然光を採り入れた。また、プライバシー面から窓がとれない診察待合にも、断面操作によって間接光を導き、その空間につながる診察室や処置室にも天窓や高窓を設け、光のうつろいを皆で感じられる空間を実現した。



Kビル

ある企業の営業所兼独身寮である。この建物は1階が倉庫と駐車場、2階がオフィス、3階が独身寮という階構成となっており、1階は雨天でも荷積作業のできるピロティ、2階は床面積を最大化する跳ね出し形状、3階はプライバシーを守るパルコニー形状としてそれぞれの機能に最適なカタチを積層させたデザインとした。質実剛健な企業イメージに相応しい建物として、素材を絞り、材料の厚みや重量感を丹念に操作することで、端正で力強い建築を目指している。



川崎医科大学総合医療センター

総合病院と教育機能を併せ持つ、約8万㎡の大規模医療建築である。岡山市内中心部にあった小学校の跡地を計画地とすることから、元の校庭部分は公園として整備し、校舎があった部分だけに高層・高密度な建築を計画した。ここでは、南側の「公園」に対して開いた建築としながら、建物内にも「公共の場」「癒しの場」としての「公園＝屋上庭園や憩いの場」を立体的に内在させ、それらをつなぐ通路空間を「まちの通り」として位置づけることで、大規模医療建築でありながらも地域に根差した病院としての公共性と親密感を付与した。





あか ざわ もと き
赤澤 資貴

生年月 1984年1月兵庫県生まれ
最終学歴 2008年京都大学大学院
工学研究科建築学専攻修
士課程修了
業務経歴 2008年㈱竹中工務店入社
2009年～大阪本店設計部
●担当した主なプロジェクト
2013年 製鉄記念広畑病院 2期
2014年 武庫川女子大学看護学部
2015年 某店舗ビル耐震改修
2017年 宝ホールディングス歴史記念館
2019年(予定) 深江竹友寮建替計画

■青年技術者のことば

一つの建築が出来上がるまでには、建築主、設計者、施工者やユーザーまで多くの人の想いが込められる。構造設計という仕事は、エンジニアリング力を通じて、それらの人々の想いに安全を付与し、「かたち」にしていくことだと考える。私は、「建築主、ユーザー、意匠設計者、また時には社会が何を求めているか。どのような空間を創出したいのか」を追求し、「構造設計者としてその想いを高いレベルで実現する」、ということを第一にして設計に取り組んでいる。

筆者が所属する組織は、設計者や施工者のみならず、技術研究者など多様な職能の人と関わりながら設計を行うことができる。私は、意匠設計者の斬新な発想や技術研究所の最新の技術を構造設計に活かすことで、建築に新規性や独自性を与えたいとも考える。構造的合理性だけではない、建築としてのあるべき姿を追求し、総合的な観点での最適な建築作品作りを目指している。

構造設計者として、約10年で幅広い業務を担当してきた。プロジェクト毎に課題を見つけ、エンジニアリング力によりステークホルダーすべての想いを「かたち」にすることを目標としている。プロジェクトを通して多くの人と関わり、学びの幅を広げ、安全性の確保や使いやすい豊かな空間づくりを行うことにより、学んだことを社会に還元していきたいと考える。

■すいせん者

上田博之
㈱竹中工務店 大阪本店 設計部
構造部長

最上級の安心と安全性とともに想いを「かたち」にした構造計画の追求～深江竹友寮建替計画～

1. 建築概要

本プロジェクトは、当社の新入社員が一年間の共同生活を行い、「相互研鑽の場」として「心と技術を錬成すること」、「豊かな共感性を培うこと」を目的とした社員寮の建替計画である。新寮では、これまでの歴史と伝統を受け継ぎつつ、「新しい未来をつくる人を育てる教育寮」となることを目指す。

2. 構造設計概要

2.1 最上級の安心と安全性の確保

新しい寮は災害時に寮生の命を守り、地域の防災拠点として機能する、最上級の安心と安全性の実現を目指した。具体的には、長周期長時間地震動や震源近傍の大振幅地震動など従来の免震技術では対処が困難な問題にも対応できる免震システムの実現を目標とした。

この目標に対し、図1に示すLRBと高摩擦すべり機構を直列に配置した、すべり機構付き鉛プラグ入り積層ゴム支承（通称QTB；当社・オイレス工業共同開発。摩擦係数 μ 0.13）を初適用し、摩擦弾性滑り支承と組み合わせることで、すべてがすべり支承となる免震システム「THE免震ワイドレンジシステム」を発案した。これにより、中大地震時には、摩擦弾性すべり支承が撓動することで建物を長周期化させ、

QTBIはLRBとして挙動することで地震力を低減し、想定外の巨大地震時には、QTBIも併せて撓動することで、積層ゴムの損傷と建物に加わる地震力の増大を防ぐことができないかと考えた。これを実現するための課題としては、以下の3点があった。

- ①すべてがQTBIでは剛性が高く、免震構造としての特性を十分に発揮することができない。
 - ②一般的なすべり支承と比較して高価なQTBIを多数用いるとコストが過大となる。
 - ③すべてがすべり支承のため、可能な限り復旧は不要としながらも、想定外の巨大地震動に対しては擁壁と衝突させない、適切な残留変形量に留める。
- これらの課題を解決するために筆者は、下記の3つの工夫を行った。

- ①軸力の大きな部分には低摩擦すべり支承を配置し、入力される地震力を低減する。
- ②レベル2地震動時にQTBIが撓動しない範囲で、可能な限り高摩擦すべり支承を配置し、コストを低減する。
- ③最適量の粘性系ダンパーを導入し、入力される地震力を低減すると同時に想定外地震動時にすべての免震装置が撓動した際の応答変位量を抑制する。

2.2 フラットプレート+S柱でひとつながりの内部空間を実現

寮生同士の交流を促進させるため、内部空間は寮室以外、できる限り仕切りのない、ひとつながりの内部空間の実現を目指した。そこで、内部は5.7m×5.7mを基本グリッドとした厚さ280mmのフラットプレート構造に細いS柱を設ける構造計画とした。フラットプレート構造の課題として、適用スパンが小さく、柱の本数が多くなり、平面計画上の制約が生じるということがあったが、ボイドスラブを採用することにより、エントランスや一部の共用リビングでは、最大11.4m×7.6mスパンを同厚のフラットプレートで成立させ、基本グリッドだけではない変化に富んだ使いやすい空間を実現した。（図2、3）

2.3 地域に開かれた象徴的な外観の実現

新しい寮では、地域に開きながらも寮生のプライバシーを確保する象徴的な外殻フレームの実現を目指した。寮の外観は寮室の連続となるため単調になりがちであるが、1.9mピッチに配置される寮室間の間仕切りと同じ間隔でRC柱を設けることで、寮室内のプライバシーを確保しつつ、純ラーメン構造である2、3階の4割の地震力も負担する耐震要素として有効利用することとした。さらに柱形状は台形とし、その鋭角の向きを上下（階毎）・水平とも交互に配置することにより、地域に表情をつくり出すと同時に開放感を与えた象徴的な外観を実現した。また、この外殻フレームにより程良く日射を抑制することで、内部環境の向上も図った。（図4）

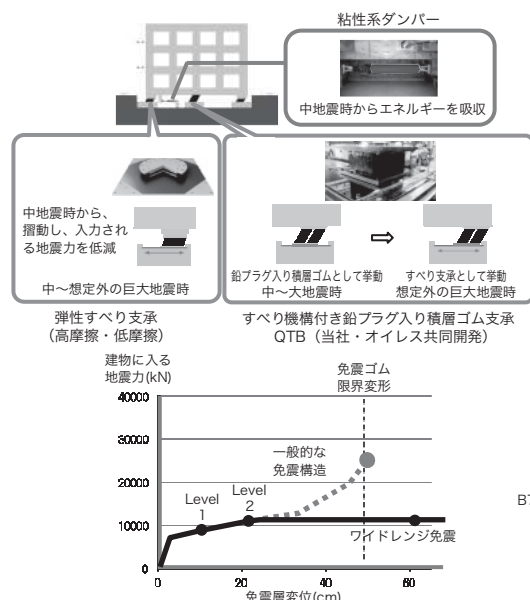


図1 THE免震ワイドレンジシステム
(Takenaka Highgrade Earthquake resistant system)



図3 断面図

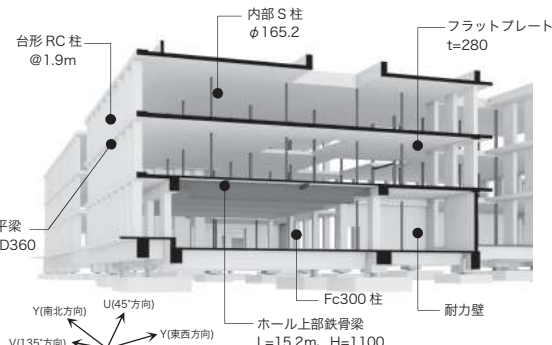


図2 構造概要図



図4 外観(正面)

構造部門



あさ ひ と も き
朝日 智生

生年月 1983年8月岐阜県生まれ
最終学歴 2008年東京工業大学大学院人間環境システム専攻
業務経歴 2008年株式会社日建設計入社、現在エンジニアリング部門構造設計部

●担当した主なプロジェクト

2009年 福岡大学／商学部棟
2010年 ふじと台ステーションビル
ヤンマー中央研究／守衛所
新日鐵住金／守衛所
2011年 日東シンコー／丸岡事業所
2012年 蘇州電視台／ホテル棟
京都産業大学／万有館
日東電工／亀山事業所
2013年 咲洲庁舎耐震補強
2014年 愛知療育医療総合センター
神戸学院大学附属高校／体育棟
2015年 高知市新庁舎
2016年 住友不動産／有明計画
栗田工業／厚木事務所
2017年 住友不動産／麴町計画

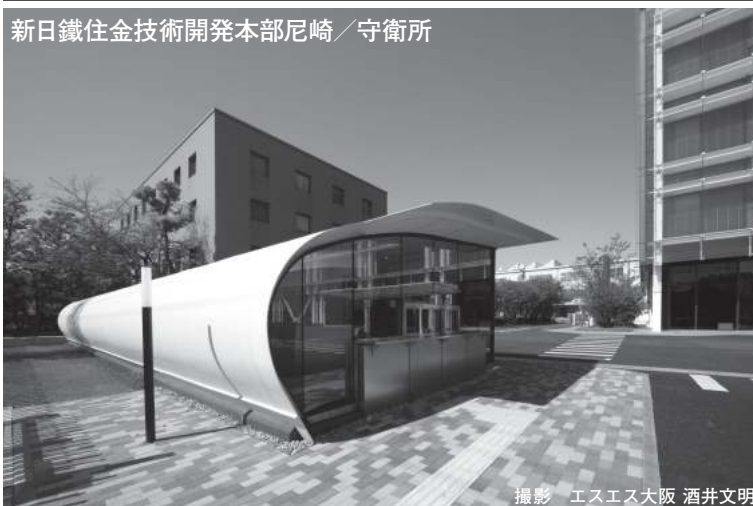
■青年技術者のことば

「Impossible is Nothing」という言葉がある。ボクシング元世界ヘビー級チャンピオン、モハメド・アリの言葉である。私はクライアントや協働する設計者の期待を上回る提案は何かを考え、自らに課題を課し、最良の解を探すことに無我夢中になる。時にその課題は周囲の人に聞けばすぐ解が見つかることもあるが、期待を上回ろうとすると高いハードルとなることが多い。不可能とさえ感じることもある。そんな時、自分自身に言い聞かせる、「Impossible is Nothing!」。この言葉は私の設計理念そのものである。今後も大きくは変わらないだろう。設計10年が過ぎ、向き合う問題は広がりを見せている。先日参加した南海トラフに関するシンポジウムで国や自治体における減災対応、BCPの現状を知り、自分がいかに無知であるかを痛感、反省した。私はただ建物の構造設計をしていただけであった。次の10年は積極的に視野を広げ、構造設計者が成すべき防災・減災について考えていきたい。社会が抱く構造設計者への期待を上回ることを目標とする。

■すいせん者

嘉村武浩
(株)日建設計 エンジニアリング部門
構造設計部長

新日鐵住金技術開発本部尼崎／守衛所



撮影 エスエス大阪 酒井文明



企業イメージを発信するユニット式薄板構造

景観に配慮し建物高さは抑えつつも必要な天井高を確保すること、及び企業イメージの発信を目的に、屋根を“美しく薄く”作るということテーマに掲げた。目標を達成するには力学的合理性と施工性のバランスが重要と考え、力骨（溝形鋼）に鋼板（9mm）を溶接した1.8m幅の屋根を工場製作でユニット化し、現場で接合する計画とした。スパン方向の剛性と耐力を確保しつつ水平力に対して屋根面全体で抵抗する。施工面ではユニット同士をボルト接合することで溶接歪の緩和と軒先の精度確保に配慮した。



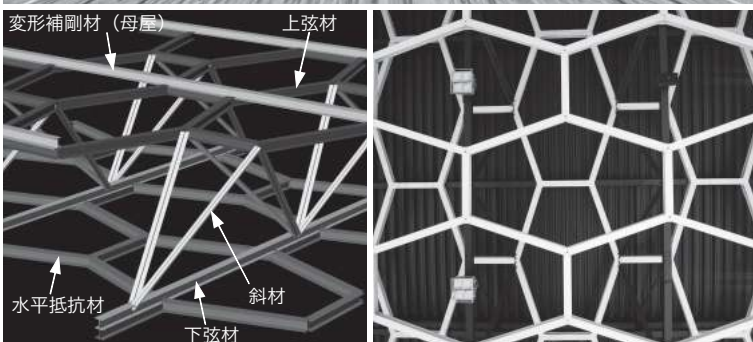
神戸学院大学附属高等学校／体育棟



撮影 母倉知樹

単純な接合で構成する確実性の高い多角形フレーム

体育館の鉄骨は6角形の中に校章のモチーフである梅花をかたどった5角形が見え隠れする幾何学形状である。6角形の開きを抑える変形補剛材（母屋を兼用）と、軸力を集中して負担する下弦材を設け、スパン28mを1方向トラスとして設計した。下面6角形の役割を地震時のせん断力伝達に限定することで全て同一形状のシンプル接合部で統一した。武道場は弦材のカットティに対して、幅と長さの異なる2種類のアングルを同一面で交互に、表裏で対になるよう配置し、校章を連想させる5角形を忍ばせたトラス架構とした。



撮影 母倉知樹



撮影 母倉知樹

にし まき
西 槇

生 年 月 1982年5月奈良県生まれ
最終学歴 2007年神戸大学大学院
自然科学研究科 (建築学)
業務経歴 2007年(株)東畑建築事務所
大阪事務所 構造設計室

●担当した主なプロジェクト

2007年 久太郎町ビル
2008年 西予市庁舎
2009年 大阪大学
テクノアライアンス棟
エクセディ新本社ビル
2010年 大阪府立高等職業技術
専門学校北部校 南棟
2012年 NHK新京都放送会館
2013年 新伏見町ビル
2014年 岡山済生会看護専門学校
2015年 茶業研究所 本館・製茶棟
2016年 坂出市庁舎
2017年 タツタ電線本社社屋
及び体育館

■青年技術者のことば

構造技術者として、建築物を設計する際、安全性、経済性を追求した設計が基本と考える。特殊な案件ではあるが茶業研究所の設計を通じ、設計事務所の構造技術者として、建築物の価値、意義を高めるためには、既往の技術、新技術を活かした構造方式の積極的な提案が必要と感じました。さらには、社会へ配慮（茶業研究所では施主要望として、林業の活性化）した設計も必要であると考えます。また、このような提案、設計を目指すことで、自身の知識、技術の向上を図れると感じました。今後は、建築物の価値、意義を高めることを意識し、構造方式の積極的な提案、更には社会への配慮を目指した設計を行っていきたいと思います。

■すいせん者

阿蘇品尚士

(株)東畑建築事務所

執行役員 本社オフィス 東京代表

茶業研究所－「直交集成板」と「流通製材」による木造平屋建て研究所



ホール



架構建て方状況



CLT落とし込み状況

■建築概要

延床面積：951.93㎡

建築面積：953.80㎡

建物高さ：4.254m

架構形式：屋根架構

CLTを用いた集成材格子梁

柱梁架構

流通製材による在来軸組

1. はじめに

本施設は京都府が所有する茶の生産振興、高品質化などの研究開発を行う施設である。同府では「お茶の京都」「森の京都」構想を展開しており、本施設の機能強化（府民交流・研究交流・担い手交流機能）と木造建築化を目的としリニューアル整備を行った。また、木材利用の拡大・促進、森林資源の循環及び林業の成長産業化の実現を目的とし、京都府内産材及び直交集成板 (CLT) の利用を条件とした。

2. 建築計画

平面計画は、中庭及び回廊を中心としたワンフロアラボとし、交流を活性化させるコラボエリアとセミクローズドエリアを明確に配置したゾーニング計画とした。コラボエリアはCLTの現し天井、これを支える柱・梁を流通製材の現しとし、木の温もりを感じられる空間とした。さらに、天井を中庭に向かって傾斜させることで、CLTを外部からも視認できる「浮かぶ天蓋のファサード」として構成した。

3. CLTと流通製材の構造利用

CLTはこれに関する告示の施行以前であったため、水平構面として銘建工業(株)が性能認証を取得していた工法を基に利用する計画とした。流通製材は(一社)京都府木材組合連合会が運営する京都木材規格 (KTS材) の製材を利用し、供給量確保のため、部材寸法は120×120～240、部材長4000以下とした。

4. 構造計画

柱梁架構は、KTS材が建築基準法上は無等級材となるため、架構形式を在来軸組構法 (ルート1) とし、架構スパンは前述した部材寸法より、3640グリットを基準とした。屋根架構はCLTを集成材格子梁内に落とし込み、CLTの外部からの視認性が高いフラットな天井面とした。架構厚は、柱と中段梁上の束柱により1820グリッドで支持し、150厚とし、他の空間より広い空間を求められたホールは、格子梁を張弦梁とすることで架構厚を同厚とした。柱梁架構の接合部は在来構法形式を基本とし、ほぞ差し、大入れにより部材間のせん断力、梁上端側に設けたバ

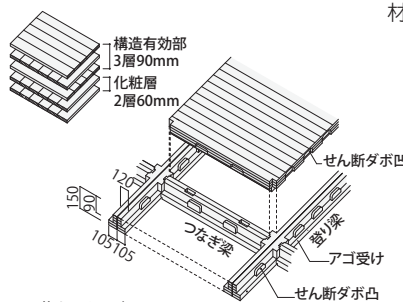
ルトにより部材間の引張力を伝達する設計とし、金物を見せない、府内業者にも加工可能なディテールとした。屋根架構についても、ほぞ差し、大入れ及びボルトによる接合部を基本としたが、張弦梁端部、屋根面谷部の梁端部は、組立て鋼板とドリフトピンによる接合を採用し、金物を極力見せない接合部ディテールとした。また、CLTと集成材格子梁間は、それぞれに設けたダボ加工により面内せん断力を伝達する設計とした。

5. 屋根架構載荷実験

本計画に用いた屋根架構の水平構面としての性能を確認するため、載荷試験を銘建工業(株)の協力により行った。これより、性能認証取得済み工法と同等以上の性能を有することを確認し、設計、申請協議を行った。

6. まとめ

府内産材を用いたCLTと流通製材を意匠材かつ構造材とした架構とすることで、木の温もりを感じられる空間が実現できた。

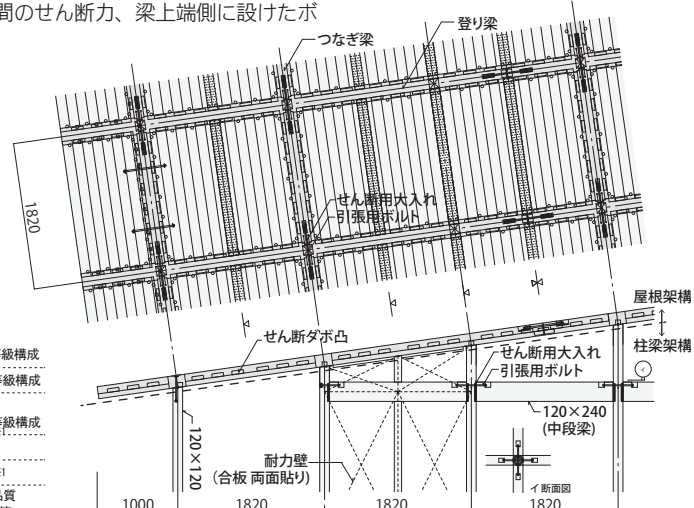


CLT落とし込み概要図

使用木材の概要

屋根架構	屋根版	直交集成板 (CLT)	樹種：杉	規格：対称異等級構成
	梁	構造用集成材	樹種：杉	規格：対称異等級構成
柱梁架構	柱	構造用製材	樹種：杉	規格：KTS 材
		構造用集成材	樹種：杉	規格：対称異等級構成
	梁	構造用製材	樹種：杉	規格：KTS 材
	耐力壁	構造用合板	強度等級：2級	※1

※1 KTS 材：「木造計画・設計基準 (国土交通省)」で示される「一定品質を持つ地域材」の基準を満たす製材。一曲げ性能の確認、含水率の確認、節、集中節等の品質基準の確認



架構詳細図



の ぐち こう へい
野 口 浩 平

生 年 月 1983年 9 月 静岡県生まれ
最 終 学 歴 横浜国立大学大学院社会
空間システム学専攻
業 務 経 歴 2009年 ㈱大林組入社
2010年 東京本社構造設計
部
2013年 東北支店建築設計
部
2015年 東京本社構造設計
部
2016年 Obayashi Vietnam
Corporation
2017年 大阪本店構造設計
部

●担当した主なプロジェクト

- ・新三春中学校
- ・(仮称) 大正大学新 5 号館教育・研
究棟新築工事
- ・(仮称) 大京町計画
- ・(仮称) 大久保三丁目西地区開発計
画
- ・(仮称) プラウド鹿野三丁目
- ・AEON MALL TAN PHU CELADON
EXTENSION

■青年技術者のことば

応募にあたって、入社してからの
10年余りに担当した物件を振り返り、
色々なところで、様々な方々と仕事
させてもらっているんだなあと感慨
深く感じ、感謝に堪えません。

構造設計者として、もし全く同じ
建物を設計することになった場合
に、原理原則に従い、全く同じ
答えを導ける正確さと前と違う
アイデアや新しい知見を盛り込める
柔軟さを持ち合わせることが私の
理想です。これからも常に情報収
集などの努力を怠らず、構造設計
者としての技術力、魅力を手に入れ、
磨き上げていきたいです。

そして、意匠設計や設備設計の方
たちと対話しながら、最後までより
良い空間をつくるために、そこを
利用する方々の笑顔のために、
図面の先を常に考え続けられる設
計者でいたいです。

皆様ありがとうございました。
これからもよろしくお願い致します。

■すいせん者

嶋崎敦志

(株)大林組 大阪本店 建築事業部
構造設計第三部 部長

2棟の板状マンションを免震層直上で接続した免震構造

●はじめに

本建物は、戸境壁を耐震壁とする 2 棟
(南棟：約50m x 13m、東棟：約13m x 45m)
の板状の共同住宅をL型に配置した基
礎免震構造の計画です。1 階の南東の
一部と 2 階以上は全て住戸であり、南
棟の 9, 11, 14 階で西側が、東棟の 12~
14 階で北側が 1 スパンずつセットバ
ックしています。

板状の共同住宅の特長である方向別に
ラーメン架構と耐震壁架構という大
きく剛性の異なる構造形式である建物
2 棟を居住条件、敷地条件により、L
型に配置する計画に対してどのような
構造計画を提案できるかを思索しまし
た。



外観パース

●最下層で 2 棟を一体とし、 上階は独立させる

2 棟を一体とした場合、剛性が大きい
耐震壁架構の棟に地震力が移行し、負
担せん断力が集中することにより、免
震装置の引抜力が大きくなり、設計で
きなくなりました。さらに、偏心が大
きくなり、振れ振動の影響が大きくな
りました。

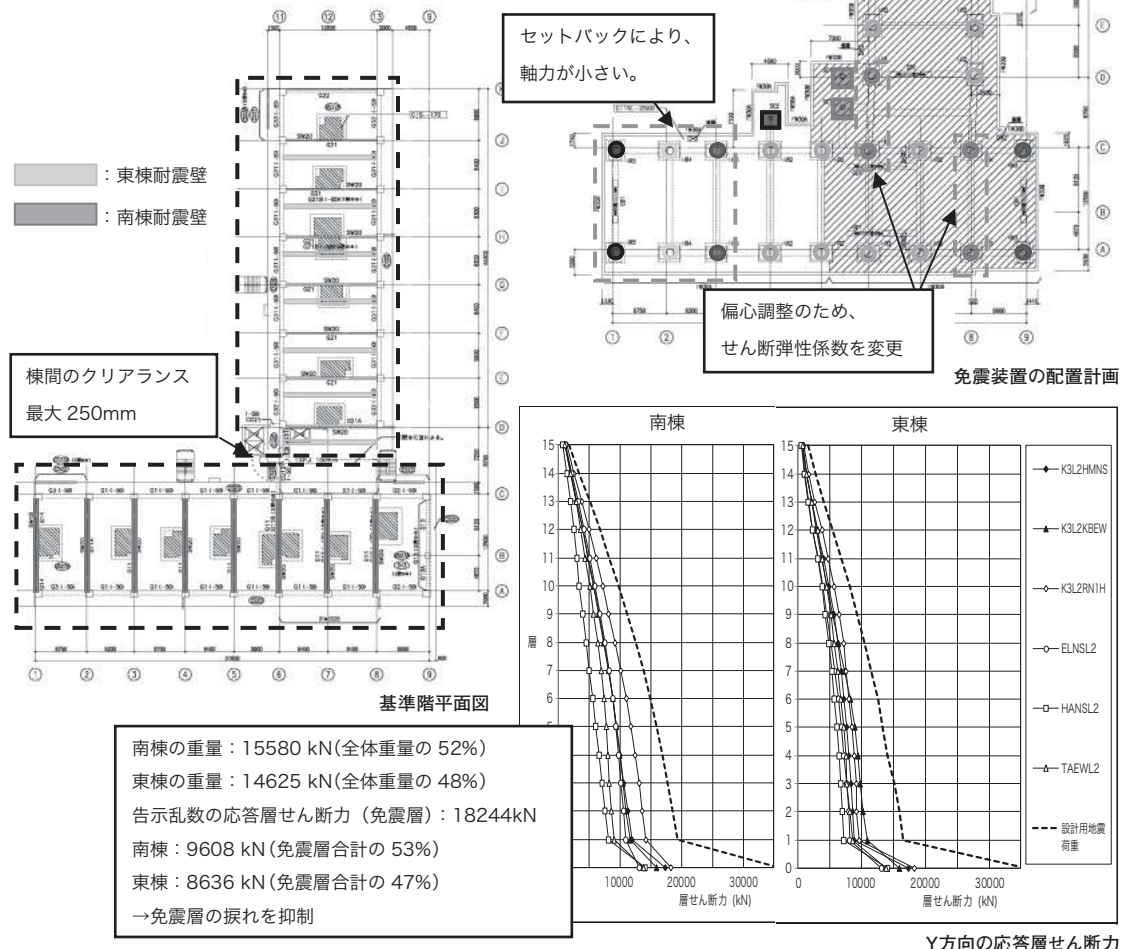
完全に独立させた場合、免震層の変形
を含む各棟の相対変形が大きく、エキ
スパンションのクリアランスが 1m 以
上必要になり、鉛直方向の相対変形も
大きくなるため、構造的、建築的な設
計が困難となりました。

二つの案の中間的な案として、最下層
で 2 棟を一体とし、上階は各棟を独
立させることで、各棟の地震力をそれ

ぞれが負担し、各棟の柱梁などの主体
架構がバランスの良い設計となりました。
また、免震構造の効果により、エキ
スパンションジョイントも棟間のク
リアランスが耐震構造に比べても小さ
くなり、経済的な設計となりました。
さらに、各棟の負担せん断力に大きな
差がなく、免震層の偏心を小さくでき
ました。

●せん断弾性係数の異なるゴ ムの併用

各棟とも上階で 3 スパンずつセット
バックしているため、これによる偏
心も生じていました。そのため、許容圧
縮荷重がほぼ変わらない 2 種類のせん
断弾性係数の高減衰ゴム系積層ゴムを
採用し、セットバックによる偏心の影
響をおさえました。





はな ひろ や
花 房 広 哉

生 年 月 1983年 8月 9日 ●生まれ
最 終 学 歴 京都大学大学院 工学研究科
建築学専攻 修士課程修了
業 務 経 歴 2009年 鹿島建設㈱入社
建築設計本部
構造設計統括グループ配属
2014年 関西支店 建築設計部
構造設計グループ配属
●担当した主なプロジェクト
2009年 リーガル本社ビル新築工事
2010年 千疋屋日本橋ビル新築工事
新潟日報本社ビル新築工事
2011年 東熱ビル新築工事
建設中 ホテルロイヤルクラシック
大阪難波新築工事
建設中 京都新町ホテル新築工事
建設中 山九株式会社独身寮新築工事
建設中 京都四条ホテル新築工事

■青年技術者のことば

入社して9年。構造設計7年、開発・特殊解析2年を経験した。数多くのプロジェクトに携わり、基本的なことから最新の技術まで幅広く技術を磨いてきた。構造設計として求められることは非常にシンプルで、「建物の安全を担保すること」である。しかしながら、多くの関係者の意見を結集させる特性上、その詳細は建物ごとに大きく異なる。良い建物をつくるためには、意匠・設備・構造の設計三者が十分に調整されている必要があるが、詳細に設計を進めるタイミングは異なる。特に構造はそのタイミングが早いので、意匠・設備設計の意図を読み取り、構造計画に反映することが重要であると考えている。意匠・設備設計を理解できる構造設計者となることをまずは目指し、多くの経験を経て、最終的には設計・施工・コスト等のバランス感覚に優れた構造設計者を目指したい。

■すいせん者

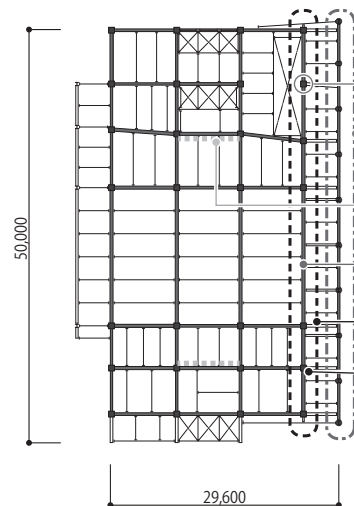
菅野忠司
鹿島建設㈱ 関西支店
支店次長

制震装置を用いた偏心制御設計

大阪市内に計画された、限事務所と共同で設計した超高層ホテルの新築計画である。低層階にホテルの婚礼・宴会部門、高層階に宿泊部門が計画され、低層階のスパン中央部には吹き抜けを有するバンケットをスキップフロア形式で積層する計画としている。正面のデザインは、低層階部分をまちなじんだ既存建物のデザインをそのまま継承した唐破風および切妻屋根、その上部を宙に浮いたように見せるために高層階をオーバーハングさせた計画で、最上階の屋根を低層部の切妻屋根と揃えたデザインとなっている。外装材は下からPC版、ガラスカーテンウォール、アルミルーバーと多彩に組み合わせた計画となっている。



【外観パース図】



【床伏図】

●構造概要

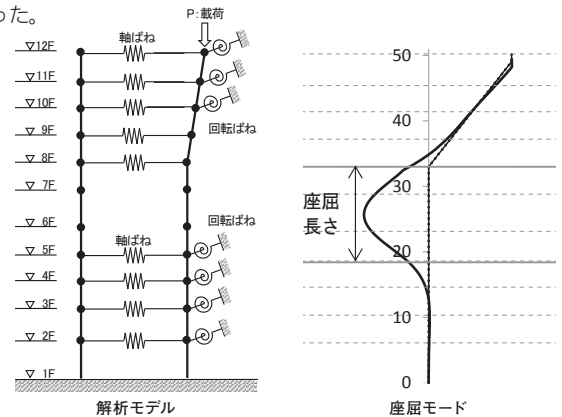
基礎構造はパイルド・ラフト基礎とした。地下は鉄骨鉄筋コンクリート造の耐震壁付きラーメン構造、地上は鉄骨造（柱CFT）純ラーメン構造とし、高性能オイルダンパ（HiDAX-e）および座屈拘束ブレースを用いた制震構造とした。

●構造計画概要

異なる用途を積層する計画のため様々な制約が発生し、それぞれを解決しながら計画を進めた。

- ・大阪平野特有の互層地盤のため、杭基礎と直接基礎を併用し、躯体コストの最適化を図った。

- ・梁スパン・階高が不均一かつ不整形でありセットバックした建物であったため、適切な層剛性を確保するとともにダンパを用いて偏心制御設計を行った。
- ・中・高層階をオーバーハングさせる意匠デザインのため、スラスト力を適切に処理して斜め柱として計画した。
- ・エスカレーター横の吹き抜けに面する長柱に対して座屈解析を行い、安全性を確認した。
- ・客室部（高層階）のロングスパン部にはフィーレンディール架構を採用することで、階高の低減を図った。

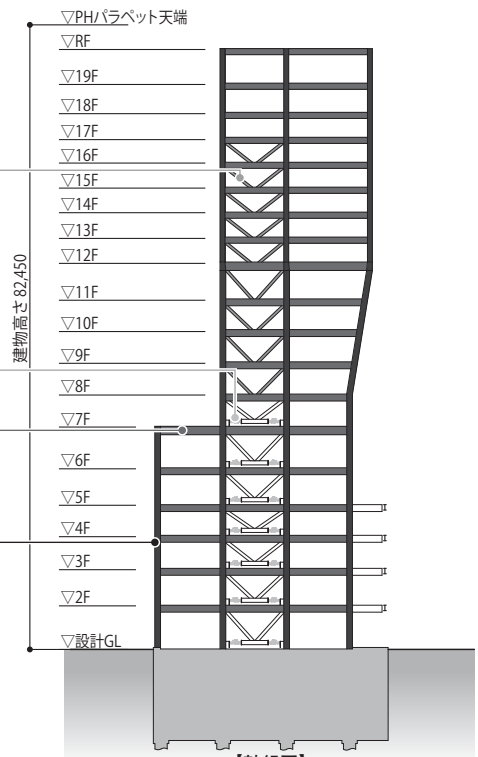
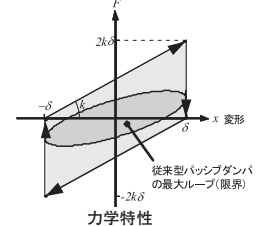


【座屈解析】



外観写真

【高性能オイルダンパ(HiDAX-e)】



【軸組図】



みや わき まさ なお
宮脇正尚

生年月 1983年12月兵庫県生まれ
最終学歴 2008年信州大学大学院工学系研究科修士
業務経歴 2008年㈱大林組入社
2008年大阪本店構造設計部
2012年本社構造設計部
2014年大阪本店構造設計部

●担当した主なプロジェクト

- ・エルヴェ東天満マンション新築工事
- ・株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所転炉新築工事
- ・(仮称) 港区港南二丁目計画
- ・(仮称) 日本橋二丁目地区第一種市街地再開発事業
- ・新日生病院建設プロジェクト
- ・市営桜の宮住宅建替事業
- ・(仮称) 堺筋本町ホテル計画

■青年技術者のことば

構造設計者の役割は、単に構造計算をする（基準法を満足させる）ことでは無く、意匠・設備・施工性とのバランスを図り、その時々条件に応じて合理的な判断していくことだと思う。そのためには、力の伝達、変形をイメージしながら結果を予測し、その結果の妥当性を技術的な裏付けにより確認するとともに、外力等の不確実性を適切に理解・把握しながら設計者として判断を下していかなければならない。その経験、根拠を蓄積していくとともに、分野に捕らわれない広い関心興味を持ち、日々進歩している新しい技術を積極的に利用・応用していくことで、設計者として成長していきたい。また、近年の構造（耐震性）に対する社会的関心の高まりに対して、建築主のニーズを的確に捉え、設計する建物の性能、仕様を明確に分かりやすく説明する責任があり、建築主とその目標性能（耐震性能に限らず、遮音・振動性能等も含めて）を共有できる設計者になっていきたいと思う。そして、設計者として持てる技術を最大限に発揮し、建築主と共感し合える空間、社会に価値のある建築物を創出できる技術者を目指していきたいと思う。

■すいせん者

大住和正
(株)大林組 大阪本店 建築事業部
構造設計第一部 部長

V字形状を有する免震構造板状集合住宅

●はじめに

本建物は、JR品川駅から南東に約800mの地点に位置し、高浜運河（東側）と天王洲運河（南西側）が交わる運河の交差点に面し、各運河に面して最大限住戸を配置できるようV字型形状を採用し、西側住戸と東側住戸を結び渡り廊下によるセンターボイド型の集合住宅となっている。また「防災対策を備えた住まいづくり」の観点から免震構造を採用している。

●構造計画

上部架構は、免震効果を効果的に発揮する為、住戸間戸境壁を連層耐震壁とし高い剛性を確保する計画とした。建物形状がV字型となっており、過大なねじれが生じないよう、西棟連層耐震壁は間柱を設けた壁柱（免震装置は壁柱中央の1カ所に配置）とし曲げ系の剛性にすることで、東棟側のY方向純ラーメン架構との剛性のバランスを図った。また建築計画に必要となる渡り廊下を、2棟を連結する構造部材として活用することで、V字形状の建物の安全性を高める計画とした。免震層は、長周期地震動にも配慮し、繰返し依存の小さい天然ゴム系積層ゴム、弾性すべり支承により構成し、オイルダンパーにより効果的にエネルギー吸収する計画とした。弾性すべり支承は、変動軸力の少ない箇所または変動軸力が正負加力時に対称となる箇所に配置した。レベル2地震動において免震装置に引抜力が生じないように

計画し、圧縮軸力が小さい箇所については、想定を超える引抜力が生じた場合に対して免震装置の引張面圧が過大にならないように引抜力制御プレートを設置し、安全性を確保している。

○建物形状を考慮した設計

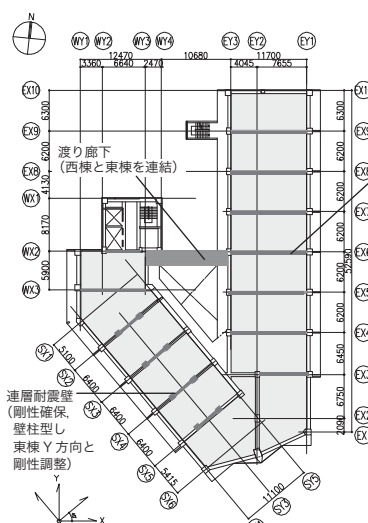
・2棟を連結する渡り廊下梁

V字形状の建物の西棟と東棟の振動性状が同じとなるようにし安全性を高めるために、建築計画に必要となる渡り廊下を2棟を連結する構造要素として活用している。スラブの面内剛性を評価した立体フレームモデルによる振動解析を行い、レベル2地震動に対し

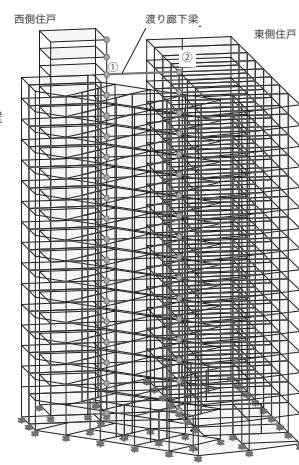
て、西棟と東棟を連結する梁に損傷が生じないことを確認した。渡り廊下の部材設計において、2棟を連結する重要な部材であることを考慮し、振動解析で得られた軸力がひび割れ軸耐力以下になることを確認した。また、廊下直交方向に生じる応力に対しても短期許容耐力以下となることを確認した。

・東西住戸連結部

V字型形状の付け根となる接続部のスラブについても、スラブの面内剛性を考慮した立体フレームモデルによる振動解析でせん断力を確認し、連結部スラブコンクリートのせん断ひび割れ強度以下であることを確認している。



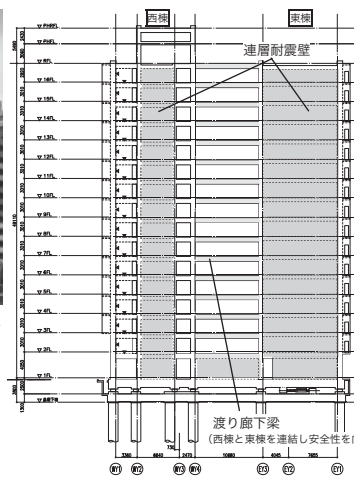
基準階平面図



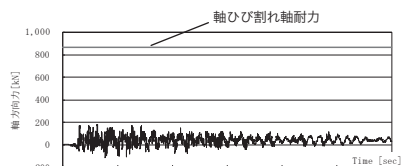
時刻歴応答解析モデル



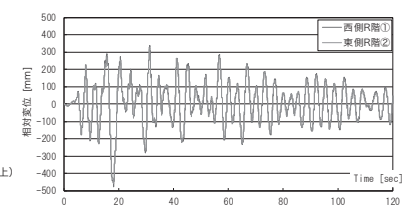
外観パース



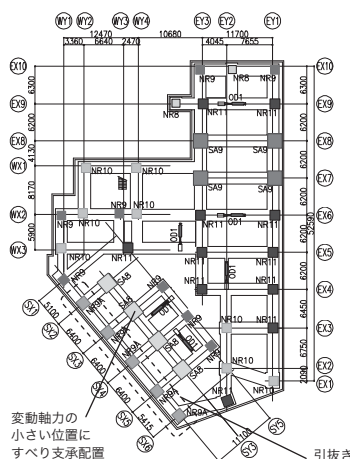
建物断面図



西棟①-東棟②間 R 階軸方向力
時刻歴応答解析結果

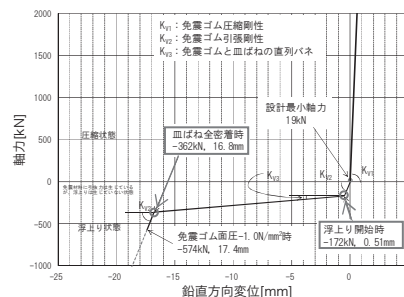


西棟①,東棟② R 階廊下直交方向変形量
時刻歴応答解析結果



免震層伏図

免震材料符号	型式	ゴム外径 [mm]
NR10	E35-900-6.0×30	φ900
NR11	E35-900-6.0×25	φ900
NR12	E35-900-6.0×25	φ900
NR13	E35-900-6.0×25	φ900
NR14	E35-900-6.0×25	φ900
NR15	E35-900-6.0×25	φ900
NR16	E35-900-6.0×25	φ900
NR17	E35-900-6.0×25	φ900
NR18	E35-900-6.0×25	φ900
NR19	E35-900-6.0×25	φ900
NR20	E35-900-6.0×25	φ900
NR21	E35-900-6.0×25	φ900
NR22	E35-900-6.0×25	φ900
NR23	E35-900-6.0×25	φ900
NR24	E35-900-6.0×25	φ900
NR25	E35-900-6.0×25	φ900
NR26	E35-900-6.0×25	φ900
NR27	E35-900-6.0×25	φ900
NR28	E35-900-6.0×25	φ900
NR29	E35-900-6.0×25	φ900
NR30	E35-900-6.0×25	φ900
NR31	E35-900-6.0×25	φ900
NR32	E35-900-6.0×25	φ900
NR33	E35-900-6.0×25	φ900
NR34	E35-900-6.0×25	φ900
NR35	E35-900-6.0×25	φ900
NR36	E35-900-6.0×25	φ900
NR37	E35-900-6.0×25	φ900
NR38	E35-900-6.0×25	φ900
NR39	E35-900-6.0×25	φ900
NR40	E35-900-6.0×25	φ900
NR41	E35-900-6.0×25	φ900
NR42	E35-900-6.0×25	φ900
NR43	E35-900-6.0×25	φ900
NR44	E35-900-6.0×25	φ900
NR45	E35-900-6.0×25	φ900
NR46	E35-900-6.0×25	φ900
NR47	E35-900-6.0×25	φ900
NR48	E35-900-6.0×25	φ900
NR49	E35-900-6.0×25	φ900
NR50	E35-900-6.0×25	φ900
NR51	E35-900-6.0×25	φ900
NR52	E35-900-6.0×25	φ900
NR53	E35-900-6.0×25	φ900
NR54	E35-900-6.0×25	φ900
NR55	E35-900-6.0×25	φ900
NR56	E35-900-6.0×25	φ900
NR57	E35-900-6.0×25	φ900
NR58	E35-900-6.0×25	φ900
NR59	E35-900-6.0×25	φ900
NR60	E35-900-6.0×25	φ900
NR61	E35-900-6.0×25	φ900
NR62	E35-900-6.0×25	φ900
NR63	E35-900-6.0×25	φ900
NR64	E35-900-6.0×25	φ900
NR65	E35-900-6.0×25	φ900
NR66	E35-900-6.0×25	φ900
NR67	E35-900-6.0×25	φ900
NR68	E35-900-6.0×25	φ900
NR69	E35-900-6.0×25	φ900
NR70	E35-900-6.0×25	φ900
NR71	E35-900-6.0×25	φ900
NR72	E35-900-6.0×25	φ900
NR73	E35-900-6.0×25	φ900
NR74	E35-900-6.0×25	φ900
NR75	E35-900-6.0×25	φ900
NR76	E35-900-6.0×25	φ900
NR77	E35-900-6.0×25	φ900
NR78	E35-900-6.0×25	φ900
NR79	E35-900-6.0×25	φ900
NR80	E35-900-6.0×25	φ900
NR81	E35-900-6.0×25	φ900
NR82	E35-900-6.0×25	φ900
NR83	E35-900-6.0×25	φ900
NR84	E35-900-6.0×25	φ900
NR85	E35-900-6.0×25	φ900
NR86	E35-900-6.0×25	φ900
NR87	E35-900-6.0×25	φ900
NR88	E35-900-6.0×25	φ900
NR89	E35-900-6.0×25	φ900
NR90	E35-900-6.0×25	φ900
NR91	E35-900-6.0×25	φ900
NR92	E35-900-6.0×25	φ900
NR93	E35-900-6.0×25	φ900
NR94	E35-900-6.0×25	φ900
NR95	E35-900-6.0×25	φ900
NR96	E35-900-6.0×25	φ900
NR97	E35-900-6.0×25	φ900
NR98	E35-900-6.0×25	φ900
NR99	E35-900-6.0×25	φ900
NR100	E35-900-6.0×25	φ900



引抜き力制御プレート機構



わた なべ
渡 邊 祥

生 年 月 1987年7月京都府生まれ
最終学歴 2012年大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻
業務履歴 2012年(株)安井建築設計事務所入社
現在 大阪事務所構造部
●担当した主なプロジェクト
2013年 KIX 2期南側貨物地区上屋
2014年 タリーズコーヒー宝塚店
昇陽高等学校新校舎増築
2016年 小野薬品工業水無瀬研究所
2017年 近大生駒グラウンド合宿所
大阪スバル和歌山店
三重交通G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場
2018年 大阪国際空港TB再整備
京都大学桂図書館(施工中)

■青年技術者のことば

建築は、設計者だけで作るものではない。ある人がとある建築を作りたいと思い、誰かが設計し、そのまた誰かが施工をする。もちろん「設計」においても、ただ一人で設計するわけではない。意匠・構造・設備とわかれていてもそうであるが、それ以外にもあらゆる人の協力が必要不可欠である。設計者は料理人のような仕事だと思う。料理人はあらゆる所で食材を買って、それを調理してそれを品物として提供する。もちろん例外もあるかもしれないが、野菜を栽培したり、家畜を育てるところまではしない。誰かが育ててくれたものから選んで、自分の味に仕上げる。設計者も同じである。決して鉄骨・コンクリートから外装材に至るまで、設計者自らが素材を製作をするわけではない。数多ある建築材料から選んで、建物をかたち造る。そのかたち造る際のヒントは、意外なところでの会話の中にあたりもする。このような状況で成り立つ「設計」だからこそ、様々な関係性を大切にしながら、そこで得たあらゆる知識を吸収し、少しずつでも進歩したい。

■すいせん者

山浦晋弘
(株)安井建築設計事務所
大阪事務所 構造部長

「伊勢」に呼応した架構デザイン ―三重交通G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場―

1. はじめに

本建物は、三重県伊勢市に位置し、神宮の森に隣接する五十鈴公園内に建つ。伊勢神宮内宮につながる「杜の中の競技場」をコンセプトに「架構美の継承」「山並み景観との調和」「素材感」をキーワードとして設計を行い、「伊勢」に呼応した競技場をめざした。

2. 構造計画

①搬入と揚重計画

PCaPC造を採用する場合、PCa部材をどう分割して現場に搬入するか、またいかに鋼製型枠の数・種類を減らしてコストを下げるかが計画上のポイントになる。そのため、早期に概略応力解析を行って主架構の仮定断面を出し、おおよその重量を求めた。その結果をもとにPC専門業者に協力を求め、揚重計画と合わせてどこで各ピースに分割するか、どう圧着接合するかをイメージしながら検討を進めた。

②テンションロッドの配線計画

配線計画にあたって、まず力の流れとロッドの役割を明確にしようと考えた。大屋根を軽快に支えるためにテンションロッドを用いるものの、その配線によっては地震時にブレースとして

効き、思わぬ損傷を引き起こす。そのため、地盤面に斜め柱から垂直に配線し、最上部で大屋根鉄骨ばりに斜めに分岐させることにした。また、計画当初のメイン柱の傾斜をどの程度傾けるかを意匠設計者と打合せしながら最終的なフォルムを決めた。さらに、吹上げ防止用のテンションロッドは観客席内に設けることになるが、事前に同種の競技場を見学したほか、BIMによる視認性の検討を加えながら、建築主の同意を得て視線の妨げにならない取付け位置を決めた。

③貫を再現する接合部の検討

コンクリートとコンクリートが交差する部分はPCa部材の圧着接合と簡単に思いつくが、鉄とコンクリートの交差をどう処理するかが課題であった。テンション構造は地震や風による変形がしやすい特性をもっているため、柱2本の間を通し、そこに回転ピン支承を設けて接合させた。その他、複数の部材が集まる接合部についても、BIMを用いて個々にGPLの取りあい、施工性を確認しながら形状を決定した。

④弱点をつくらない計画

スタジアム系の建築には特有の課題がある。それは斜め梁による短柱をどのように処理するかという課題だ。今回はコンコースを分棟化させることで、その構造上の弱点をつくらない計画とした。さらにはそのコンコース棟を鉄骨造で計画することで、同様に課題であったコスト抑制が達成できた。

3. 構造設計の概要

本建物は不静定次数が低く、軸力系でバランスが保たれているため、想定外が起きた時のフェイルセーフとして、大地震時における弾性設計を行うことで安全性を担保した。また構造解析については、屋根鉄骨から地中梁までを一体としたモデルを用い、一部のテンションロッドの張力が消失した際の検討も行い、消失時でも崩壊させない設計とした。

4. さいごに

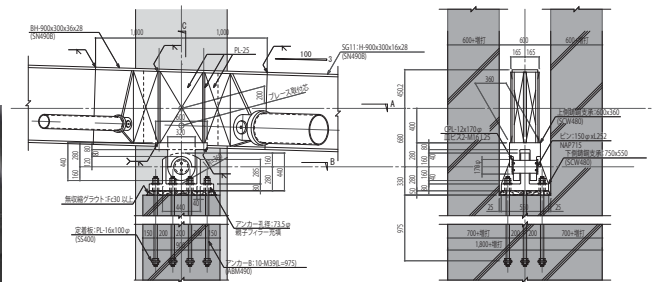
たくさんの関係者の方のご協力があったからこそ、神宮につながるこの場所にふさわしい表情の競技場を実現することができたと考えている。



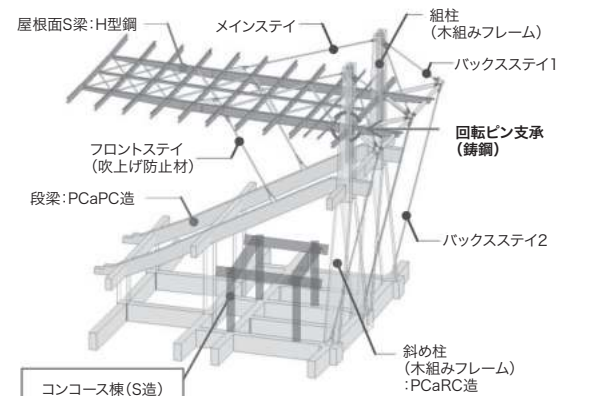
外観 南西面



外観 南東面



屋根面大梁接合部詳細(回転ピン支承部)



構造パース



外観 西面(正面アプローチより)



こばやし ゆう すけ
小林 佑輔

生年月 1983年5月兵庫県生まれ
最終学歴 2006年同志社大学工学部
機械システム工学科卒
業務経歴 2006年㈱竹中工務店入社
2007年大阪本店設計部
2010年神戸支店設備部
2013年大阪本店設計部
●担当した主なプロジェクト
2008年 朝日放送アネックス
2010年 JR尼崎北NKビル
2010年 日生御堂筋ビル立体駐車場
2010年 大丸京都店大規模改装
2013年 神戸薬科大学6号館建替
2015年 堂島アクシスビル熱源・空調
改修
2016年 萬世電機本社建替
2017年 ケイ・オブティコムビル

■青年技術者のこぼれ

私は、設備設計者には建築主の建物に期待する想いやニーズを把握し、綿密なコミュニケーションを重ねて具体化すること、社会的なニーズとして環境配慮が求められる中で、人々の快適性を損なわないように、いかに両立できるかが求められていると考えている。建物運用後において、私が関わる電気設備、機械設備が建物の環境配慮性能や建物内の人々の快適性に大きく影響を与えるため、その役割は大きい。私は本計画に取り組むにあたり、建築主の想いを共有して建物を作り上げることを意識し、新たな技術導入をはじめとしたチャレンジを通じて、環境配慮と人の快適性に着目し設備計画を行った。今後も環境配慮しつつ人々が快適に過ごすことができる空間を創造し、まちづくりに貢献していきたい。また、建築主や関係者との想いを共有するためにコンピュータ・デザインの活用などの新たなモデリング手法にもチャレンジし、自己研鑽を重ねて新たな設備技術の開発など、設備技術の発展に臨んでいきたい。

■すいせん者

椎葉隆代
㈱竹中工務店 大阪本店
設計部 設備部長

ケイ・オブティコムビルにおける設備計画

1. 設備計画のコンセプト

本計画は、建築主の想いとしてテナントオフィスビルの機能性・効率性、省エネルギー・省CO₂、快適性・知的生産性、BCPに配慮することが求められた。そこで、①テナントオフィスビルの機能性と省エネルギー性の両立②快適性・知的生産性と省エネルギー性を高める空調計画③ライフサイクルを適正化する省エネ・省資源化計画④テナントのBCPサポートを設備計画のコンセプトとした。



図-1 建物外観

2. 具体的な取り組み

2.1 テナントオフィスビルの機能性と省エネルギー性の両立

外周部各方位には定風量換気装置を設置し、自動開閉により自然換気を行う計画としている。低層用（6～17階）・中層用（18～20階）・高層用（21～22階）のフロアで使い分けたボイドを併用し、水平・垂直の自然換気効果を向上させている（図-2）。オフィスの照明器具には、各センサ、パーソナル気流ユニットを複合設置できる計画とし、照明発光部は天井面から14.5m突出しており、執務者の視角及び天井面の明るさ感を高めることで、低照度での視環境を向上している。照明制御は、基準モジュール3.2m×3.2m毎に明るさセンサ、人検知センサ（画像センサ）を配置して、きめ細かな調光制御により省エネルギー性を高めている。

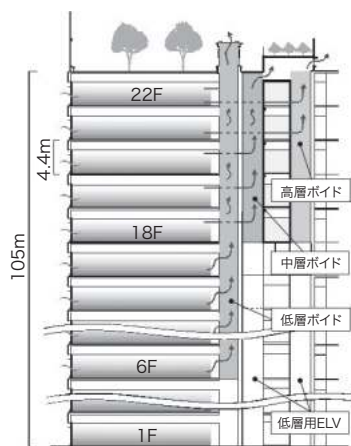


図-2 複数ボイドを組み合わせた自然換気

2.2 快適性・知的生産性と省エネルギー性を高める空調計画

空調システムは、建物の環境配慮性能を高めつつ、建物内で過ごす人々の快適性に配慮した計画とした。放射空調は室内温度に近づけた熱媒温度帯を利用するのに適した方式の一つであり、気流感が少ないことが特徴である。更に執務者の状況や好みに応じて気流感を調節できるパーソナル気流ユニットを併用することで、より温熱環境に対して満足度が高く、省エネルギーなオフィス空間を創出できると考えている。放射空調は、インテリアゾーンの室内ユニットの冷風を利用して、天井面の金属パンチングパネルを冷却する空気式放射空調としている。パーソナル気流ユニットは執務者毎に設置して、座席PCからweb操作により、気流の強・弱・停止の切り替えを行う計画としている。換気および除湿は、全熱交換器を組み込んだセントラル外調機で冷却除湿により潜熱処理を行っている。外調機の冷温風を天井面より室内へ供給し、床吸込口を介して外調機へ還気している（図-3）。

熱源・空調二次側計画として、放射併用パーソナル空調に、冷水供給温度を高めた中温熱源、冷媒搬送動力のいらない冷媒自然循環システムを組み合わせることで、省エネルギー性をさらに高めている。熱源は高効率空冷モジュールチラーと熱回収型水冷チラー、水蓄熱槽で構成し、冷水供給温度を9～13℃として熱源効率を向上している。冷水の送水温度を自動で可変制御及び2段階のカスケード利用により、熱源・搬送効率を高めている。冬季は冷却塔フリークーリング及び熱回収型水冷チラーの熱回収運転により、省エネルギー性を高めている。空調二次側計画は、中温冷水を利用した個別分散型冷媒自然循環システムとしている。冷媒自然循環システムは、個別分散型空調による利便性や空調搬送動力の低減効果などのメリットがあり、これまで主に水蓄熱の低温冷水と組み合わせ導入されてきた。本建物への導入を目指して、中温冷水（9～13℃）に対応した冷媒自然循環システムを新たに開発し、熱源を含めた大幅な省エネルギー化を実現している。

2.3 ライフサイクルを適正化する省エネ・省資源化計画

BEMSは、ビル管理者だけでなくテナントへの見える化をサポートする計画としている。テナント毎に熱源・空調・電灯コンセントの電力量を座席PCと大型ディスプレイに表示して、省エネルギーの啓発を促す計画としている。屋外環境の快適度合をソトワーク指数として表示し、執務者に屋上テラスなどのコミュニティスペースの利用を促す計画としている。

建設時の品質向上と省資源化を図るため、低圧幹線バスダクト、オフィス照明のワンタッチコネクターケーブルユニット、ユニットトイレ、樹脂管スプリンクラー、冷温水配管ライザーユニット、電気室などのソックダクトを導入した。

2.4 テナントのBCPサポート計画

受電は特高22kV変電所2回線受電方式としており、電力供給の信頼性を高めている。商用電源からの電力供給停止時には、非常発電機72時間運転可能な燃料を確保しており、執務室・共用照明の20%と執務室コンセント15VA/㎡に電力供給可能な計画としている。給排水機能の確保として、断水時対応として上水は4日分、雑用水は水蓄熱槽を含めて2週間分を、排水インフラ停止時の対応として排水一時貯留槽2週間分を確保している。加圧ダクトと排煙ダクトにセントラル換気ダクトを兼用する換気ダクト兼用加圧防排煙システムを採用し、スペース効率と火災時の避難活動と消防活動の安全性向上の両立を目指している。

3. 今後の展望

本計画は既存ビルの建替にあたり、次世代テナントオフィスビルを創造し、周辺エリアの魅力再生につなげることを目指した。本計画で得られた知見は見学会や雑誌掲載、論文発表を通じて情報発信をしており、竣工後においては執務環境や執務者の快適性を把握するための集中実測を実施する予定としている。

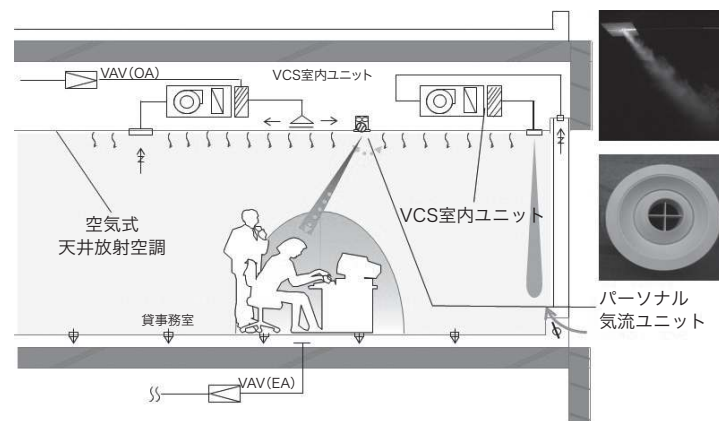


図-3 放射併用パーソナル空調システム



たかね たけし
高根 澤武

生年月 1984年6月 静岡県生まれ
最終学歴 豊橋技術科学大学大学院
工学研究科建設工学専攻
修了

業務経歴 2009年(株)日建設計入社
エンジニアリング部門
設備設計グループ
設備設計部所属

●担当した主なプロジェクト
2012年 墨田区押上駅自転車駐車場
2013年 東京理科大学葛飾キャンパス
2014年 第一共品川研究所
2015年 神奈川池田記念講堂
2015年 アクティオ三重いなベ
テクノパーク統括工場
2016年 日野自動車古河工場
2016年 東京都豊洲新市場
2016年 小学館ビル
2016年 メロディアン(株)関東工場
2018年 ヤマザキマザック
いなべ新工場
2018年 荒川ビルプロジェクト
2018年 原子力機構分析・研究施設

■青年技術者のことば

「施主の要望」というものは明確な形で提示される条件の場合もあれば、会話の中で垣間見える些細な希望の場合もある。これらを総合的に判断して「適切」な設計条件を見極めることが、AI（人工知能）には真似のできない設計者として必要な職能の一つと考え日々業務に取り組んでいる。

また意匠・構造・設備の垣根のない検討・調整が、それら設計条件に対し最善の答えを出す設計の遣り方であると考え。

小学館ビルの設計において、計画を始めるにあたり、既存ビルでの執務者の働き方を徹底リサーチした。その情報を設計条件の一部とし最適な執務空間を検討した結果、特徴的なスラブ断面を有する建築物及び、独特な設備計画を実現出来た。

これからも「設計条件の見極め」を慎重に行い、建築担当・構造担当・設備担当が丸となって設計に取り組むプロジェクトの進め方を続けていきたい。

■すいせん者

向井文悟
(株)日建設計 エンジニアリング部門
設備設計グループ
設備設計部長

小学館ビル ー働き方をかたちにした建築・構造・設備一体の建築物ー



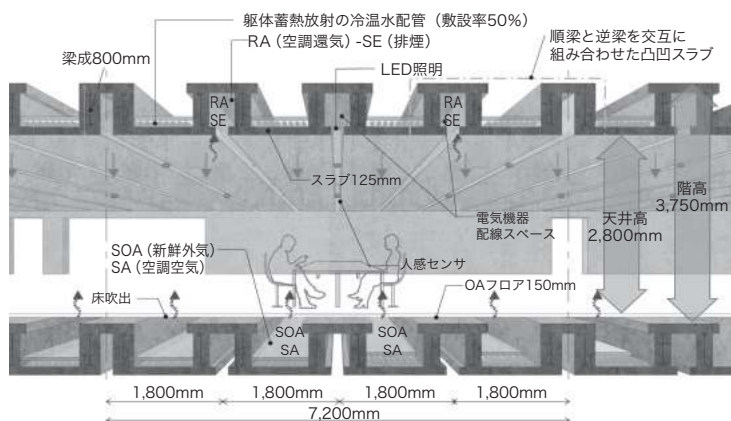
建物外観



基準階執務エリア

■階高縮小を目指した建築・構造・設備一体の工夫

階高を最小限に抑え1フロアでも多くするための断面計画を追求した。3～10階事務室は階高3,750mm、柱型梁型を出さない70m×15mの無柱空間とし、その床組みには、順梁・逆梁を交互に組み合わせた凸凹スラブを採用した。限られた階高の中、建築・構造計画との調整によりスラブの凸部分に照明器具を主とする電気設備機器設置空間を確保し、FL+2, 800mm以内に照明器具等が露出することがない計画とした。



断面の模式図

照明設備は1,800mmピッチ（7,200mmのスパンに4列）で配置できるよう梁配置を構造設計担当者と調整し、その結果7.2mスパンに梁が8つ並び、4つの凸凹が存在する独特な断面となった。事務室の空調方式は放射冷暖房とし、凹部分の底面に冷温水配管を埋設した。凹部分の空間は外気と補助給気のルート、照明が設置されている凸部分の空間は還気や排煙ルートとして利用することでダクトや空調機なども含め、事務室内のFL+2, 800mmに設備機器が露出しない開放的な空間とした。

■働き方のリサーチを元に決めた要件

日本社ビルでの働き方リサーチの結果、在席率に波のある働き方に柔軟に対応し、省エネルギーにも寄与する電気設備として基準階事務室の照明の人感センサによる点滅制御を採用した。センサ感知範囲の境界付近における照度不足や、壁面付近の照明器具が消灯することによる空間の明るさ感低下の問題に対しては、アドレス付きLED照明器具を使用し、制御の条件を追加することで解決した。

アクティオホールディングス統括工場 ー材料と効果のコストバランサーー



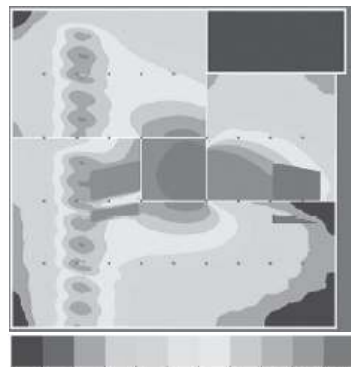
建物外観



建物内観



夏至17時 採光イメージ



夏至17時 透過率49%での照度分布シミュレーション

■ポリカーボネート板を使用した大型窓

省エネのため自然光を取り込みたいが直射光は業務に支障があるとのことから、建築担当とともに「ポリカーボネート板（以下ポリカ板）を使用した大型窓」の採用を提案した。

第一段階として直接光の時刻別採光イメージを確認した。

第二段階としてポリカ板の種類と透過率を調査し、透過率の違う4種（90.3%、28.8%、70.3%、22.4%）を候補として選定した。また大型窓からの

日射負荷低減のため、100mmの空気層を設けてポリカ板を二重に張ることで、簡易的なダブルスキン窓とした。第三段階として各ポリカ板を使用した場合の採光シミュレーションを行った。その結果北側窓は最も透過率の良い組み合わせとし、その他方角の窓は透過と照度分布のバランスが良かった透過率49%となる組み合わせとした。本プロジェクトでポリカ板を使用した理由は自然光の導入による省エネルギーに加えて「ローコストでの実現」が命題であったからである。



ライトアップ（北東）



ライトアップ（北）

■最小限の灯数で効果的なライトアップ

本建物は白から赤へ変化する高さ14mのグラデーションルーバーがデザインのポイントとなっている。ライトアップはこのグラデーションルーバーを照らすのではなく背面の工場外壁を照射することで、グラデーションルーバーが浮かび上がる計画とした。ライトアップのため工場全体を明るくすることなく、ファサードの一角に限定したライトアップで、最小限の灯具により効果的にグラデーションルーバーを印象付けている。



た な か ゆう すけ
田 中 祐 輔

生 年 月 1983年 6 月愛知県生まれ
最終学歴 早稲田大学大学院建築学
専攻 修了

業務実績 2008年 (株)三菱地所設計
入社
2008年 機械設備設計部
2016年 関西支店

●担当した主なプロジェクト
2012年 DNP市谷田町ビル
2014年 西新橋スクエア
2016年 DLXビルディング
2017年 南都銀行桜井支店
2018年 (仮称)クボタ枚方総合棟
2018年 JA香川県本店ビル
他、常盤橋プロジェクト、虎ノ門駅
前地区再開発等を担当

■青年技術者のことば

建築設備設計者として「快適に住
まうことができ、長く経済的に使
える建築をつくること」、それが
私の使命であると考えている。空
調衛生設備は、現代建築の中にお
いては、あって当たり前の設備で
ある。素晴らしい空調環境をつく
りだしても、そこに称賛はほばな
い。むしろリアクションがあると
すれば「暑い、寒い」といったク
レームがほとんどだ。それでも、
この仕事のやりがいは、様々な省
エネ手法や、維持管理しやすい設
備といった見えないところでの工
夫や努力が、数年後、建物を利用
し続けた実績から評価されていく
ことであると私は感じている。

この業務に就き10年が経過した。
これまでの業績を振り返ると、事
務所テナントビルの設計と監理を
多く経験している。入社当時、「建
築設備設計の仕事は、設計から監
理、アフターとひと通り経験し、
一人前と言われるまでに10年は必
要だ。」と言われたことを思い出
す。しかし設備設計の幅はとても
広く、一人前にはまだほど遠いと
実感している。今後は、事務所ビ
ルだけではなく、様々な用途の設
備設計にチャレンジしていき、少
しでも早く一人前と言われるよう
励むつもりである。

■すいせん者

山縣洋一

(株)三菱地所設計 機械設備設計部
ユニットリーダー

西新橋スクエア 高レンタル比と室内環境向上の両立

東京都総合設計制度を活用し、環境負
荷低減他、様々な評価を受け割増容
積率を得て敷地の高度利用を図った複
合用途ビルである。オフィス基準階は
アウトフレーム、全面ダブルスキンの
採用や、高レンタル比と室内環境向
上の両立を図り、高水準なテナントオ
フィスを目指した。

■熱負荷の削減

外観はガラスファサードを主体にアウ
トフレーム構造によって室外に出た
柱型とし、また商業施設の入る低層部
は緑化バルコニーを設け、日射遮蔽を
行った。外装はコンパクト型ダブルスキ
ンカーテンウォールを全面的に採用した。
(図1)キャピティーの寸法を280mmと
窓清掃可能な最小値にすることで床面
積の無駄を省き、省コスト化を図った。
自然給排気口は各階毎に設ける仕
様のため、ショートサーキットを抑制
する構造とし、外装の1/2実大実験に
より確認した。合わせて、太陽光追尾
型電動ブラインドにより、方位毎に自
動で最適なスラット角度を調整し日射
遮蔽による熱負荷低減を図った。ダブ
ルスキンの熱的性能は設計値として、
K値=2.2W/(㎡K)、 $\eta=0.18$ とした。

■熱源設備計画

熱源設備は地域冷暖房(DHC)施設から
の冷水・蒸気受入方式とした。近接の
地冷プラントより洞道を新設し、地下
2階の主機械室にて受け入れ、熱交換

器を介して建物内に冷水・温水を供給
している。配管系統は、高層・低層の
2系統にゾーニングを行い、高耐圧仕
様の機器の使用をできる限り避け、更
新性・維持管理性に配慮した。送水
温度差 $\Delta t=10^{\circ}\text{C}$ の大温度差送水とし、
すべての空調機に流量計測機能付き2
方弁を設置し、ポンプは変流量VWV-VM
(バルブモニタリング)制御とし、各
空調機において空調負荷に必要な流量
を確保しながらポンプの吐出圧力設定
を出来るだけ下げ、搬送動力の削減を
図った。また、低負荷時対応として、
ポンプは3台分割に加え、小容量時
(10%以下)のポンプを設置している。
さらにポンプの電動機は、IPMモータ
を採用した。IPMモータは永久磁石を
回転子側に採用することで従来の高効
率モータよりもさらにロスが少なくさ
らなる省エネが可能となる。

■空調設備計画

オフィスの空調はVAVによる空調機方
式を採用している。テナント4分割に
合わせ4台の空調機を設置し、各ベリ
メータゾーンとインテリアのVAVは約
100~130㎡毎にゾーニングを行った。
空調機は、方位毎のベリメータとイン
テリアのそれぞれの系統に専用コイル
を設置し、1ファン3コイル型を採用
した。(図2)1台の空調機でベリメ
ータとインテリア毎に給気温度を可変と
することで、ベリメータ側に小部屋等
が設置される場合における暖房要求に
対応した。また外気冷房として、人員

に対応した外気導入量の2倍となる10
㎡/h/㎡迄を取り入れ可能とした。

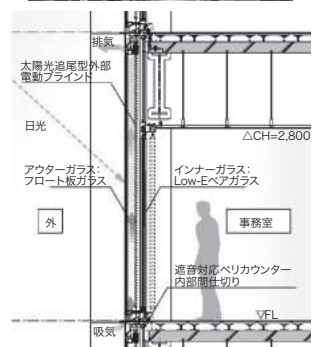


図1 ダブルスキン断面図

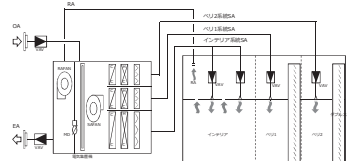


図2 オフィス空調フロー図

DLXビルディング デザインと構造・設備の融合

建築主が海運業を営んでいることに
よる、「船を想起させる」デザインと、
構造・設備を融合させることを設計
テーマとした。またテナントオフィスビルとしての競
争力を確保すべく、「安全・安心なビ
ル」、「使いやすいビル」、「地球環境に
優しいビル」を目指した。

■建築計画

基準階は33m×10mで、室内に一切柱が
出ない整形な空間で、レイアウトしやす
く使いやすいビルとなっている。600角
グリッドのシステム天井を採用し、天
井高は2.8m、OAフロアは100mmとした。
特徴的な構造を実現するため、免震構
造が採用された。短手方向は1スパン
架構のため、1.8m間隔で大梁が通っ
ている。計画初期から詳細な設備の納まり検討
を行い、隠蔽機器のフィルター交換な
どメンテナンス上も問題ないよう配慮
した。

■熱負荷配慮

南面からの日射に対しては、横連窓と
し梁が庇として働き、東からの光に対
しては、ポツ窓とし柱が縦格子として
働くことで日射を遮ることで負荷を低
減させている。

なお、高性能Low-Eガラスを採用し、
更なる日射熱を軽減している。以上
により、PAL値は旧PAL基準において
184.3MJ/㎡・年であり、基準値から
38.6%の削減を達成した。

■自然換気システムの採用

コアに設けられた階段室を空気の通り
道「エコチューブ」とし、トップの
塔屋階に建物内外の温度差と風圧によ
り、自動的に開閉する「スウィンド
ウ」を設置することによる自然換気を
導入した。中間期はオフィスの窓を開
けることで、外気を積極的に導入し、
冷房負荷の削減を可能とした。

■空調・換気設備計画

全館空冷パッケージ方式を採用し、テ
ナント、共用部単位での個別運転・設
定・制御、並びに課金を可能とするよ
う、室外機系統は分けて設置した。ま
た室内機は約20㎡に1台を目安に設置
し、モジュール・制御区画に整合した
細かいゾーニングを行い、テナント区
画毎にフレキシブルな運用を可能とし
た。(図3)
また全熱交換器毎にCO₂センサーを設
けることでCO₂濃度による全熱交換
器の風量切替制御を行い、エネルギー
消費を削減することを可能とした。

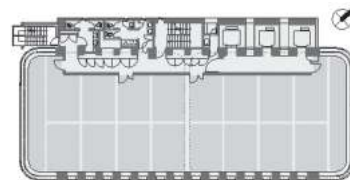


図3 基準階空調ゾーニング

なか よし ひろ
中 尾 善 弘

生 年 月 1985年1月3重県生まれ
最終学歴 2007年名古屋工業大学
工学部電気情報工学科卒業
業務経歴 2007年清水建設㈱ 入社
現在 関西支店設備設計部所属

●担当した主なプロジェクト

2009年 みはま病院本院
2011年 関西医科大学校方キャンパス
2014年 パークフロントホテル@USJ
2015年 沢井製薬三田西工場
2015年 清水建設㈱四国支店
2016年 和泉市立病院
2017年 新大阪ホテル計画
●受賞
2017年 照明普及賞

■青年技術者のことば

電気設備として建物に対してどのような貢献ができるか、という点が重要と考えている。建物を使う上で、照明器具が点灯して明るい、空調機が動くことで室内環境がよくなる、コンセントが使えることで作業をすることが出来る、といった当たり前のことを実現することは当然だが、その中でさらにによりよい空間づくり、環境づくりを考え続けることが電気設備設計者の使命と思う。

自然に対する環境負荷の低減が課題となる中で、建物利用者の利用環境を損なわずに省エネルギーを実現させるZEBを目標とした設備計画、太陽光や風力、地熱などの再生可能エネルギーによる創エネルギーを計画出来るのは設備設計者しか出来ない。

空間づくりに対して、照明手法や照明色を変えるだけで、建物を様々な表情に変えることが出来る。

意匠設計者のデザインに対する思いを汲み取り、求める表情を実現させることも電気設備設計の重要な役割と考える。

これらを組み合わせて、建物へどのように貢献していくかを考え続けることで電気設備設計者としての力を高めていきたいと思う。

■すいせん者

高橋宗純
清水建設㈱ 関西支店
設備設計部長

清水建設㈱四国支店における電気設備計画とエネルギー分析

●建築コンセプト

当プロジェクトは、清水建設旧四国支店の老朽化に伴い、汎用性の高い最新の省エネルギー技術を導入（eco）し、事業継続性（BCP）に対応した清水建設が提唱する「ecoBCP」のモデルビルとなる建替計画である。

3方向採光＋外部吹抜（エコポイド）を設けることで、自然採光や自然通風を最大限取り入れ、再生利用可能エネルギーでもある地中熱を空調熱源利用した新放射空調を採用した。

【BCP】

○電源計画

電源計画は、災害支援拠点として非常用発電設備による電源バックアップを行う計画とした。対象負荷は災害対策室となる会議室や給水ポンプをはじめ、執務室の照明とコンセントについては必要最小限の負荷に限定し、災害支援拠点としての機能を実現させる設備計画とした。

発電機連続運転時間はインフラ途絶からの復旧想定期間を3日以内とし、72時間としている。燃料は調達が容易な軽油を採用している。

○太陽光発電を災害時に活用

屋上に太陽光発電パネル20KWを設置し、系統連系にて平常時は省エネルギーに活用しているが、災害時・停電時は非常用発電機の自立運転による電源供給となるため、リチウムイオン蓄電設備16.8kWhを設置し、自然エネルギーを蓄電可能なシステムとした。蓄電設備は非常用発電機が稼働している間は、太陽光発電から充電のみを行い、インフラ途絶からの復旧が長期に渡り発電機燃料が枯渇した際には、自動切替により負荷側へ電源供給を行う。対象負荷は災害対策室である会議室の一部照明・コンセントとし、防災無線や衛星電話などの活用を可能とし、最低限の対応を可能とする計画とした。

【eco】

○照明計画での自然採光利用と省エネ制御

タスク&アンビエント照明手法を採用し、自然採光による省エネを最大とするため、照度センサを設置して、ベース照度を300lx（不在時は100lx）に設定することで、人工照明を極力使用せずに均一な照度とする計画とした。在室感知制御は、熱線センサでは在席していても小さな動きでは感知することが出来ず、減光してしまう。また感知エリアを通過するだけでも点灯してしまう。解決策として、画像センサを採用した。在・不在・通過の3概念による制御で不在時の減光だけでなく、執務室活動時の小さな動きに対して在席を感知し、不要な減光を防止、通過時の無駄な点灯を防止するなど、より省エネを図る計画とした。



建物外観



エコポイド

○使用者の必要な明るさにフレキシブルに対応

ベース照度は300lxを基本としているが、不在時や昼休みなど明るさを必要としない時間帯や朝礼など全体をより明るくしたいシーンに対して、照度センサと照度選択スイッチを併用し、ベース照度を選択することが出来る計画（100lx・300lx・500lx）とし、使用者の必要なシーンにフレキシブルに対応可能なシステムを導入した。

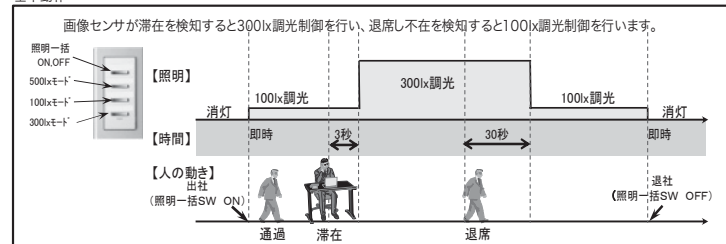
○エネルギー分析

建物全体の消費エネルギーの削減推移のエネルギー実績を示す。

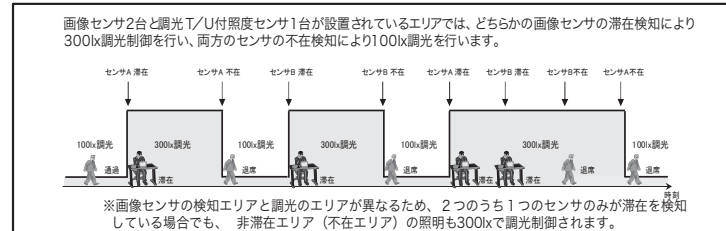
計画段階では、シミュレーションツールとしてBESTを用いて、一次消費エネルギー量を試算し、これをベンチマークとした。

竣工後2年間の建物運用によって、エネルギー消費を分析した結果を下記に示す。建物全体として、計画値では基準仕様に対して63%の削減が試算されているが、2016年度実績値は68.7%、2017年度実績値は71.1%の削減をしており、「ZEB Ready」を達成している。

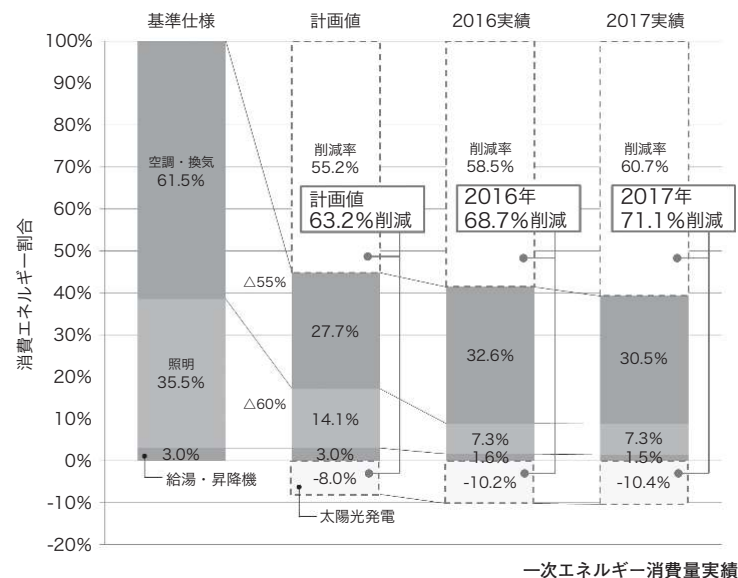
基本動作



詳細説明（現場環境）



照明制御フロー



一次エネルギー消費量実績



なか やま かず き
中山 和樹

生年月 1982年5月北海道生まれ
最終学歴 北海道大学大学院工学研究科空間性能システム専攻
業務経歴 2007年㈱大林組入社
2007年本社 設備設計部
2011年名古屋支店
現場工事事務所
2013年東北支店
現場工事事務所
2014年東京本店 設備部
2015年本社 設備設計部
2016年～現在
名古屋支店設備設計部

●担当した主なプロジェクト

- ・O社研究所
- ・大手町地区市街地再開発事業
- ・P社 生産施設
- ・T社 事業所
- ・福島県S社研究所

■青年技術者のことば

私が設備技術者として大事にしていることは、建物を使う人が快適に過ごす事が出来る事。省エネルギーに配慮された建物であること。メンテナンススペースが確保されていて、維持管理しやすいレイアウトである事など、「人」にも「地球環境」にも「やさしい」建物を作る事である。

設計を担当した研究所では、自身自身、大学在学中に研究していた潜熱蓄熱材や床吹出し空調、デシカント空調といった各種技術を採用導入した。各技術の原理原則論は理解していたものの、実際の設計に際しては「使う人のため」という視点に立った意識が非常に強く必要だという認識を持つことができ、その思いはその後の設計でも確実に活かしている。

施主、建物用途、立地や使い勝手が変わる限り、建築物の設計には唯一の正解はない。各々の条件を考慮し、最新の技術にアンテナをはり続け、その時点で最適と思われる設計をしていく。またその設計が、十分に施主の要求に答えていて、顧客満足度が得られ喜ばれる内容となるよう、日々の研鑽に努めたい。

■すいせん者

伊藤 剛
(株)大林組 本社
スマートシティ推進室 部長

最先端省エネルギービルの建設と新しいタスクアンビエント空調の開発

近年、省エネルギーに対する取り組みは加速しつつあり、ZEBやZEHといったキーワードも一般に浸透しつつある。環境配慮への意識が高まる一方で、CO₂排出量は年々増え続けており、削減のために喫緊の回答が求められている。私が設計を担当したO社研究所は、それに対する1つの回答として、時代の最先端を行く環境配慮施設であり、CO₂排出量55%削減を目標として掲げられた建物である。CO₂削減という課題への解決策として各種省エネ手法を統合的に組み合わせ、積み上げる事によって、最高水準のCO₂削減率が達成できるよう設計した。

1. 最先端省エネビルの設計

1.1 導入した省エネ技術

計画にあたって、導入した各種省エネルギー技術を

- ①自然エネルギーを最大限利用する「パッシブシステム」
- ②高効率設備を用いて消費エネルギーを抑制する「アクティブシステム」
- ③最適運用制御による管理システムや居住者参加型の環境活動支援といったソフト面での仕組みを含めた「マネジメントシステム」

以上の3つに分類し、既往技術とともに有機的に組み合わせることで省エネルギー効率を最大限発揮するよう心掛けた。採用した技術の一例をFig. 01に示す。

1.2 CO₂削減成果の実績

様々な省エネルギー技術を有機的に組み合わせ、最適設計を行った結果、全体の年間CO₂削減後の効果は43kg-CO₂/m²年、一般事務所のCO₂排出量を97kg-CO₂/m²年(H18年度の東京都省エネカルテ)と比較し、55%の削減という設計試算となった。実運用においては竣工直後からユーザーや施工者、建物管理者と運用チューニングWGを立ち上げ、運転の最適化を図る事によって、57.2%という設計値以上の削減率を達成する事ができた。(Fig. 02) また、環境性能を第三者の立場から示す指標となるCASBEEについては、取得当時(2010年)の最高評価点であるBEE値7.6のSランクを取得した。(Fig. 03)

2. 快適性と省エネルギーの両立を図ったドラフトレスタスクアンビエント空調

当建物は、居住者が研究者という性質上、高い知的生産性が重要視される。居住者に我慢を強いれば省エネルギーは達成できるが、知的生産性が落ち、決して居住者にやさしい建物とは言えない。快適性と省エネの推進は相反する場合が多く両立は難しいが、新しい概念のタスクアンビエント空調を考案し導入した。

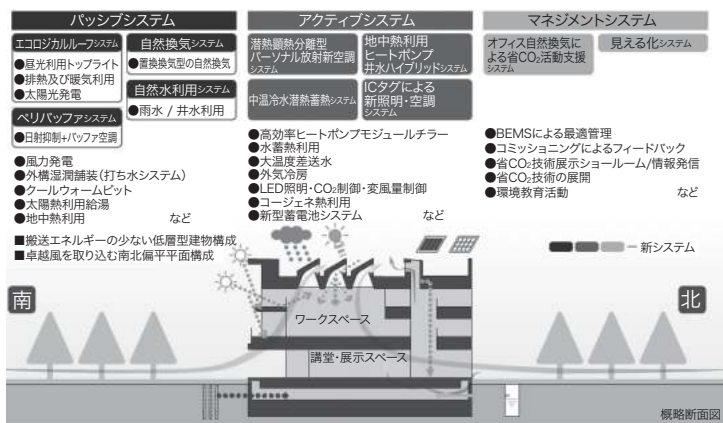


Fig.01 採用した省エネルギー技術

2.1 システム概要

従来のパーソナル空調は気流によるものが主流であったが、気流はドラフトとなり逆に不快感に繋がる事例があった。そこで今回のシステムでは、ドラフトの無い、放射と自然対流によるパーソナル空調の実現を目指したシステムを開発した。

パネル設置位置はデスクの正面とした。導入したパネル内部には自然対流を促進するコイルが組み込まれており、夏期においてはパネル内部を通った空気が下降流が生じ、人体方向へ静的な微風速気流が形成される。さらにその気流によってパーティションや什器表面も冷却され、二次放射による冷却効果も期待できる。設置位置は夏冬で最適位置となるよう、夏期は上部、冬期は足元に配置変更可能とする事で効果を最大限発揮できるよう工夫した。(Fig. 04, 05)

また新鮮空気は知的生産性に影響を持つ事が想定されたため、タスク空間に対して指向性のある気流を給気可能な床吹出し口により供給し、使用済み外気をアンビエント空間へ流用するカスケード型のシステムを形成した。

2.2 導入効果の検証

導入にあたっては、最適な設置位置、形状、面積、材質等条件を変化させながら効果検証を行った。最終的には処理熱量が確保可能な形状で、冷感の偏りの無さを総合的に判断し、前項で記載した位置・形状で実機導入を行った。

また、導入した実機を用いてサーマルマネキンや被験者アンケートにより導入効果を検証した。物理的な冷暖房効果としては、夏期はパーソナル空調から発生した自然対流効果により、全身温冷感に与える影響が大きいとされている上半身に冷却効果が表れ、冬期においても下半身に有意な暖房効果を得る事が出来た。被験者アンケートによる集計では、70%近い被験者がパーソナル空調による暖房効果を感じないとする一方、70~75%が快適かやや快適という回答をしており、ドラフトの無い意識させない空調が出来ている結果を得る事ができた。

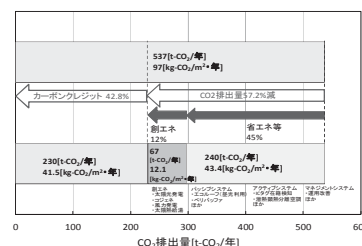


Fig.02 2011年度のCO₂削減実績

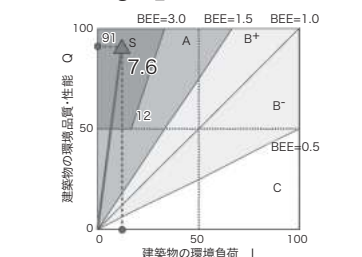


Fig.03 CASBEE評価結果



Fig.04 パーソナル空調概念図(夏)



Fig.05 パーソナル空調概念図(冬)

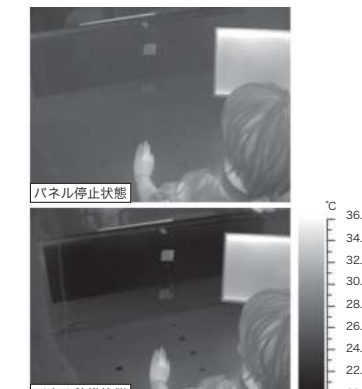


Fig.06 放射温度計によるパネル冷却効果



ぬき な とく ろう 賞 名 篤 郎

生年月 1982年6月兵庫県生まれ
最終学歴 大阪市立大学工学研究科修了

業務経歴 2007年 (株)建アクトデザイン入社
2014年 (株)建設計入社
エンジニアリング部門
設備設計グループ
設備設計部門所属

●担当した主なプロジェクト

2008年 本町南ガーデンシティ
2008年 日東電工滋賀第3工場
2009年 銀泉新橋ビル、伊丹ビル
2010年 ドギーマンハヤシKLC
2011年 関西外国語大学7号館
2012年 日東電工茨木inovas
2013年 龍谷大学瀬田農学部棟
2014年 北九州総合病院
2015年 関西外国語大学御殿山キャンパス

■青年技術者のことば

「建築物の省エネルギー」という言葉へのアプローチには2つの着眼点があると考えている。1つは発注者からの要望、負荷計算などから積み上げられた負荷容量を高効率な熱源や地中熱・太陽熱・井水熱といった未利用エネルギーを用いながら効率的に処理する方法。2つ目は処理する負荷そのものを削減してしまうという方法。後者は事務所ビル等の一般的な建物ではあまり感じることはできないが、研究施設・生産施設といったジャンルになると顕著に感じるようになる。

左に示す2つのプロジェクトでは「建築物への省エネルギー」に対して全く違うアプローチで実現できたと考えている。両者は用途も要求仕様も異なるものではあるが、省エネルギーという課題は同一であると思っている。与えられた仕様を変更するために説得する材料を考えるなど時に難しいと思うことも多いが、本当に発注者にとって利益となることは何かを常に考えながら様々な視点で建築物への関わりができるようになればよいと思っている。

■すいせん者

田中宏明
(株)建設計 エンジニアリング部門
設備設計グループ 部長

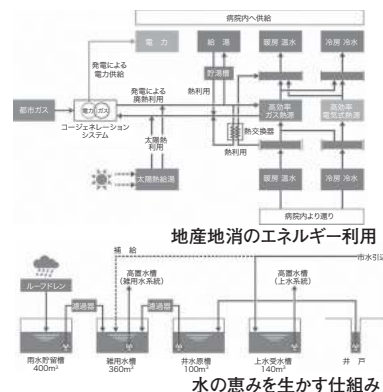
北九州病院における災害拠点病院における 非常時の自立を支える地産地消の省CO₂システム

コージェネレーションによる 地産地消のエネルギー利用

熱源エネルギーは図に示すようにガス・電力のベストミックスとし、災害時などのエネルギー供給の冗長性確保に配慮した計画とした。また、都市ガスによるコージェネを設け、発電と排熱の有効利用により高効率なエネルギー利用を行う計画とした。コージェネからの熱出力は、空調熱源、給湯熱源として活用している。都市ガスは信頼性の高い中圧ガス配管を引込み、災害時の安全性を高め、これらの熱源機器を複数台に分割設置し、危険分散と部分負荷時の容量制御を考慮した熱源システムとし、コージェネと一体となった運用によりエネルギーを有効に利用し、省エネルギーとCO₂排出量を極力抑えた、経済性の高いシステムを採用した。

建築と一体化した地中熱・井水熱利用システム

空調方式には空調機方式、外気処理空調機+パッケージエアコン方式を主体とし、院内の各部に適した方式を採用している。また、地中熱を利用したクールヒートトレンチ、井水熱を利用した井水コイルを導入外気の一次側に組込むことにより、外気の予冷・予熱を行っている。



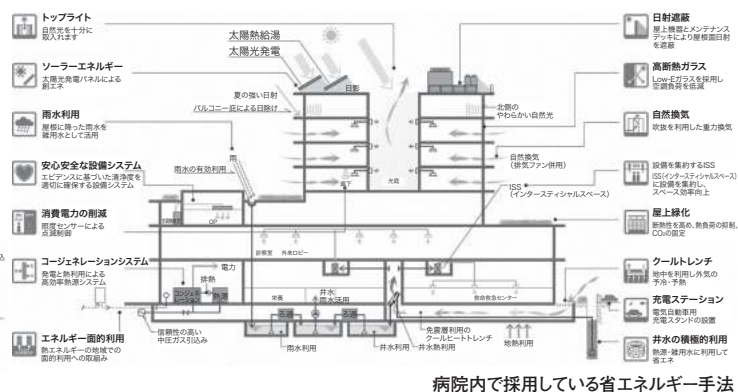
建物外観

水の恵みを生かす仕組み

給水系統は飲用水、雑用水の2系統とし、雑用水は便所洗浄水などに利用する計画としている。飲用受水槽はパネルタンク形式として、受水槽スペースに設置、パネル型水槽には耐震形を採用し、非常時にも備蓄水を保持することができる計画としている。スペース有効利用のため雑用受水槽は基礎梁ビット空間を利用したコンクリート水槽として設置している。また、図に示すように井水・雨水をろ過して雑用水として利用することにより水資源の有効活用を図っている。

太陽エネルギーを操る仕組み

蒸気ボイラにより供給される蒸気を熱源とする貯湯槽、循環ポンプにより中央方式給湯を行っている。太陽熱給湯設備を設置し、太陽光発電によるエネルギー取得と併せて太陽エネルギーを巧みに利用する計画としている。主な給湯個所は、厨房、浴室、シャワー、処置用、医療用流し及び手洗い、病室洗面器、スタッフステーション内流しなどとし、授乳室等には給湯用として貯湯式電気温水器の個別設置を行っている。



病院内で採用している省エネルギー手法

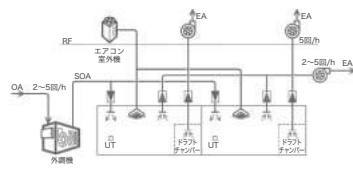
日東電工茨木事業所inovasにおける多彩な研究内容に フレキシブルに対応する設備システム

冗長性確保と省エネスイッチ によるファン動力のミニマム化

実験・評価エリアは仕様が未定のものが多い。しかし本プロジェクトではさらに将来的な実験内容変更に対応できるように冗長性も求められた。判明しているものは各室ごとの諸元に対応しつつ未定のものについても外気導入系統は5回換気を基準としつつ、未使用時は2回換気まで絞ることができるようにしている。また、風量の大きいドラフトチャンバーに関しては開閉度に合わせて高速VAVにて外気導入風量の制御ができるようにしている。研究者の省エネルギーへの関心を促すものとして各室に「省エネスイッチ」を設置した。夜間等で実験に影響ない判断できる場合にはスイッチを動作させると設定上のミニマム風量まで絞る制御を採用している。

密なコミュニケーションによる無駄の排除

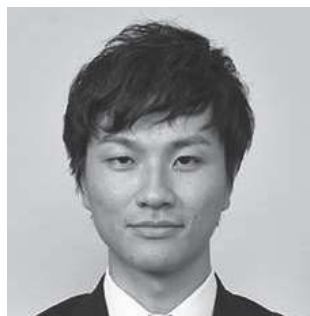
実験仕様が未確定であるがゆえのオーバースペックになりがちな内容を直接研究者とやりとりを行い、将来的な対応が出来る裕度を残しつつ、過剰な容量ではない現実的な仕様としてまとめた。また、必要な仕様を満たしつつ容量を絞る制御を取り入れ省エネルギー性も確保しながら、発注者の満足度を高めることを意図している。



冗長性確保とファン動力のミニマム化



上：ガーデン、下：鳥瞰



よこ てる あき
横山 輝明

生年月 1985年5月広島県生まれ
最終学歴 2008年神戸大学建設学科卒業
業務経歴 2008年㈱竹中工務店入社
2009年大阪本店設計部
2013年広島支店設計部
2017年広島支店作業所

●担当した主なプロジェクト

2011年 GSユアサ本社厚生棟
2012年 京都青果配送センター
2013年 阿倍野岸本ビル
2014年 サンスターホール
2014年 玉島協同病院
2017年 リマニット・モーター
藤田展示場
2017年 カンデオホテルズ
広島八丁堀

■青年技術者のことば

当社は自社の設計・施工物件を「作品」と呼ぶ。これは、ひとつひとつのプロジェクトに対する拘りの表れである。

この「作品」を作り上げるために設備技術者として、快適性・省エネ性・安全性・更新性等に配慮した設備計画を行うことは当然だが、建築と融合した環境・設備計画とすることで意匠性にも配慮することが重要であると考えている。

本プロジェクトではお客様が、設備計画もさることながら、意匠に対してより強い想いを持たれていたため、特に配慮が必要であった。それに対し、自ら課題を設定し、その解決策を探り、実施に至ったことは設備技術者として非常に大きな糧となる経験であった。

後述の「自然エネルギー利用」についてはこれまでの当社で取り組んできた環境設計手法を参考にしながら、うまくこのプロジェクトに落とし込むことができた。また、「快適性・意匠性の高い空調システム」については快適性を追求していくと、どのような空調方式がよいのかを自分なりに追及する良い機会となった。今後も様々な「作品」を通してエンジニアリング力を磨き、設備技術者として社会に貢献したい。

■すいせん者

白井健一郎
㈱竹中工務店 広島支店
生産統括部 設備部長

リマニット・モーター藤田展示場における環境・設備計画

1. プロジェクト概要

本建物は、国内はもとより、広く海外からもお客様をお迎えする中古バス販売のショールームである。世界各地からのお客様をお迎えするに相応しい空間、景観を誘導するようなインパクトのある施設にしたいというお客様のニーズに応えるべく、建築と融合した環境・設備計画の実現を試みた。岡山市南区に位置し、商談・事務スペースのある事務所棟と、中古バスを展示・点検する展示棟の2棟の計画である。

2. 自然エネルギー利用 (太陽熱・地中熱)

太陽熱利用設備や地中熱利用設備などの自然エネルギーを利用する設備は、新たに設備を導入する必要がある、導入コストが大きい。本計画において省エネルギーを実現するためには、低コストで導入できる自然エネルギー利用設備を検討する必要がある。

そこで、「建築として必要なもの」を活用すれば大幅なコストアップとはならないと考え、「埋設配管ルート」および「屋根」を活用する計画とした。概念図を図1に示す。本計画は、事務所棟と展示棟の2棟であるため、これらの棟の間に電気配管や給排水配管の埋設配管ルートを計画していた。このルートを活用してダクトを敷設することで、工事費を抑えつつ地中熱利用のクール・ヒートチューブが導入できると考えた。また、展示棟が有する大きい屋根は日射熱の集熱板として機能すると考え、屋根裏に溜まった暖気を事務所棟へ供給することで太陽熱を利用する計画とした。

これらの地中熱・太陽熱利用システムを当初の考えのとおり、低コスト（従来システムと比較して5%未満のコストアップ）で導入することができた。

3. 快適性・意匠性の高い空調システム

小規模物件に採用されることの多い従来の空調システム（空冷ヒートポンプパッケージエアコン）では快適性・意匠性を満足できないと考えた。従来システムは、吹出口から速い風速の冷温風を吹き出す対流空調システムであるため、建物利用者へドラフトの影響による不快感を与えてしまう。また、均一な空調環境とするためには吹出口を室内にバランスよく配置する必要があるため、意匠性を向上させるための工夫が必要であった。そこで、建築として必要な「OAフロア」を活用する計画とした。概念図を図1に示す。空調ダクトをOAフロアまで立ち下げ、穴あきOAフロア+穴あきタイルカーペットによる床吹出空調用OAフロアシステムとすることで天井や壁面のデザイン性を確保した。また、この床吹出空調用OAフロアシステムはOAフロア面から均一な気流となるため、従来システムのド

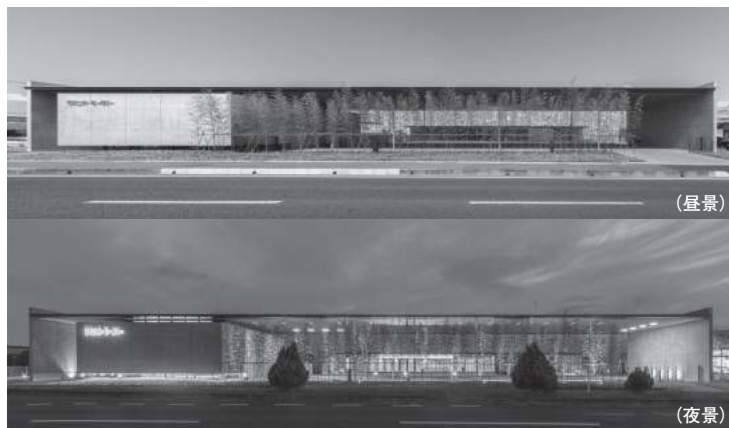


写真1 建物外観

ラフトの影響による不快感を解消することができる。その上で、快適性を更に向上させる装置として、個人の暑い・寒いに対応できる「パーソナル床吹出口」を開発し、設置した。この床吹出口には、①OAパネルの設備開口(90mm角)に設置可能(設置・移設が容易)、②風量調整可能、③風向調整可能、の3つの機能を付加した。図2に床吹出口の性能、図3に完成に至るまでの経緯を示す。気流・温度分布シミュレーション、実験室実験にて快適であることを検証し、実施に至った。施工するに当たって、均一な気流となるようにダクト形状等を調整することによって、計画通りの性能を確保した。これにより、快適性・意匠性の高い空調システムを導入できた。

4. まとめ

本プロジェクトでの取り組みは建築と融合した計画とすることにより、低コストで、自然エネルギーを利用し、快適性・意匠性の高い空調を実現するものである。

自然エネルギー利用の効果については今後年間の運用データを収集し、省エネ性についての検証を行う予定であるが、夏期においては地中熱利用によって1日の平均で-2.88℃の外気負荷低減効果が得られた。快適性・意匠性については実際に建物を使用されている方から快適であるという言葉をいただくことができた。このように計画当初から建築と融合した環境・計画とする効果は大きい。

特に小規模なプロジェクトでは建築設備に充てられる費用は少ない傾向にあるため、このような取り組みは他の「作品」にも応用、展開できると考える。

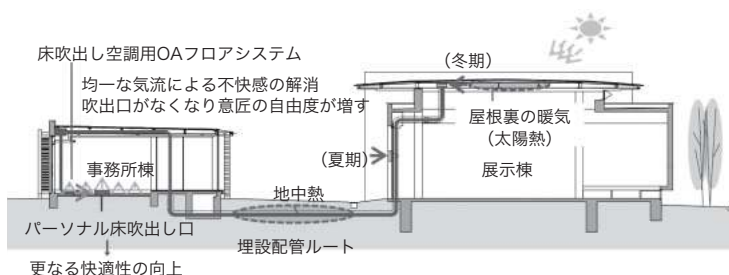


図1 概念図



図2 パーソナル床吹出口の性能

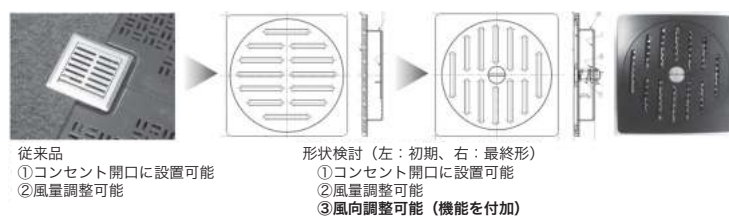


図3 パーソナル床吹出口開発の経緯



よし なり まさ ひこ
吉 成 正 彦

生 年 月 1984年 8 月福島県生まれ
最終学歴 武蔵工業大学工学部建築学科
業務経歴 2007年(株)大林組入社
2007年名古屋インターシティ
新築工事工事事務所
2008年らぼーと磐田新
築工事工事事務所
2009年本社設備設計部
2011年北陸支店建築工事
部設備課
2013年大阪本店設備設計部

■青年技術者のことば

私は、某電池材料製造工場の増築計画でクリーンルームの設計及び工事監理を主担当で行った。同一敷地に既に同じ用途の工場が数棟あり、全てほぼ同じ空調条件、空調システムである。顧客要求は、「最適な空調設備を計画して欲しい」というものであった。設備計画上、過大でも過小でもない、最適な空調設備である。本プロジェクトで私が最終目標としたことは、顧客の要求条件を的確に汲み取り、要求通りの建物を具現化し、竣工した後に顧客に満足いただける設備設計及び工事監理業務をすることであった。建築物は、一品生産であり、完全に教科書通りに設計することは不可能と考える。また、それぞれの顧客によって、要求グレード、コスト、使い勝手は異なる。プロジェクト毎に、顧客と密にコミュニケーションをとりながら、顧客要求条件の優先順位を整理し、関連部門とコンセンサスをとる必要があり、それを先導するのは設計者と考え。本プロジェクトではコスト低減を重要視したうえで、品質の高いものを設計することが「最適な設計」であった。ただし、「最適な設計」の定義は、顧客の要望、関連法規による制約、及び気象による制約等で、時と場合により変わるものとする。今後も、顧客、その他関連部門と調和を図りながらプロジェクト毎の「最適な設計」の解を探り続けたい。

■すいせん者

西脇里志
(株)大林組 大阪本店 建築事業部
設備設計部長

某電池材料製造工場における最適な空調設備計画

●最適な熱源設備計画

生産機器からの発熱量の実態調査

初めに顧客と打合せを行い、最適な熱源設備の機器容量の算出には、生産機器から発生する発熱量の実態調査を行う方針とした。一般的には、生産機器メーカーから受領する発熱量を使用して熱負荷計算を行い、空調機・熱源機を選定することが多いが、今回は生産機器側の設計が未了であったこと、既存工場があったことから、既設生産機器の表面温度や消費電力量を実測することで、適正な熱源容量を決定しようと考えた。熱源機器の最適な容量設定は、省エネルギー性、メンテナンス性、スペースの制約の観点で空調設備計画、重要な設計業務と判断して積極的に行った。同一敷地の既存棟の熱負荷計算を確認したところ、空調負荷の内、生産機器からの発熱量は40～60%であった。既存棟の熱負荷計算に使用した生産機器発熱量は、生産機器の消費電力量から求める計算値が使用されていた。ただし、既存棟の建設当時は、生産機器も同時並行で設計されており、生産機器のスペックや稼働率が確認できなかったため、結果として、発熱量を過大に見込んでいた部分があった。本プロジェクトでは、より実態に即した、適正な発熱量を把握する為に、生産機器の稼働時の消費電力量と、生産機器の表面温度を実測し、発熱量の予測を行った。今回、生産機器発熱量を実測値を基に予測したことは適正な熱源能力を決定するにあたって大きな意義があった。

既設熱源との融通

今回、予め既存工場の既設熱源能力に余裕があることがわかってきたことから、既存工場の既設熱源と増築する工場の増設熱源を配管で接続し熱融通を行う計画とし、既設熱源能力にどれ程の余力があるか実態調査を行った。既設熱源は、空冷モジュールチラー群が7連結形と6連結形の2群で構成され、それぞれの機側制御盤において負荷率を確認することとした。

既設熱源の負荷率調査

夏期の設計外気条件より暑い日（日中最大温度36℃）の熱源設備の負荷率を調査した結果、7連結形系統は100%、6連結形系統は40%だった。6連結形系統は今後の余裕度10%を考慮しても50%、つまり冷却能力で300kWの余力があることが確認できたため、余力の冷却能力を増築側の熱源設備に配管を介して熱融通することとした。この効果としては、モジュールチラーの定格冷却能力が1台約80kWの場合、4台分のモジュールチラーの台数を減らせたことになる。（図1）

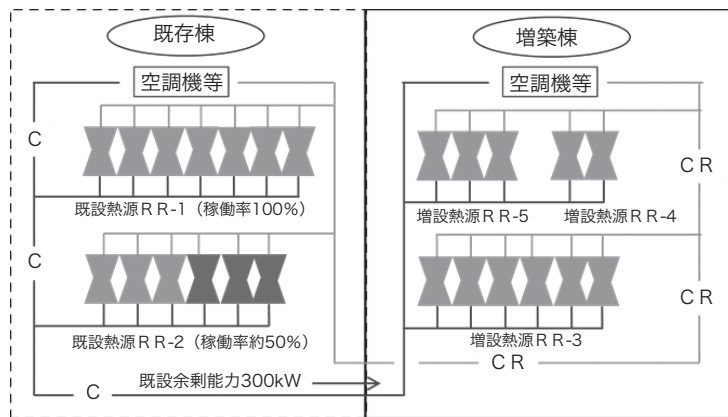
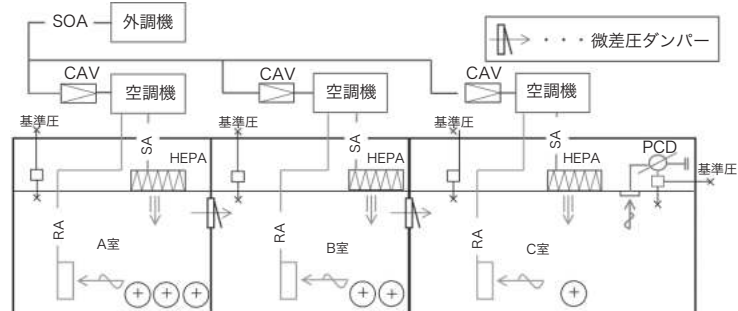


図1 熱源融通の構成概念



※C室と基準圧との差圧が一定になるようにPCDを比例制御する。

図2 PCDによる室圧制御 フロー図

●最適なクリーンルームの計画

顧客の仕様により、工場内クリーンルームの清浄度クラス10,000（FED. STD表示）、陽圧（+）、気流は非一方向流・巾木吸込方式であった。一般に、非一方向流クリーンルームは気流による塵埃の排除はできないため、希釈による排除となる。その為、吹出口、及び吸込口の形状、及び配置がクリーン度の最重要ファクターと考えた。また、室圧制御については、制御が複雑な程、コストが高くなり、メンテナンス性も低下することから、シンプルな室圧制御を構築する事を目指した。

気流シミュレーションによる制気口の最適な配置計画

非一方向流型のクリーンルームでは気流の滞留域が発生する為、吹出口を多数設置した方が滞留域の解消につながる。しかし、一方、吹出口が多いほどHEPAフィルターが高価な為にインシャルコストが高くなり、またメンテナンス性の低下に繋がってしまう。そこで、最適な吹出口仕様、配置、及び個数を定めるために、顧客と合意できるまで、気流シミュレーション（数値流体解析）を数多く行なった。シミュレーションの中では以下の点（①、②、③）に留意して顧客と十分な協議を重ねた。

吹出口形状は、拡散範囲、誘引性に考慮してパンチングメタル拡散力バーを付けたHEPAフィルター吹出ユニットとした。

- ①ショートサーキットしないよう十分検討する。
- ②吸込口を偏った配置にすると滞留域が発生しやすいのでなるべく均一に配置する。
- ③吸込口が生産装置等で塞がれないよう、装置レイアウトとの調整を十分に行う。

シンプルな室圧制御の構築

クリーンルームの室圧は常に基準圧に対して陽圧（+）であることが必要ことから、外調機から定風量で加圧給気した。空間の差圧については、高潔浄クリーンルームから低潔浄クリーンルームまで微差圧ダンパーで気流を形成して確保した。本計画では、クリーンルームの室圧は最下流の低潔浄クリーンルームに空気逃し口及び、室圧ダンパー（PCD）を設け、当該クリーンルームと基準圧との差圧が一定となるように比例制御を行った。（図2）通常のクリーンルームでは各室に室圧制御ダンパーを設置して室圧制御を行うが、本プロジェクトは、室圧ダンパー（PCD）1台で多数のクリーンルームの室圧制御を行うことで、シンプルかつ、確実な室圧制御を実現した。この事により、ヒューマンエラー等の不具合の発生も抑えられると考えた。



お かわ みつ お
大 川 光 雄

生 年 月 1983年11月佐賀県生まれ
最終学歴 2008年鹿児島大学大学院
理工学研究科建築学専攻
修了

業務経歴 2008年㈱竹中工務店入社
2009年京都支店作業所
2017年京都支店建築技術
管理グループ

2018年大阪本店技術部

●担当した主なプロジェクト

2009年 GSユアサ長田野工場
新築工事

2010年 片岡物産宇治工場新築工事

2011年 滋賀銀行桂支店新築工事

2011年 滋賀銀行草津西支店新築工事

ルビシア滋賀工場新築工事

2012年 京都銀行歌島橋支店新築工事

2013年 イオンモール京都桂川新築工事

2014年 森トラスト京都嵐山ホテル
新築工事

2015年 JRA京都競馬場耐震改修工事

2016年 ハイアットリージェンシー
京都耐震改修工事

2016年 宝HD歴史記念館新築工事

■青年技術者のことば

入社2年目の初めての作業所の外部足場解体において、それまで隠されていた真っ白な外観が目の前に現れた時の感動は、今でも鮮明に覚えている。初めは交錯している多くの人々の思いが徐々にひとつつながっていき、建物というスケールの大きなものを関係者一丸となって作り上げていくところが建設業の魅力であると感じている。私も多くの関係者と協力し、助け合いながら様々な課題を乗り越えたからこそ、それまで経験したことのないような感動を味わえたのだと思う。一方、昨今の建設技術者の高齢化に伴う大量離職時代の到来と、建設業界の働き方改革への取り組み遅れにより、建設業の人材確保・人材育成はままならず、生産体制は破綻しかねない危機的な状態に陥りつつある。今回記述した生産段階でのBIMツール活用は、計画及び施工の合理化が図られ、省人化および生産性向上に大きく寄与することを実感した。今後、単純にBIMツールを使いこなすことに捉われてしまうのではなく、物事の本質を見極めながら、常に生産性向上を追求していく姿勢を持ち続け、その中で新たな建設業の魅力を創出できるような技術者を目指していきたい。

■すいせん者

岡橋 稔
㈱竹中工務店 大阪本店
技術部 部長

建築生産におけるBIMを活用した計画と実施

・工事概要と課題

京都市伏見区に位置する研修施設の建設工事（RC造、SRC造、S造、地上3階）において、私は当工事のリーダーとして、全てのステークホルダーの中心としての役割を担い、特にBIMを積極的に活用して課題解決に取り組んだ。建物の構造には、外周は柱梁がSRC造、耐力壁がRC造（一部プレストレス梁）、内部は柱梁がS造であり、最適架構を組み合わせたハイブリッド構造が採用され、方形屋根は3Dトラス鉄骨構造とすることで31m×31mの内部無柱空間を実現している（図1）。主な課題として鉄骨、鉄筋、アンカーボルト、PCスリプ、付帯鉄骨、設備貫通スリプ等の様々な要素の納まり調整が必要であること、狭隘な敷地条件での31mスパン3D屋根トラス鉄骨建方を高精度で実現することが挙げられた。

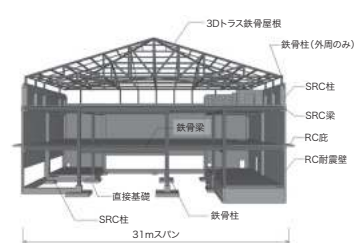


図1 建物構造形式

●鉄骨工事でのBIMの活用

・計画と実施

計画段階では、鉄骨工事の計画担当としてTeklaを駆使し鉄骨建方手順図の作成や、検討を繰り返し実施した。本体鉄骨建方計画においては、当初計画の積層工法のための考えを見直し、仮置きヤードと揚重機スペースを確保するため、積層工法と4工区割り建て逃げ工法を併用する手法を導き出した。Teklaを用いた3D施工ステップ図を作成することで、各ステップ毎の鉄骨建方範囲を立体的に可視化でき、地組範囲の検討や協力会社との事前調整に非常に重宝した（図4）。

3Dトラス屋根鉄骨建方計画においては、最小限の地組ヤードとするため、31mスパンを3分割した地組ユニット工法を採用することとした（図5、写2～3）。建物の特徴である大空間を構成するための大スパン3Dトラス鉄骨屋根のたわみに対し、適切にむくりを

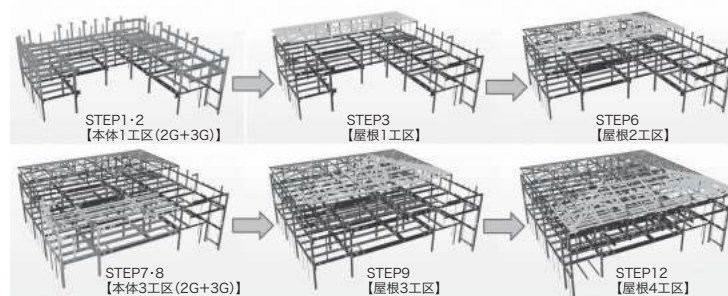


図4 Teklaを用いた鉄骨建方手順の検討

●鉄骨鉄筋コンクリート躯体工事でのBIM活用

・計画と実施

計画段階では、自社開発のRC一貫配筋支援システム（以後RCS）と鉄骨3Dモデル（以後Tekla）のBIMモデルを複合的に活用することにより、アンカーボルト、鉄骨、鉄筋および設備貫通スリプの干渉箇所を把握し、設計者、協力会社と綿密な打合せを実施し、施工図へ盛り込んでいった。（図2・3、写1）

実施段階では、鉄筋と鉄骨の納まりが複雑な柱梁の接合部や、納まりに変更のあった箇所を意識して鉄筋工への指示伝達および現地現物の確認を実施した。RCSの3Dモデル図を使用することで指示書作成業務を簡素化し、スピーディかつ分かりやすく伝達することができ、配筋間違いによる手戻りもなく工事を進めることができた。



図2 BIMを用いた躯体3Dモデル

・まとめ

複雑な納まりのハイブリッド構造を、RCS、Teklaを複合的に活用することで、従来の2Dモデルと比較して、無駄のない高効率かつ高品質の計画および実施を実現した。

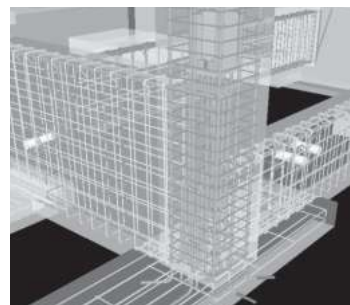


図3 鉄骨、鉄筋、設備スリプを複合した納まり検討3Dモデル



写1 BIM打合せ風景

つけるため、レベル調整を容易にできる枠組み足場を用いた中間支保工を採用した。事前の計画や建方時の日々の作業手順をBIMによる計画の見える化を行うことで10%の工数削減が図れたと考える。

実施段階では、検討を重ねた鉄骨建方計画をもとに、私自らが陣頭指揮をとり鷹工と鉄骨製作会社との事前調整を行い日割りで細分化した搬入指示書を作成し、関係者全員に情報を周知することを徹底した。鉄骨の製作間違い

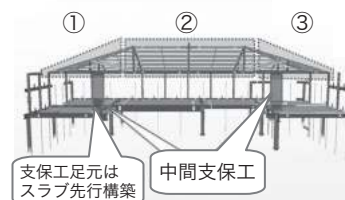


図5 屋根3分割検討モデル

や、悪天候の影響等があり搬入、工程調整の苦労は日々絶えなかったが、ベースとなる鉄骨建方計画の精度を高めることができていたため調整も軽微におさめることができ、作業ヤードを最大限に活かした無駄のない鉄骨建方を無災害で完了させた。

・まとめ

BIMツールを活用した建方計画を行うことで、狭隘な敷地条件での本体鉄骨建方及び31mスパン3Dトラス屋根鉄骨建方を高精度で実施することができた。



写2 3Dトラス屋根の地組ユニット



写3 3Dトラス屋根の鉄骨建方状況



くまき かつ や
熊 給 哲 哉

生 年 月 1985年 3 月宮崎県生まれ
最終学歴 2007年鹿児島大学
業務履歴 2007年(株)竹中工務店入社
2008年九州支店作業所
2010年九州支店
生産統括部技術G
2014年技術研究所
2016年九州支店
生産統括部技術G

●担当したプロジェクト

2008年 沖縄大学院大学研究棟他
新築工事作業所
2012年 鹿児島メガソーラー発電所
建設工事作業所
2014年 博多駅中央街SW計画
(仮称) 新築工事
技術研究所
2014年 地盤・基礎部門
2016年 九州支店生産統括部
技術G

■青年技術者のことば

2020年の東京オリンピック開催に伴う関連事業や、市街地の大型再開発工事などにより、近年建設需要が高まっている。今後も増加すると思われる大規模大深度の地下工事は非常に難易度が高く、手間がかかるものである。このような地下工事に対し、条件にあった工法の採用や、新規技術の開発を行うことで、施工性を大きく高めることが可能である。

また、昨今の建設業界は建設技術者の減少、高い技能を有する建設作業員の減少だけでなく、ワークライフバランス（4週8休に向けた取り組み）の観点からも生産性向上が強く求められている。生産性向上に寄与する工法開発や熟練工以外でも容易に施工可能な新たな施工方法の開発などに、これからも積極的に挑戦し、建設業界、更には社会に貢献したい。

■すいせん者

河井辰巳
(株)竹中工務店 大阪本店
技術部 部長

地下工事計画の合理化による生産性向上

●高強度地盤改良体の開発

・開発背景

格子状地盤改良は、地震時の液状化抑制だけでなく、建物の水平力を負担させるようになってきた。地盤改良に期待する機能が増えるにつれ、設計に用いる圧縮強度が増加する傾向にある。そこで、従来の $F_c=3\text{N/mm}^2$ 程度から、 $F_c=5\text{N/mm}^2$ への大幅な高強度化を図ることで、格子間隔を拡大し施工数量を大幅に低減するとともに、より大きな水平力を負担可能な格子状地盤改良の開発に取り組んだ(図1)。さらに、これまで知見のなかった圧縮強度が 3N/mm^2 以上の設計に用いる諸定数も明らかにした。

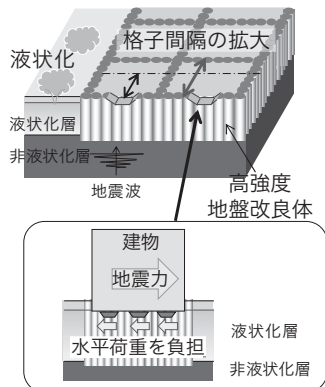


図1 高強度地盤改良体の適用イメージ

・実施内容

流動性確保のために重要なパラメーターとなるセメントに対する添加剤の最適な割合や攪拌方法および攪拌時間を把握するために、膨大な水準の調査を試行錯誤し、室内配合試験を実施した(写真1)。

原位置試験は液状化対策に必要な砂質地盤(8.0mまでは砂質地盤、8.0m以深は粘性地盤)で、添加剤を用いた $W/C=60\%$ と添加剤を用いない $W/C=45\%$ の2CASEで実施した(表1)。



写真1 室内配合試験の状況

	W/C (%)	添加剤 (%)	セメント添加量 (kg/m^3)
CASE1	60	A剤: 0 B剤: 0	砂: 310 シルト: 290
CASE2	45	A剤: 0.3 B剤: 0.1	砂: 270 シルト: 290

添加剤量はセメント質量比

表1 原位置試験の配合

なお、原位置試験においては、事前に実施した室内配合試験で得られた結果を展開し、適正な施工性を確保できる流動性を実現できる最適な投入手順・攪拌時間を確立することができた

・成果

室内試験でトライ&エラーを繰り返し、最適な調査計画、攪拌計画を確立することで、水セメント比が小さいセメントミルクを用いた高強度地盤改良体を実現し、原位置施工においても施工品質を確保することができた(図2)。また、高強度領域における圧縮強度と割裂強度の関係など、高強度地盤改良体を設計する際の指標を把握することができた。

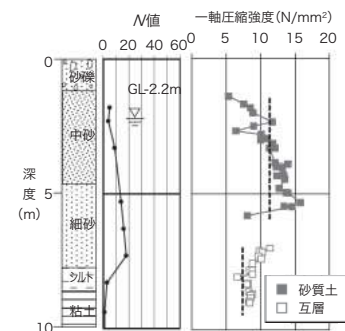


図2 全長コアの強度試験結果

●大規模大深度地下工事における生産性向上

・工事概要と課題

本工事はJR博多駅南西に位置する再開発プロジェクトである。東側にJR軌道を有する擁壁が近接しているなか、 $95\text{m} \times 52\text{m}$ の敷地いっぱい地下4階、最大深度17.8mの建物を構築する大規模大深度工事であった(図3)。本工事は福岡では近年にない大規模大深度工事であり、また非常に短工期であった。

・計画と課題

私は地下工事全般の工事計画を担当し、安全性確保および生産性向上を目的に、主に以下の3点を課題として抽出し、対策を立案・実施した。

1. 近接したJR軌道の安全確保

FEM解析を用いた地下掘削による擁壁変位の確認、JR管理者との協議などを実施し、安全を確保する地下工事計画とした。掘削時は適宜、山留め壁や擁

壁部の変位を計測し、JR管理者へ報告することで、軌道の安全を損なうことなく工事を完了できた。

2. 地上・地下工事の動線分離による生産性向上

敷地いっぱいの建物に対し、工程のクリティカルとなる掘削+鉄骨工事とコンクリート打設工事の作業フロアを分離することが必須と考え、一部本設スロープを利用した仮設スロープを立案し、B2階までの動線を確保した。その結果、劇的に効率のよい掘削および躯体工事を実現できた(写真2)。

3. GL-12m以深の岩掘削を含めた掘削効率の向上

B3階に大開口を設ける計画を立案した。この大開口を成立させるため、山留め壁および新築躯体への影響を何度も検討し、集中切梁2本で支持する計

画により、スムーズな岩掘削を実現できた。(写真3、図4)。

・成果

前述した各取り組み内容によって設定した課題に対して以下の成果を上げることができた。

1. JR軌道に対し、安全を確保した
2. 地上、地下の動線分離による効率的な躯体工事を実現
3. 岩掘削をはじめ、効率のよい掘削工事を実現。地下工事全体としてはコスト低減と1ヶ月の工期短縮を達成した。



写真3 集中切梁を用いた大開口計画

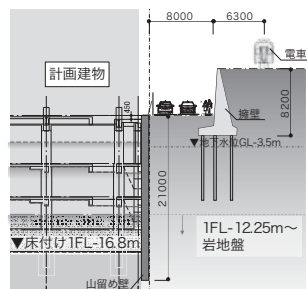


図3 計画建物とJR軌道の関係

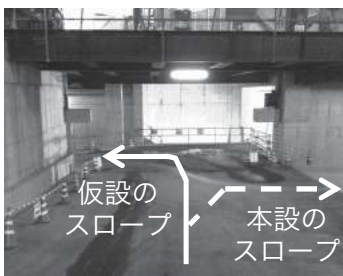


写真2 仮設スロープ設置状況

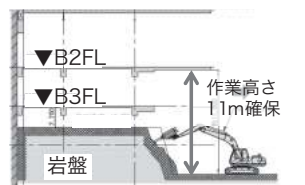


図4 大開口を用いた掘削計画



たみゆう た ろう
巽 祐太朗

生 年 月 1984年10月大阪府生まれ
最終学歴 2007年関西大学工学部建築学科卒業

業務経歴 2007年鹿島建設㈱入社
2007年東京建築支店
2009年関西支店建築部
2013年タイカジマ
2016年関西支店建築部
現在に至る

●担当した主なプロジェクト
2009年 辰馬本家酒造株式会社
新築工事
(仮称) 京都ヨドバシビル
新築工事
2011年 太田酒造(株)琵琶湖ワイナリー
施設新築工事
2017年 学校法人兵庫医科大学
新教育研究棟 (仮称) 整備計画

■青年技術者のことば

昨今の建設業を取り巻く労務不足の影響を受け、工事現場では工程遅延を招くことがあり、工程だけでなく複合的な要因から品質トラブルや災害の発生に繋がっていると思われる例も少なくない。このような現状を踏まえると、我々青年技術者が担わなければならないことは、現場での労務量を削減しつつ、品質を保つ施工方法を常に考えることである。設計条件、現場条件を踏まえて事前に施工方法を検討することで、最適な工法を見出し大きな労務削減を成し遂げることも可能である。また、労務の削減は現場作業を減らすことが出来るため、ヒューマンエラーによる災害発生を減らすことにも繋がり、安全性の向上にも大きく貢献する。今後さらに増加すると予想される労務不足に対応するため、労務削減に対する取り組みは継続的に行い、今回目標に掲げた3割削減とは言わず、さらに削減する思いを皆で持ち合わせていくことが大切である。

■すいせん者

河原慎治
鹿島建設(株) 関西支店 建築部
建築工事管理部長

戦略的な合理化による労務3割削減の取り組み

●概要

近年の建設業における労務不足の中、工程を確保し安全・品質を確保するためには労務削減(効率化)を実現することが必須の課題となる。延床24,000㎡もの大規模物流倉庫を新築するに当たり、使用材料の大型化やユニット化による作業量の山崩しと安全作業の確保などについて、施工計画の立案と実施工の記録を報告する。当現場で採用した合理化による生産性向上のメニューを以下に列挙する。

【基礎躯体】

1. 既製杭を地盤改良に変更
 2. 鋼製捨型枠の採用
 3. 基礎・基礎梁鉄筋のユニット化
- #### 【地上躯体】
4. キャピタル部のサイトPCa化
 5. 1階床型枠にデッキ型枠採用
 6. 壁・柱型枠の大判化
 7. 地上鉄筋(柱・梁)のユニット化
 8. ドカマチックテーブル(システム型枠)の採用
 9. コンクリートのV・H分離打設
 10. 外壁のPCa化

●鋼製捨型枠の採用

基礎躯体の型枠に鋼製捨型枠を採用することで型枠脱型の工程を無くし、コンクリート打設前に埋戻しを実施した。また、材料の選定においても、従来の鋼製型枠よりも軽量で取扱い易いもの(e-パネット)とし、現場での取付けはボルト・ナットによる固定とした。こうすることで、鋼製型枠に不慣れな型枠工でも施工効率が落ちることが無かった。基礎側面型枠の足元が滑動するのを防止するためにアングル材を捨てコンクリートに予め埋め込み、鋼製捨型枠を溶接して固定の補強をするなどの工夫も施工中のPDCAサイクルの中で実施した。結果、鋼製捨型枠の採用は従来使用してきた合板型枠に比べ38%の労務削減となった。施工開始時には、鋼製捨型枠を埋戻しの土留め壁としているため、十分な転圧を行うことが捨型枠を变形させてしまうのではないかと不安から、転圧不足を招いた。この対策として、基礎躯体側(内部)からサポートを用いて簡易的な水平切梁としたり、転圧時の水湿めの頻度を見直すなどの改善を行った。



埋戻し状況

●ドカマチックテーブルの採用

「鹿島フラットスラブ工法」の架構形式を採用している当建物において、躯体形状を最大限に活かしたドカマチックテーブル(オーストリアのDOKA社製)での型枠支保工を計画した。これは、床型枠と支保工が一体になったもので、専用の運搬機と揚重機を使用し、安全かつスピーディーに床面を形成できることに利点がある。

従来は支保工を鷹工、スラブを型枠大工が施工し、スラブ下にも作業床が必要であった。作業量を減らすことは、安全に対するリスクも減らすことに繋がるとの発想から、この施工方法を採用した。効果として、作業人工の50%削減に繋がった。型枠支保工の解体についても、前述の専用運搬機により安全に作業することが出来るため、こちらでも労務削減に繋がりと、460人工の削減を達成した。また、スラブ底の打放し仕上げ精度を高めるために、ドカマチックテーブルの上にコンパネを増し貼りすることも繰り返し行われる作業の中で改善した事例である。



型枠支保工のユニット化(1)



型枠支保工のユニット化(2)

●キャピタル部のサイトPCa化

地上躯体架構形式に梁はなく、床スラブの荷重は柱直上のキャピタル部を介して柱が支えるため、スラブ型枠とキャピタル型枠の大きく2通りの支保工計画が必要となる。支保工については、STシステムを採用することで、設置、盛り替え、撤去をスムーズにした。また、支保工の上に乗せるキャピタル躯体をサイトPCa化することで、品質・精度の向上、高所での作業量の低減を図り、想定を上回る成果を残した。



キャピタルPC設置状況

●V・H分離によるコンクリート打設

今回の建物は、平面形状50m×90m、高さ31mであり、1工区あたりのコンクリート打設範囲は平面形状で50m×24m、高さ6mと計画した。コンクリート打設計画における最大のポイントは、V・H分離(垂直面と水平面のコンクリート打設を分割)し、柱・壁コンクリート打設をいかに効率よく、また安全に作業できる様にするかであった。地上のコンクリートポンプ車からの圧送では、圧送配管長と盛替え回数が非常に多くなる。このことに注力し最終的には、コンクリートポンプ車を躯体施工階に揚重する計画とした。鉄骨にて専用の揚重治具を作製し、移動はスラブ上を走らせるため、事前のルート検討、スラブ養生を計画的に行った。ディストリビューターと異なり、ポンプ工が通常の資格者で操作を行い、打設毎に返却出来ることが利点であった。ディストリビューターを使用した作業と比較し16%のコスト削減を達成した。また、ブームを自由に動かせることから壁の打設等においても施工性が良く、品質面においても効果があった。



2tポンプ揚重状況



コンクリート打設状況

●まとめ

本工事に代表される戦略的な合理化は、着工前の施工計画が重要である。施工サイドからの提案を設計サイドが可能な限り取り入れる。まさに設計施工の利点を最大限に活かした事例でもある。

工事中、繰り返し行われる作業の中で、現場特有の調整事項は必ず発生する。この調整内容を事前に想定し、どれだけ対応策を準備出来るかが、我々現場施工を担う青年技術者に求められるスキルである。もちろん計画のみに注力すれば良い訳ではなく、PDCAのサイクルもしっかりと回し、これから迎える建設超繁忙期に向けてしっかり準備していきたい。



すぎ い たけし
杉 井 毅

生年月 1986年9月京都府生まれ
最終学歴 2010年東京大学工学部建築学科卒業
業務履歴 2010年大成建設㈱入社
東京支店作業所を経て
2017年関西支店作業所
●担当した主なプロジェクト
2010年 ニッピ本社ビル
2011年 六本木三丁目地区第一種市街地再開発事業
2012年 昭和大学江東豊洲病院
2014年 フロントプレイス秋葉原
2015年 ヒューリック本社増築計画
2017年 堺市民芸術文化ホール

■青年技術者のことば

本工事では躯体工事・仕上げ工事を通して、階高が不均一で複雑な形状なホール建築施工の難しさを実感した。大空間のホール建築は遮音性・気密性が要求される用途上、ホール内への開口部やアクセスが狭く限られているため二度と手戻りの許されない部分が多く、施工フローの確認の必要性を実感し何度も打ち合わせを行い確認した。ただ当現場に限らず、全ての工事現場において手戻りやフローの見落としは「品質・工程・コスト」に重大な悪影響を与えることになる。

なかでも、「搬入」とは「必要な時に必要なものが使える」ように「効率よく資材を施工箇所まで運ぶ」という施工の基本であるが、開口部が少なく高さ方向に高密度に仕上げ・設備が混在するホール空間においては、特に「搬入」が重要であり、施工フローの中核であるということを改めて認識した。今後のプロジェクトにおいても、「施工フローの確認・施工計画の立案は施工管理者として最重要な業務である」という認識を肝に銘じて、無駄や手戻りのない施工管理を行うべく、より一層の知識・技術力を身に付けていきたい。

■すいせん者

西本伸男
大成建設㈱ 関西支店
副支店長

大空間における鉄骨施工と仕上げ計画について

●概要

堺市民芸術文化ホールは、堺市における芸術文化の創造・交流・発信の拠点施設として客席2000席を有する大ホール・多目的で使うことが出来る小ホール(312席)・オーケストラや吹奏楽の練習用の大・小スタジオを有する劇場である。

私が着任した当初は小ホール・大スタジオ工区の躯体工事の、躯体上棟後は小ホール、大・小スタジオ等大ホール以外の内装工事のチームリーダーとして携わった。

●トラス鉄骨の管理

中央継手部にてムクリを持たせた全長17mのトラス鉄骨建方計画においては、構造担当者に質疑応答を重ね、目標のムクリ量となるよう本締め手順・施工手順の確認を行い、手順通りの施工・ムクリ値の実測を節目ごとに実施し許容側で管理を行った。



写真1 トラス鉄骨 地組み立て起こし状況

	計画時(mm)		施工時平均(mm)	
	変形量	ムクリ量	変形量	ムクリ量
①地組み時	—	20.0	—	20.5
②建方時	-1.0	19.0	-2.5	18.0
③下弦床CON後	-4.0	15.0	-2.2	15.8
④上弦床CON後	-8.0	7.0	-4.5	11.3

表1 ムクリ量管理状況

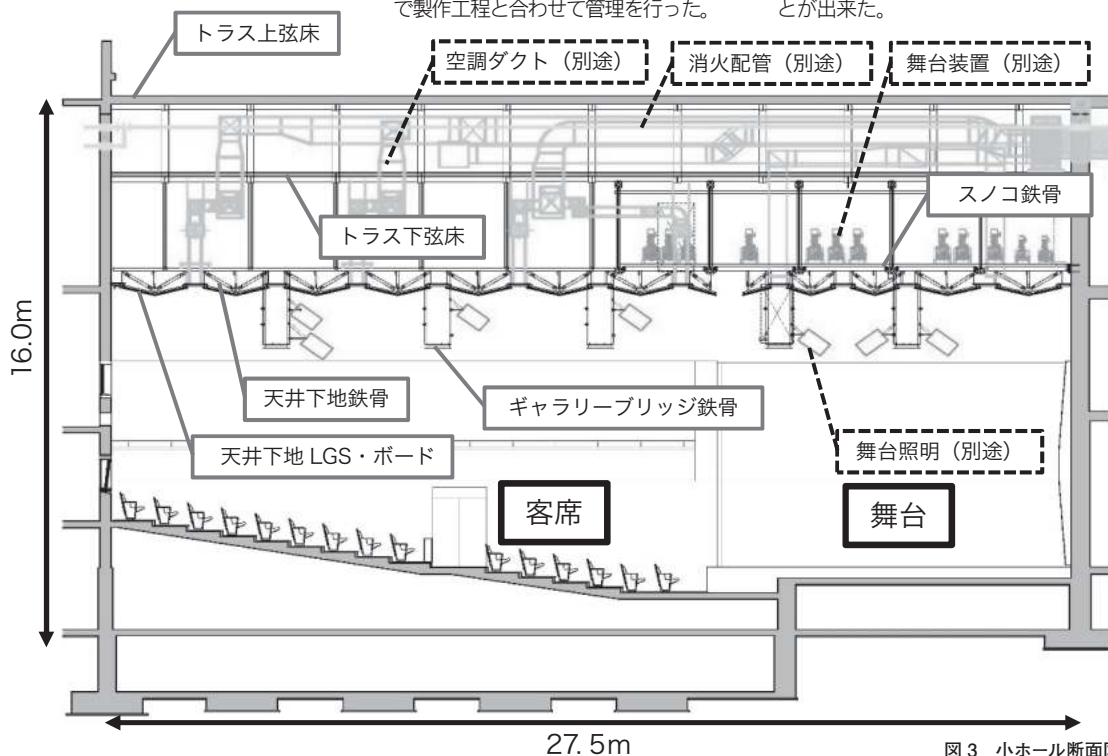


図3 小ホール断面図



図1 南東面外観パース

●仕上げ工事の施工計画

小ホールの施工手順を概略化すると以下のようになる。

- ①段床・小ホール外周壁CON
- ②下段ステージ足場組立
→天井地下鉄骨先行搬入仮置
- ③上段ステージ足場組立
→スノコ鉄骨先行搬入仮置
- ④トラス鉄骨建方
→一部スノコ鉄骨を同時に取付
- ⑤下弦床・上弦床CON
- ⑥スノコ鉄骨組立
→先行搬入分施工後、床材は屋上床の仮設開口から取込
- ⑦設備工事
→屋上床の仮設開口から取込
→上段ステージ足場解体搬出
- ⑧仕上材搬入開口閉塞CON
- ⑨天井地下鉄骨
- ⑩内部仕上げ工事

今回の施工計画の立案にあたって最も苦心したことは、先行搬入する資材の仮置場所の確保であった。複雑な形状の天井に伴う仕上げ材・舞台関連の大型の諸設備・大量の二次鉄骨の全てを効率的に、かつ使いやすい場所に搬入するため、各資材を搬入する時期を上記の各段階で製作工程と合わせて管理を行った。



図2 小ホール内観パース(舞台を臨む)

●まとめ

本工事は分離発注方式となっており、建築担当の当社以外に電気JV・衛生JV・空調JV・舞台機構JV・舞台照明JV・舞台音響JV・ガスの計7つの他社JVと共同で工事を行っている。そして各々が、それぞれ異なる作業計画や足場等建築への要望を持っており、それらと当社の建築仕上げ工事に最適な施工計画とをすり合わせる必要があった。そのため、搬入計画・足場盛替計画の策定に当たっては通常の施工以上に綿密な打ち合わせ・調整が重要であり、毎週工事定例にて、週間工程レベルから竣工までの全体工程に至るまで各種工程・施工計画などの調整を行い、無駄や手戻りのない施工を行うことが出来た。

容積率等緩和の拡大

大阪府総合設計許可取扱要領の改正

北尾菜々子

大阪府住宅まちづくり部建築指導室審査指導課
確認・検査グループ 副主査

はじめに

大阪府は、建築基準法第59条の2第1項の規定に基づき容積率や高さの制限緩和を行うための許可基準である「大阪府総合設計許可取扱要領」（以下「本要領」という。）を、耐震性が不足した建築物の建替えによる防災性の向上等を図るため、個別の建築計画による市街地環境の向上を評価して容積率等の制限緩和を行えるよう、平成30年4月に改正した。

また、マンションの建替え等の円滑化に関する法律（平成14年法律第78号）（以下「マンション建替法」という。）第105条第1項に基づき総合設計制度も本要領に位置づけた。

改正の背景

今回の改正は、耐震性が不足した建築物の建替え促進と、建築物の防災性の向上、保育の受け皿拡大を図ることを目的としている。特に、地震発生時に応急活動を迅速に行うための広域緊急交通路の沿道における建築物倒壊による道路閉塞の防止や多数の者が利用する建築物の耐震化は喫緊の課題であり、これら耐震性の不足した建築物の建替え促進を行うため、総合設計制度による容積割増しをインセンティブとして活用することとした。また、保育施設に関しては、昨今の社会情勢をふまえて、容積割増しの項目に加えることとした。

改正の概要

1 耐震性が不足した建築物の建替え促進

(1) 重点的に耐震化を図るべき建築物の建替えに際する容積割増しとして、次のア、イのいずれかであって、耐震診断の結果、耐震性が不足する建築物で建替えを行うものについて、建築物の1層分を割増し（敷地面積から空地率の下限値による面積を除いたもの）を行う。

ア. 要緊急安全確認大規模建築物（建築物の耐震改修の促進に関する法律（平成7年法律第123号）に定められた病院、店舗、旅館等の不特定多数の者が利用する建築物及び学校、老人ホーム等の避難弱者が利用する建築物のうち大規模なもの等。）

イ. 広域緊急交通路の耐震診断義務化対象路線の沿道にある耐震診断義務化対象建築物（大阪府地域防災計画において定める広域緊急交通路のうち、優先して耐震化に取り組む路線を、大阪府耐震改修促進計画に位置付け、建築物の耐震改修の促進に関する法律に基づき指定した耐震診断義務化対象路線の沿道にある耐震診断義務化対象建築物。）

(2) 耐震性が不足したマンションの建替えに際する容積割増しとして、マンション建替法により要除却認定マンションとして認定を受けた建築物の建替えを行うものについて、公開空地による割増し1.5倍とするとともに、前面道路幅員の算出方法や、公開空地の最小面積を緩和することとした。

2 建築物の防災性の向上

1で対象となる建築物であって、災害時の備えとなる設備（かまどベンチ、マンホールトイレ等）を設けた一時避難スペースや災害時利用貯水槽が設置されるものについて、公開空地面積の1/2を上限に一時避難スペースの面積相当分を割増しし、災害時利用貯水槽は、100㎡を上限に貯水量1㎡あたり1㎡換算した面積相当分を割増しすることとした。

3 保育の受け皿の拡大

認可保育所、認定こども園、企業主導型保育事業を行う事業所について、対象施設の面積相当分を割増しすることとした。

容積割増し適用例

改正後の本要領に基づき容積割増しを行う場合の例を示す。

【基本条件】

- ・敷地面積：2,000㎡
- ・基準容積率：300%
- ・基準建蔽率：80%
- ・用途地域：近隣商業地域

【計画概要】

- ・敷地内に有効公開空地面積600㎡を計画
- ・マンション建替法により要除却認定マンションとして認定を受けた建築物の建替え
- ・大阪府耐震改修促進計画において沿道にある耐震診断義務化対象建築物

- ・かまどベンチを設けた200㎡の一時避難スペース、災害時利用貯水槽（貯水量50t）を設置
- ・共同住宅の一部に100㎡の認可保育所を計画

【割増し後の延べ面積の計算】

〔総合設計制度を活用しない場合〕

延べ面積 6,000㎡

〔改正前の本要領の制度を活用した場合〕

共同住宅型を適用した算定式により、

延べ面積 7,555㎡（+1,555㎡）

容積率 377%（＜割増し上限値525%）

〔改正後の本要領の制度を適用した場合〕

①マンション建替法に基づく総合設計制度の適用による割増し〈概要1(2)〉

公開空地による割増しの1.5倍など共同住宅型を適用した算定式により、2,382㎡

②耐震診断義務化対象建築物の建替えによる割増し〈概要1(1)〉建築物の1層分

{1 - (1.2 - 基準建蔽率)} × 敷地面積

{1 - (1.2 - 0.8)} × 2,000㎡ = 1,200㎡

③一時避難スペース、災害時利用貯水槽による割増〈概要2〉

200㎡ + 50㎡ = 250㎡

④保育所設置による割増し〈概要3〉

保育所面積100㎡ = 100㎡

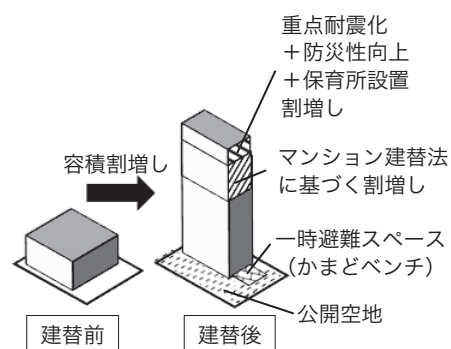
割増し合計 3,932㎡

(2,382㎡ + 1,200㎡ + 250㎡ + 100㎡)

延べ面積 9,932㎡（改正前+2,377㎡）

容積率 496%（＜割増し上限値525%）

この適用例において、改正後の制度では、改正前に比べて2,377㎡の容積割増しが可能となる。



おわりに

今回改正された本要領を活用して、耐震性が不足した建築物の建替えや、建築物の防災性の向上、保育の受け皿拡大が促進されることを期待したい。（きたお ななこ）

●北尾菜々子

2011年大阪府入庁。公共建築、都市計画所管部署を経て現所属。

「クロスダンパー」による 省スペース制震補強 —熊本城天守閣復旧整備事業—

岸 浩行

株式会社大林組 設計本部構造設計部 副部長

平成28年4月の熊本地震により被災した熊本城では、震災復興のシンボルとして天守閣の復旧を優先して着手し、この復旧工事に合わせて耐震補強工事も実施することになった。天守閣は昭和35年に外観復元された建物（大天守：地上6階地下1階、小天守：地上4階地下1階）であり、下層部分がSRC造、中層部分がRC造、上層部分がS造である。大天守には8本、小天守には4本の深礎が設けられている。

強度指向型耐震補強計画

大天守・小天守共に四角錐状の形状であり、平面形状が上階で小さくなることから、耐震要素を設置出来るのは階段コア周りに限定されている。技術提案時は中・下層のコンクリート系の部分には壁を、鉄骨部分にはブレースを設置する計画とし、強度指向型の耐震補強計画としていた。

基礎の重要性

強度指向型の耐震補強は上部構造の耐震性を向上させることが主目的であるが、実施設計段階で深礎と石垣に影響を与える可能性があることが判明した。この天守閣の足元の石垣は江戸時代に構築されたものであり、国の特別史跡に指定されている。天守閣は昭和35年に外観復元されたものであり、文化財としては石垣の方が重要とされている。強度指向型の耐震補強を行うと、深礎への地震力が大きくなるので、次に地震が起きると深礎および石垣に悪影響を与える可能性がある。

今回の熊本地震では耐震補強した建物の基礎が損傷し解体された事例も見受けられる。しかしながら天守閣の建つ場所は特別史跡であり地盤面より下の土や周囲の石垣に対しては手を入れることは出来ないという厳しい制約があった。



写真1 震災後の熊本城天守閣

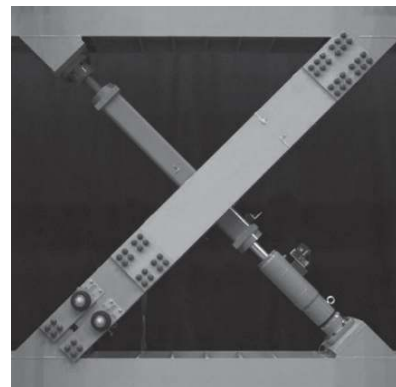


写真2 クロスダンパーの試験体

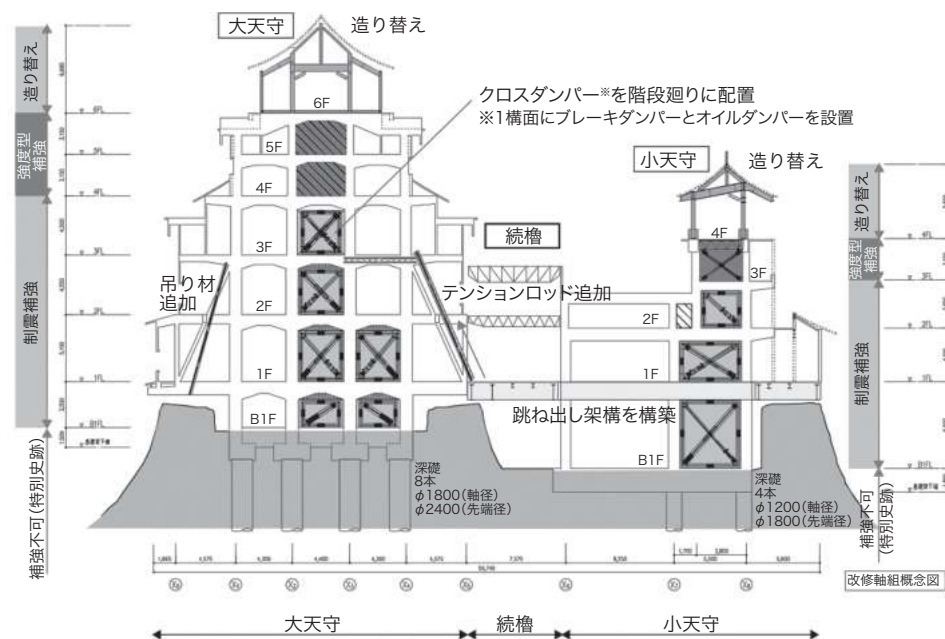


図1 補強計画（軸組図）

制震補強への転換

熊本市からは、耐震性を確保すると共に深礎の安全性を確保する設計変更の指示を受けた。強度指向型としてコンクリート壁で固さを確保していたが、鉄骨ブレースにより建屋の変形性能を増やす靱性指向型とした。更に鉄骨ブレースに当社開発のブレーキダンパー（摩擦型制震装置）を組み込むことで強度と制震効果を得ることが出来たが、それでも深礎への地震力低減が十分ではなく、オイルダンパー等の履歴型装置の追加が必要であった。

平面的に小さな天守閣ではその場所を見つけることは非常に困難である。階段室周りにブレースを配置すると、残る場所としては外壁のみであるが、柱梁のフレームから外れるため得られる効果が不足する。既に改修後の展示計画設計も進んでおり、それを大幅に変更することは出来なかった。

クロスダンパーの適用

社内で開発を進めていたクロスダンパーを適用することでこの問題を解決することが出来た。クロスダンパーはブレーキダンパーと

オイルダンパーとを柱・梁の中心線上に交差させて配置したものである。ブレーキダンパー付のブレースはH型鋼材を使用しており、そのウェブにオイルダンパーを貫通させることで同一構面内に納めたものである。二つの機能を一つに出来るので省スペースとなる。取付工事は一箇所に集約出来るので、騒音・振動の低減、工期の短縮が可能である。また、中小地震ではオイルダンパーが効果を発揮し、大地震ではブレーキダンパーが活躍するという特性がある。今回が初の適用となるため、実大での性能試験を実施し、問題無く作動することを確認した。

おわりに

このクロスダンパーは復旧整備工事完了後も見ることが出来る箇所があるようだ。いつもは隠されてしまう構造設計者の苦労を一般の方に見ていただく良い機会になるであろう。（きし ひろゆき）

●岸 浩行

1967年生まれ。1990年筑波大学卒業。同年株式会社大林組入社。

昭和50年の御堂筋

塩谷 馨

(1975年6月号)

橋寺知子

関西大学
准教授

2017年、御堂筋は80周年を迎えた。

豊臣期から江戸時代にかけて、経済の中心地として隆盛を極め、世界有数の近代都市となり得る可能性を秘めた市街地が形成されていたが、明治以降、政治的状況の変化にも上手く対応し、街なみは旧態を残しつつも、近代化していた。大坂では、江戸期には南北の「筋」よりも東西の「通」の方が幅が広く、主動線であったが、明治以降、キタとミナミに郊外への私鉄ターミナルが形成され、市中では南北方向の往来が盛んになった。堺筋に市電が敷設され、大正期のメインストリートとして栄えた。關一が市政に関わった時期には、広域に大阪全体を踏まえた道路・施設整備が計画された。御堂筋は、幹線として、都心と郊外を高速で結ぶ地下鉄と広幅員の道路が計画され、粘り強く建設が進められた。昭和初年は、大阪のまちの姿が再び大きく変わった時期と言えるだろう。幅44メートル、全長約4キロメートルのほぼ直線状の御堂筋は、道路そのものは建設時から大きな変更なく、今も大阪のメインストリートとして、堂々たる姿を示している。

昨年の御堂筋80周年では、シンポジウムや行事が催され、これからの御堂筋に関する意見やアイデアも発表された。「これから」を考えるには、「今まで」を捉えておくことが大事だろう。明治中期頃から、首都東京で計画的な都市改造が先行して実施されたが、他の都

市でも適用されるよう努力したのが日本建築協会の設立者、片岡安であった。片岡は「都市計画の父」であり、近代の大阪が日本有数の都市計画の先進地として存在し得た功労者と言える。『建築と社会』では御堂筋の計画期、建設期から、御堂筋や当時進行中の都市改造について数多く取り上げ、戦後も折々に御堂筋を取り上げている。今回は、1975年6月号に掲載された「昭和50年の御堂筋」という論考を中心に再読する。『建築と社会』に捉えられた折々の御堂筋の姿から、御堂筋の変化の様子を見ておきたい。

■「高さ31mの御堂筋」の誕生

御堂筋といえば、31メートルの高さで軒線がそろったビルが建ち並ぶ風景がまず頭に浮かぶ。街路樹のイチョウとともに「歴史的存在」のように思えるが、そんな景観が完成したのは戦後、1960年代のことである^{注1)}。今回取り上げる「昭和50年の御堂筋」という論考は、ちょうどそんな御堂筋の景観が完成し、しばらくした頃の様子を伝えるものである。掲載された1975年6月号は「都市の景観と施設」という特集が組まれ、冒頭には足立孝（大阪大学工学部教授）と久保貞（大阪府立大学農学部教授）の対談「都市景観のあり方」が掲載されている。戦後の復興もひと段落、万博も終わり、オイルショックの影響で、経済的には苦勞した時期である。建築とラン



イチョウの街路樹



淀屋橋付近
(2017年の御堂筋。いずれも筆者撮影)

昭和50年の御堂筋

大阪

塩谷 馨

1. はじめに

大阪では東西道路を「通」、南北を「筋」といい、東西の「通」が幹線で南北の「筋」は脇道であった。御堂筋や堺筋が幹線道路になったのは明治以降のことである。当時の道路幅員は南北方向（筋）が3.3間（6m）、東西方向（通）が4.4間（8m）となっている。また、大阪都心部のいわゆる船場の街区は約80m角が基本型で、80m四方の中央は東西方向に約1～1.5mの雑用水の排水路があって上町台地からの雨水をスムーズに河川に流して町の情緒を保っていたもので、非常に整然とした町並であった。このような町に飛行機の滑走路でも作るのかといわれたほどの広幅員道路（幅員43.7m）が築造されたため、各街区は中央の排水路をはさんで2棟のビルが建ち並ぶこととなり、イチョウ並木とともに日本一格調高い道路と都市景観を形成している。しかし、80m四方の基本型街区の範囲外である淀屋橋以北と道頓堀以南すなわち大阪三郷以外の地域では街区も整然とせず、小売店舗を中心とする用途構成とあいまってペンシルビルも多く、船場、島之内の町とは好対照をなしている。

そこで御堂筋の全容をスケッチによりパノラマ風に紹介するとともに、沿道の市街化がどのように形成されたかを若干の資料から観察することとした。

2. 御堂筋の概要

御堂筋は、大正15年10月22日着工され、12年の歳月と3378万円の巨費（現在では300億円以上）をかけ、昭和12年5月11日完成した。図-1に示すような幅員構成の、阪急駅前より難波駅前に至る延長約4.4km、イチョウ並木の2本の分離帯と地下鉄を併設したシンボリックな道路である。完成に際しての工事報告のなかでも「産業都市トシテ交通運輸関係ニ重点ヲ置クト共ニ沿線トノ調和ニ留意シ都市美ヲ達成ニカヨクシマシタ。」とあり、都市景観について十分配慮を行っている。このような基本的な考え方とつくられた道路の付帯設備や市街地の秩序ある形成のために指定された地域地区は、表-1、表-2のとおりであり、施設等については現況を付記したので比較されたい。



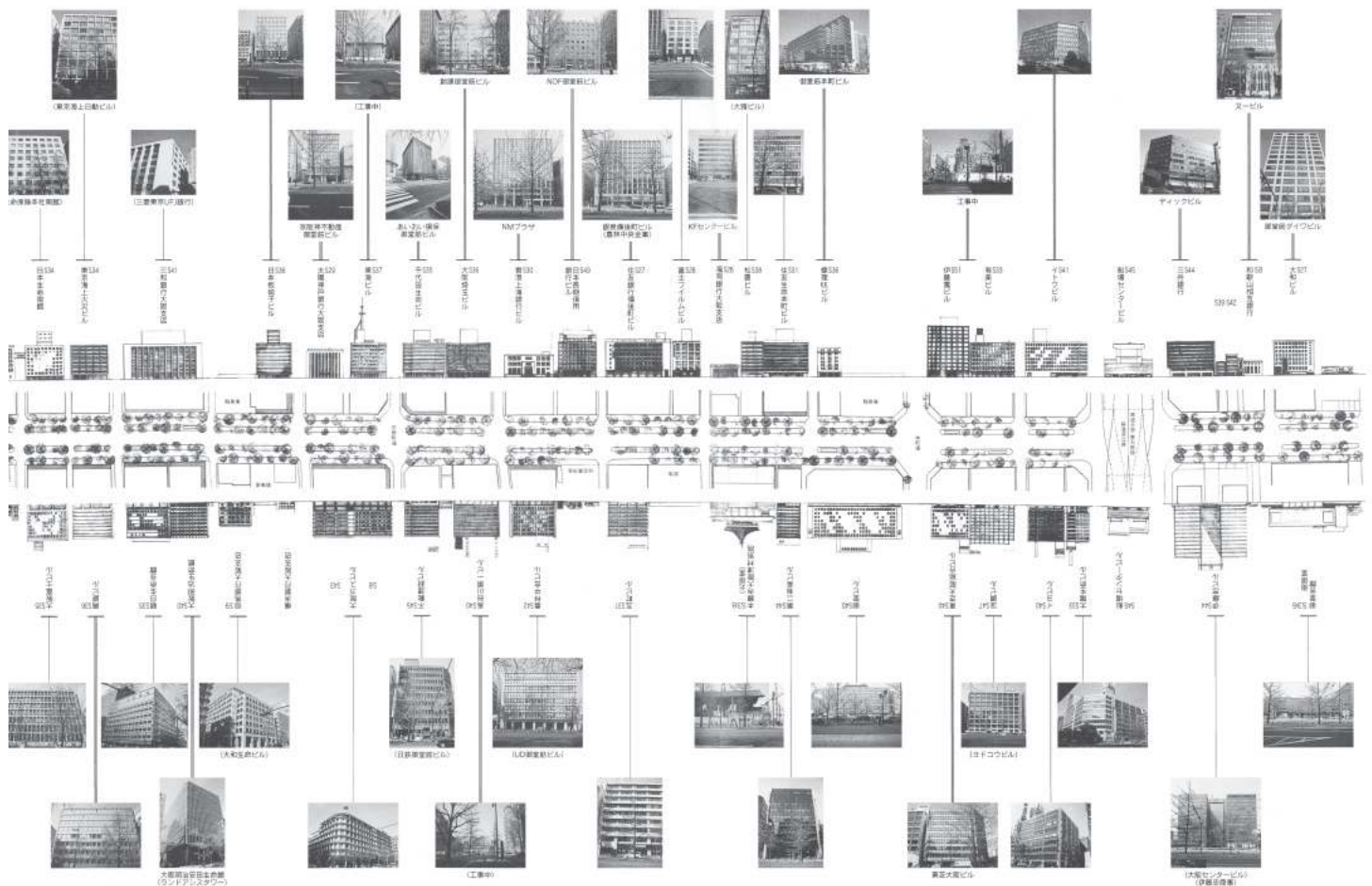
大阪ガス御堂筋東ビル（手前）と京阪神御堂筋ビル（奥）
4mセットバックした新しい壁面線のまちなみができつつある。



セントレジスホテル（本町東南角）



イトウビル
1966年の建設。建替えが進む中、60年代らしいデザインや素材を保っているビルも意外とある。



建築と社会 2007年 17～19

「御堂筋1975そして2007」今橋～北久宝寺町＝「建築と社会」2007年4月号



興銀ビル（手前）と大阪富士ビル（奥）
興銀ビルは1961年に建設されたものが残る。
調査時、意外と新しいものに見えたのだろうか。
建替え物件に分類されている。



船場センタービル
近年、外装が変わり、明るい雰囲気。



南御堂
本堂は変わらないが、御堂筋に面した会館は建替えられ、超高層ホテルが建設される（現在工事中）。

ドスケープの専門家二人は、美しいとは言えない日本の都市景観に対し、「破壊の方がいままでは大きかったと思うのです。その反省期にいまあるということですね」（久保）、「景観は、平面だけでは解決しない、立体の問題ですから、容積制から一歩ふみこんだもの、具体的なたたき台になるイメージの提案が必要でしょう」（足立）と言う。御堂筋に関しては、足立が「一般の方の御堂筋の印象は、いちょうが主役で建物は背景ですよ（笑い）。流行歌にうたわれているようにね。〈中略〉空間が囲われているし、道路の見通しが樹木によって妨げられて安定感をつくっている、人工の中の自然として目立つということでしょう」と述べている。対談に続き、大阪、神戸、京都の具体的な景観に関する各論が論じられた。大阪は、大阪市の街路行政を担当した塩谷馨が執筆し、当時の御堂筋の両側のまちなみをスケッチで記録したのである。

その紙面構成がユニークだ。長い御堂筋を表現するため、41ページから56ページは、半分の高さで4ページ分の幅の用紙が折りたたまれて2枚挿入されている。16ページのうち11ページに、梅田阪急前から難波駅前までの御堂筋の平面図と沿道の立面図が1:2000のスケッチで、一続きに描かれている。両面印刷のため、絵巻物のようにはいかないが、ページを広げれば、沿道の景観がある程度、街を歩くように見ることができる。主な建物には建物名と竣工年が記されており、約40年前の御堂筋を知る資料としての価値をもつ。図とともに、建設経緯や概要、そして「御堂筋の市街地形態」として、どのように市街化が進んだかを分析し、グラフや図で示す。1975年には、御堂筋には恒久的な建物の建ち並びがほぼ完成しているが、大阪駅前から梅田新道交差点までの部分や難波駅近くの部分では、低層の建築や区画の小さい建物が多いことがわかる。塩谷は、分析は示すが、評価はせず、客観的に実状を示すことに徹している。

大阪中心部を南北を貫く御堂筋には、河川や幹線道路が適度な間隔で交差する。橋梁や大きな交差点で区切られた区間ごとに特色が生まれる。塩谷も「河川、幹線道路により区分された地区の特性を今後どのように生かすかということが新しい景観形成のための問題点かと考えている」^{注2)}と述べている。1975年の各エリアの状況を見ておきたい。

北端の梅田では、大阪駅前ビルの建設がまだ始まっておらず、小規模な建物が密集している様子が描かれている。大阪市役所は、大正期に建設された先代のものである。

淀屋橋から本町にかけては、31mで軒線が揃い、1ブロックに1棟ないしは2棟建つ、

ビジネス街らしい整然とした街並みがほぼできている。東面に比して西面は、中央大通以南では低層建築や空地も散見されるが、北御堂、南御堂、難波神社など宗教施設が集中している。震災によって堂宇を焼失した両御堂は、すでに鉄筋コンクリート造で再建され、会館等を併せ持つ、都市的な現代寺院の姿で描かれている。

心斎橋以南では、東面に並ぶ対照的なデザインの2棟の百貨店、そごうと大丸が目とまる。道頓堀以南では、低層で小規模な建物がまだまだ多いが、難波駅前には戦後比較的早い時期に復興した南街会館の側面が描かれ、西面には、新歌舞伎座の特徴的な外観が異彩を放っている。

■2007年の御堂筋 再読

1975年のスケッチの掲載から32年後、日本建築協会は90周年を迎え、『建築と社会』2007年4月号はその記念号として「対談 御堂筋から変わる都市 大阪 一都市に人の気配と緑を―」を掲載している。大丸取締役会長の奥田務と日本建築協会会長の佐野吉彦による対談で、ちょうど開通70年を迎えた御堂筋に触れ、大阪の都市像について語っている。この対談に続いて、「昭和50年の御堂筋」に掲載された御堂筋のスケッチによるパノラマ図が再録され、それに2007年当時の様子を写真で付され、約30年の変化が示されている^{注3)}。大江橋以北がカットされ、少々距離は短い、3ページ分の幅の用紙が折り込まれ、両面6ページに構成されている。中央に1975年のスケッチを配し、その上下に主な建物の写真を掲載し、建て替えられた建築と変更なしのものを区別している。

30年余りで、かなりのビルが建て替えられたことがこの図から分かる。この期間で建て替えの対象となったものは、戦前期に建てられた古くて小規模な建物だけでなく、むしろ1950年代後半から1960年頃に建てられたビルだ。本町から長堀橋までの区間は、東西面ともほとんど建て替えられていることがわかる。本町以北でも東面、つまり戦後早い時期に建てられた戦後建築はほぼ建て替えられ、三度、街並みが一新されたといってもよい。

この現況調査は、詳細に見ていくと、若干間違いや不明な部分があるものの、1975年から2007年、つまり昭和後期から平成にかけての御堂筋の変化を知り得る資料と言える。この再読シリーズも同様の視点を持つと言えるが、過去のデータに照らし、現在を捉えることは、『建築と社会』が長い歴史をもつ会誌だからこそ可能なことなのかもしれない。

■現在の御堂筋

2007年からさらに10年を経て、昨年、日本建築協会は100周年を迎え、御堂筋は80年を祝った。この間、御堂筋の状況はさらに大きく変わっている。大阪市は1995年に「御堂筋沿道建築物のまちなみ誘導に関する指導要綱」を策定し、御堂筋沿線は片側4メートル後退、建物の高さ制限を50メートルとした。パブル崩壊後、すぐには建替えは進まなかったが、徐々に高いビルが増え、近年、御堂筋を歩くと、壁面線のデコボコがかなり目につく。2012年には、御堂筋の管理が国から大阪市へ移管され、多様な使い方への機運が高まっている。広い歩道や側道のカフェ利用や、側道の自転車専用道化などの社会化実験を試みた。現在、距離は大変短い、側道が自転車専用道になった区間もある。

2017年に大阪市の都市景観条例が改正され、通りや地域ごとに特色ある景観が育まれる基盤ができた。もちろん御堂筋は大阪を代表する街路として、格調高い景観が望まれる。また大阪市長は御堂筋を「車から人中心に変えていく」とし、側道を歩道化する方針を示している。近年、経済状況が好転し、先述の通り、御堂筋沿いでも新しい誘導に応じたビルの新築が急速に進んでいる。2007年の記事で「工事中」となっているところには50メートルを超えるビルが完成している。大阪の近代建築の代表的な存在、大丸心斎橋店も、外観の部分保存による超高層ビルへの建て替えが進行中である。難波駅前で強烈な個性を発揮していた大阪新歌舞伎座も、「イメージ」は継承されると聞く。景観という語が一般にもよく使われるようになり、価値が共有されてきた反面、何をどう残せば建築の保存、景観の保全となるのか、改めて考える機会が必要だ。

『建築と社会』でのこれまでの御堂筋への注目と分析の詳細さの足元にも及ばないが、前ページに掲載した1975年、2007年の御堂筋の状況に加え、昨年撮影した御堂筋の沿道景観の写真を部分的に付す。御堂筋は大阪の近代化遺産のひとつであり、御堂筋を注視することは、大阪の都市景観に関心を持ち続けることにつながる。

注

- 1) 高岡伸一、嘉名光市、佐久間康富：都市との関係からみた御堂筋沿道建築物に関する近代建築史研究 ―御堂筋建設から景観保持に関する建築指導開始までの期間を対象として―、日本建築学会計画系論文集、pp.1337-1347、2017年5月
- 2) 塩谷馨：昭和50年の御堂筋、建築と社会、p.55、1975年6月
- 3) 御堂筋1975そして2007、建築と社会、pp.17-22、2007年4月

第17回「建築と社会」賞 入賞作品

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。

作品部門

ヤマウチ メディアイノベーションセンター

〈2017年6月〉

所在地 一京都府福知山市長田野町

建築主 ヤマウチ株式会社

設計・監理 株式会社竹中工務店

施工 工一株式会社竹中工務店



■合理性の先のおおらかさへ

細長い敷地形状にあわせ、建築・構造・設備・ワークプレイス、すべてがリニアに計画された研究所兼事務所。長手方向に50MのPRC梁、短手方向はスパンクリート合成床板の梁レスとしたすっきりした架構形式を実現している。シンプルな躯体が天井内に十分な気積を生み、空冷式輻射空調の採用を可能とし、間接照明をベースとしたタスクアンビエント照明によるやわらかな光とともに省エネに配慮している。

極度に柱の少ない空間は長手方向に奥行感を与え、短手方向にレイヤリングされたワークプレイスは、外部へとつながる透明性を獲得し、遠くに見える緑豊かな山並みと呼応する。

合理性が主題と思われた建築が生み出すおおらかさは、周囲とゆるやかに連続した広がりを持ち、地域の子供たちの社会見学を受け入れる姿は、建築や空間だけではなく周辺環境をもより豊かなものにしている。



大平卓磨 おおひら・たくま

2003年 竹中工務店入社

現在 同社大阪本店設計部

主な作品

ミルボン中央研究所（増）（2014年）

サントリーワールドリサーチセンター（2015年）



奥山広志 おくやま・ひろし

2007年 竹中工務店入社

現在 同社大阪本店設計部

主な作品

沢井製薬開発センター（2015年）

作品部門

阿南市新庁舎

(2017年 8 月)

所在地 徳島県阿南市富岡町トノ町12番地 3

建築 主—阿南市

設計・監理—日建設計

施工—大成建設・東光電気工事・朝日工業社・四電工



■市民のためのパブリックスペース

徳島県東南部の中心都市阿南に建つ免震構造を採用した庁舎。吹抜空間「あなんフォーラム」を庁舎の核と位置づけ、「市民・議会・行政」が協働する姿を身近に感じることができる場とした。阿波踊りなどのイベント時には庁舎を部分開放し、広場との一体利用が可能である。また省CO₂モデル庁舎として、自然エネルギーや地場産材を活用した環境手法をわかりやすく視覚化し、庁舎そのものを環境学習の場とした。



赤木 隆 あかぎ・たかし

1972 年 日建設計入社

現在 同社シニアエキスパート設計長

主な作品

龍谷大学 龍谷ミュージアム、大阪市城東区役所



岡田泰典 おかだ・よしのり

1992 年 株式会社日建設計入社

現在 設計部門設計部長

主な作品

INAX大阪ビル、KRP 9 号館、龍谷大学東覚



木村秀男 きむら・ひでお

2008 年 株式会社日建設計入社

現在 設計部門設計部

主な作品

淀屋橋ミッドキューブ、三井住友銀行川西支店

作品部門

コイズミ緑橋ビル

(2017年11月)

所在地 大阪府大阪市東成区東中本2丁目3番5号

建築主 小泉産業株式会社

設計・監理 株式会社竹中工務店

施工 株式会社竹中工務店



■自然の「あかり」を体感し、新たな「あかり」を創造する「あかりの杜」
自然の「あかり」をお手本に、照明器具の企画・開発・製造・販売を行っているコイズミ照明の研究開発施設である。敷地は大阪市内の住宅地である。まちに対しては“緑段のPARK”として、まちのスケールと調和させ、ワークスペースに対しては“各階のGARDEN”として、適度なヒューマンスケールとリアルな自然との関わりを創出した。各階に南向きの庭があることで、太陽光が執務空間に木漏れ日を落とし、また、花を摘んだり、新しく種を植えたりと、自然との交歓を通した社員同士の新たなコミュニケーションも生まれている。木の幹のメタファーとしての木質の吹抜けは、外部環境の移ろいを体感できる場であり、開発商品の実証実験を俯瞰できるコラボレーションの拠点でもある。竣工後まもなく、普段見ることのなかった小鳥や蝶が各階のバルコニーに訪れるようになったと聞く。「あかりの杜」が自然と人を結び、まちの環境を変える一助となることを願っている。



有田 博 ありた・ひろし

1993年 東京芸術大学大学院美術研究科修了
同年 竹中工務店入社
現在、同社大阪本店設計部グループリーダー
主な作品
オリックス本町ビル (2011年)
数研出版関西新本社 (2015年)



北村仁司 きたむら・ひとし

1996年 京都大学大学院工学研究科修了
同年 竹中工務店入社
現在、同社大阪本店設計部グループリーダー
主な作品
大正製薬関西支店 (2012年)
ニフレル (2015年)



金澤 潤 かなざわ・じゅん

2011年 名古屋工業大学大学院工学研究科修了
同年 竹中工務店入社
現在、同社大阪本店設計部
主な作品
コイズミ緑橋ビル (2017年)
竹中工務店神戸西FMC改修 (2017年)



作品部門

神戸海星女子学院マリア幼稚園

〈2017年12月〉

所在地 兵庫県西宮市木津山町
建築 主一学校法人 海星女子学院
設計・監理 株式会社竹中工務店
施工 株式会社竹中工務店



卵型の園庭を取り囲む半外部空間と、これに沿って分棟・雁行配置された保育室などの諸室から成る園舎。六甲の山並みを望む高台に位置し、豊かな緑と広い空に恵まれた環境の中、園児自らが自由に遊び学ぶ「モンテッソーリ教育」の場である。

自然の豊かさに触れ、心身ともに成長する幼少期を過ごす場として、内外・明暗・大小・冷温さまざまな性質を持ち、子どもたちの様々な活動を促す多様な居場所のある建築とした。テラスはスロープや階段によって上下階が連続し、園舎から園庭へ大きな回遊性を生み出し、子どもたちは屋内外をのびやかに走り回っている。一方、

分棟・雁行配置により生まれたすき間やたまり場は、山や空などの景色の抜けや、光・風の通り道となり、周囲の豊かな自然を遊びながら体感することができる。また、水の流れが見えるガーゴイルは晴天時も人気の居場所となっている。そして、子どもたちの手の触れる建具や家具は、木の温もりを身近に感じられるよう天然木を多用した。

日々刻々と変化する自然の移ろいを「五感」で感じる園舎の中で、たくさんの出会いと発見を繰り返し、人や自然を想う、豊かな心を育むことを願いたい。



坂口武司 さかぐち・たけし

1994年 京都大学大学院工学研究科修了
同年 竹中工務店入社
2016年 大阪大学大学院地球総合工学専攻
単位取得退学 博士（工学）
現在、同社大阪本店設計部
主な作品
高松大学新校舎棟（2008）
神戸海星女子学院中学校高等学校（2014）
関西大学梅田キャンパス（2016）



齋藤華織 さいとう・かおり

2006年 日本大学大学院生産工学研究科修了
同年 竹中工務店入社
現在、同社東京本店設計部
主な作品
市立吹田サッカースタジアム（2015）
びわこ成蹊スポーツ大学中央棟（2017）

建築時間論

—1000年の視野から建築を考える—

(2017年12月)

加藤耕一

2017年は、日本建築協会の創立100周年を祝賀する記念イヤーでした。心からお祝い申し上げます。『建築と社会』でも、7月号と9月号で、「100年前の建築、100年後の建築」という特集が組まれていました。

その記念すべき2017年の最後を飾る12月号のなかで、私はまったく文脈を読まずに「1000年の視野から建築を考える」という論考を寄せてしまいました。「もう少し考えて書いて下さい」と怒られるのではないかと考えていたのですが、まさか賞をいただくことになるとは！ ご関係の皆様のご度量の大きさに敬意を表し、深く感謝申し上げます。

私自身は西洋建築史を専門としていますが、大昔の、それも遠く離れたヨーロッパの歴史など研究して何の役に立つのだ、と言われることもしばしばです。しかし、現代社会がいままさに経験している社会変動は、変化の渦の中心にいるよりも、地理的にも時間的にも大きく距離を取り、俯瞰して見るとさらによく理解できるのではないか、というのがこの論考の趣旨でした。こうして賞をいただいたということは、現代の建築と社会を考えるうえでも西洋建築史の視点は重要ですね、と共感していただいたということだろうと思います。どうもありがとうございました。



加藤耕一 かとう こういち

1973年東京生まれ。東京大学工学部建築学科卒業、同大学院博士課程修了。博士（工学）。

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻・教授。専門は西洋建築史。主著『時がつくる建築—リノベーションの西洋建築史』（東京大学出版会、2017）でサントリー学芸賞、日本建築学会賞（論文）、建築史学会賞。他に『ゴシック様式成立史論』（中央公論美術出版、2012）、『「幽霊屋敷」の文化史』（講談社現代新書、2009）、監訳書に『ロンドン大図鑑』（西村書店、2017）、『近代建築理論全史』（丸善、2016）などがある。

一次選考結果

『論考部門』—25点

- ・ 建築と社会の100年から
～続 クライアント・エンパワーメント時代の建築～
- ・ ルポ7 地域を変える企業の取り組み
—銘建工業社長・中島浩一郎氏に聞く—
- ・ くまもとアートポリスとUDで地域を支える
- ・ BIM技術研究会 フリーディスカッション
- ・ 設備技術のあゆみ
- ・ 建築環境から都市環境へ～都市の熱環境計画～
- ・ オルタナティブ・モダンの先にあるもの
- ・ 語られなかった近代日本の建築家像～武田五一の活動を通じて～
- ・ 100年後の環境
- ・ 100年後に何を残すか
- ・ 観光振興における宿泊産業
- ・ イタリアの空き家・空き建造物を利用した地域共創
—アルベルゴ・ディフーゾの事例—
- ・ 時代を映す鏡 宿泊施設一夏のあとの利活用の展望—
- ・ 構法から見た100年前の建築と今日の建築
- ・ 木造建築の可能性
- ・ 伝統的木造建築と構造設計と私の大阪人DNA
- ・ 建築時間論—1000年の視野から建築を考える—
- ・ 幻の空間と遊ぶ
- ・ 建築と高齢化 住宅と施設のマネジメント
- ・ 災害復興過程から社会・建築・経済の関係を考える
- ・ 御堂筋 メインストリートの現在・過去・未来
- ・ モダニズム建築の歴史的評価をめぐる現場から
- ・ 感性に呼びかけるインテリア その風景楽しんでますか？
- ・ 埋もれた価値の発掘 歴史的建造物の調査・評価・保存
- ・ 住まい・まちづくりの実践的研究

『作品部門』—5点

- ・ キューピー神戸工場
- ・ ヤマウチメディア イノベーションセンター
- ・ 阿南市新庁舎
- ・ コイズミ緑橋ビル
- ・ 神戸海星女子学院マリア幼稚園

入賞作品

『論考部門』

- ・ 建築時間論 —1000年の視野から建築を考える— 加藤耕一

『作品部門』

- ・ ヤマウチメディア イノベーションセンター
- ・ 阿南市新庁舎
- ・ コイズミ緑橋ビル
- ・ 神戸海星女子学院マリア幼稚園

『審査員特別賞門』

- ・ 特集 社会と繋がるディテール
- 企画 編集委員会 特別編集委員

審査講評

第17回「建築と社会」賞 審査委員会

日時 2018年5月21日(月)

18:30~20:30

場所 日本建築協会

【選考委員】 委員長



田中直人
島根大学客員教授

委員



阿部浩和
大阪大学大学院教授



多賀謙蔵
神戸大学大学院教授



近本智行
立命館大学教授



引本由香里
大阪ガス(株)エネルギー・
文化研究所特任研究員



松本明
近畿大学教授

田中 第17回「建築と社会」賞の審査を始めます。今回の審査対象は、作品部門52作品(会員作品特集「私の空間作法」10作品、連載「gallery」コーナー12作品含む)、論考部門146作品(法令、構造など連載含む 青年技術者特集除く)です。

まず論考の方から始めたいと思います。審査手順としまして、まず選考委員6名から、5点の推薦をいただくということで集計させていただきました。

集計の結果、1票のものが多くばらついておりますので、票の結果を確認しながら進めます。

<集計結果の確認 3票1作品 2票1作品
1票24作品>

田中 3票入った加藤さんの『建築時間論』が一番多いという結果です。

票だけで決めるつもりはないので各選考委員の方から、この結果ならびに全体を通して敗者復活も含めてご意見いただきたいと思いますがいかがですか?

阿部 3票入っていて一番多い加藤さんの論考ですが、いまの日本の状況、高度成長が終わって縮退期を迎えた、そういう中で建築と社会のことを議論されていたと思います。絶頂期を越えて衰退期に向かう西洋の過去の事例を2つ3つ挙げています。古代ローマの末期や、ゴシックが衰退し始めた時期だとかです。そういった時代を取り上げてその時に建築と社会がどう対応してきたかということが結構克明に書かれていて非常に面白いと、個人的に思いました。

丁度いま考える必要のあるテーマだという感じがしました。

弘本 私も全く同じで1000年の視点から捉えるとまた違う物の見方が出来るな、ということととても貴重な考え方を示してくださっていると思いました。

私たちは1世紀単位や1世代単位で、ライフスタイルや器としての建築のあり方を捉えがちですが、社会のパラダイムシフトが起きて

いる今こそ、その常識そのものを疑ってみることの大切さを教えられます。

多賀 私はエンジニアリング系というか構造の人間なので、その観点で分かりやすく優れた論考があればまずは推しているのですが、この加藤先生の論考は専門外の私の知識レベルでも非常に興味を持って分かりやすかったということと、古代ローマの話というのは、初めて聞いた話であったにもかかわらず、十分納得できるという点で高く評価します。残し方、伝え方にもいろいろあるよ、ということについて事例を踏まえた説得力のあるお話をされていますし、特に残し方については『「古材を売る」という考え方に、文化財保護を推進してきた方々は過敏に反応するだろう。』と批判のある方もいらっしゃるだろうが、という断りを入れながら、もっともなご意見を非常にわかりやすく語っておられたのが印象的でした。

近本 1000年を考えるというテーマが非常に面白いと思いました。その部分私も共感しまして、一方で、創立100周年に合わせ100年という過去を振り返ることと100年後を考えるとというテーマがあって、そういう意味で両方により具体的な面白みを感じました。

1000年というテーマも1000年先もあってもいいようにと思います。

阿部 昨年いろんな特集で建築協会100周年と関連して100年の話題が3つ4つありましたね。

田中 はい。それに関連するけれどもこの加藤さんの分は非常に注目していると、評価したい、という事ですか?

近本 いいと思います。非常に面白かったと思います。

田中 一応、論考部門としては1点か2点ぐらいの選出を予定していますので、1点でも別にいいですけど、他にこの論考部門としてぜひ推したいというのがありますでしょうか? 1票で拡散してしまっているの、非常に難しいかと思いますが。

弘本さん何かありますか?

弘本 なかなか1つに絞りにくい感じがしますね。それぞれに、専門の知見をもとに問題

提起などをされていて、共感するものは何点かありますが、その中で1点となると順位がつけられないなという感じがしますね。

田中 結果的には加藤さんの1点だけでもいい？

弘本 私はそんな印象を持っています。

田中 他の方がいかがですか？

あえて2点にする必要は無いという意見ですか？それともぜひこれは挙げたいというものがございますか？

阿部 気になるのが、2票の論考がひとつあります。それはどうかと。

田中 いかがですか？

近本 昨年は藤森先生の「おもてなしと建築」と、村上さんの構造設計の「建築はみんなで“つくる”ーパパ、あの建物作ってんで。全部やないけどな…。ー」で、ものすごく印象に残っています。

弘本 そうですね。

田中 かなりインパクトがある。それと分野が違った分野だね。

できたら構造とかそっち側の分野からどなたかの論考を選出するというのはバランス的にはいいかなと思いますけど、先生いかがですか構造で？

多賀 構造の視点から挙げさせていただいたのは11月号の「伝統的木造建築と構造設計と私の大阪人DNA」という論考です。

中身はそれほど構造のエンジニアリング的な話をされているのではなくて、タイトルにあるように『大阪人DNA』的なところが、やっぱり伝統的木造建築を残していこうという原動力の根底にあって、それがエンジニアとしてのモチベーションにつながっているという感じがですね。

エンジニアとしての技術的なことは控えめに、「精神」のところをしっかりと伝えておられたところに惹かれました。

構造関係でちょっと迷ったのが3月号のルボ7鉄建工業の社長さんのお話です。迷った末に別の論考を推しましたが、ルボ7はちょっと視点が変わっていて大変面白く読ませていただきました。

田中 今の時点で考えてこれっていったらどれなんですか？過去は問わず。

＜一同笑＞

多賀 去年の村上さんのインパクトのある特徴的な表現を思うと、みなさん非常にまじめな文章で、というところ村上さんに怒られますけど、インパクトは正直足りなかったかなということもあって加藤先生の1作品だけでもいいのかなという気がしています。

田中 あえて構造からというのはしなくてもいいと。

多賀 それにこだわらなくてもいいという感じがします。構造からどれか一つというのは逆に難しい気がします。

田中 はい、ありがとうございます。

他の方からご意見いただけますか？

松本 1票を入れた橋爪さんの御堂筋の論考なんですけども、御堂筋のことを深くは無いかもしれませんが、非常にコンパクトにまとめられています。いろんなことを知らしめてくれたという意味においてはわずか4ページですけれど非常に良かったと思いました。

田中 橋爪さんの方のご推薦ありましたでしょうか？

弘本 御堂筋の道路空間の再編に向けて、中心的役割を担っていらっしゃるお立場から、歴史をまとめて発信してくださったことは意味のあることで、敬意を表するのですが、歴史の分野では加藤先生の論考がありますのと、他の方々の建築・まちづくりの画期を問う論考と甲乙つけがたいものだと感じています。

田中 はい、ありがとうございました。

多分野のバランスということで、先ほど構造系からという話を出しましたが、それ以外の分野からの話はありますか？設備とか。

近本 設備ですが、設備の特集にも合計で2票入っておりそこそこ面白い内容だったということと思っています。

ただ先ほど弘本さんが仰ったように、すぐく分かりやすく書かれてはいるんだけども表彰対象としてこの方を推すっていうほど一人に絞りきれないような気がします。

また村上周三先生にも原稿を書いていただき、サスティナブルの集大成のような話もあって、いい勉強になると思います。

一方で選考は、「建築と社会」という趣旨に沿いもう少し地域に根ざして、社会に根ざした内容で進めていただいてもいいのかと思います。

田中 ということは該当ありませんか。

近本 はい。

田中 ありがとうございます。そしたら構造分野ならびに設備分野であえてということにおいては特に推薦するものはないということで、結果としてはいま挙がってます加藤さんお一人でいいんじゃないかということでよろしいでしょうか？

はい。じゃあ論考の部門としましては今年度は加藤耕一さんの「建築時間論」にしたいと思います。

では、特集企画そのものを対象にするという審査員特別賞がありまして、前は計画系の特集企画が入っていましたが、今年はいかがでしょう。

毎月の分科会の特集の他に、編集委員会全体での特集が「社会と繋がるディテール」という10月号のものがありません。ちょっと今までのスタイルと違う組み方で、少しくディテールを特徴的な事例を入れてですね取り組んでいるものがあります。

これについてどうでしょうか？

多賀 私は論考ではないんだけど、と思いながらこれに1票入れさせていただきました。というのも新たな切り口というか、非常に実用的で質も高かったように思います。建築的なディテールだけではなくてエンジニアリング的な工夫も紹介されているという意味で新鮮な感じがしてこれは面白いなと思いました。

田中 やっぱり建築を支えるディテールということで技術的な話とかあるいは時代での要求から取り組まれているディテールの取り組み、いろんなものが出ていて、興味深い特集かなと思います。

これからこの「建築と社会」の誌面の中に作品だけでなく、いわゆる純粋に論考とし

ての論文みたいな形のもの以外に建築の持っているさまざまな実務的な役割とか、対応の仕方これを考えていくというのは大事なことだと思いますね。

阿部 特別賞は論考部門とは別枠で？

田中 別ですね。だからみなさんからいただいた票では特別賞として「社会と繋がるディテール」という。『社会』とこう入れているのが・・・

弘本 それがなかったら（笑）

田中 繋がらなかったら「建築と社会」賞に値しない、その点が面白いな、と。

松本 ディテール集としてもよくできていると思いました。最近「GA」という雑誌でディテール集が出ていましたけれど、あちらの方ではどちらかというと作家的な方の特集です。それはそれで参考になるんですけども、この特集で出されているのは、どちらかといえば組織のものが多くいので、ある意味かっちりしたディテールが全体としてまとまっていて、それがこのテーマに繋がっているのかなと。他の雑誌とはちょっと違うところに視点があればいいと思います。

田中 「建築と社会」らしいと。他に特になければ、特別賞としましては「社会に繋がるディテール」10月号を挙げるといことで。はい、ありがとうございます。

次は作品部門について相談させてください。あらかじめ一次審査として投票いただいた結果、昨年同様2票以上の作品で本日視察に行った3作品と行けなかった2作品を検討対象としたいと思います。

<視察に行けなかった作品のデータを映し出し、内容を確認>

田中 全部で5点ありますが、そこから決めてしまうのか、いやちょっと検討対象としてはこれも入れたらどうでしょうというのがあれば最初にあげていただきたい。

ありませんか？

目標としては2～3点に絞込みをしたいと思うんです。まず先生方のこれぞというのを投票

してもらいましょうか？

それで集計してから議論しましょう。

それでは投票の件数ですけど、3点選んでください。

<委員による投票と集計>



阿南市新庁舎

田中 まず5票入った阿南市新庁舎についてはどうでしょう？

阿部 視察で見たかったですね。

弘本 そうですね、見たかったですね。

<一同笑>

田中 現在求められるようなファクターは欲張ってるぐらいに盛り込まれているということ。

弘本 詰め込まれていますけれど、「市民、議会、行政」の三者の見通しをよくするコンセプトなど、ある種の風通しのよさも感じます。

田中 ただそれが本当に全体として機能するかどうかですけど、最後のスライドで阿波踊りが出てきたのがまいったと思いましたね。あ、それか、と思いましたけど。地域性というか、かなり地場産という事を意識されているのは分かりましたし、まあ地域の方にとってはいい市役所になってほしいですね。

松本 総合的なテクノロジーの集積としてはすごいなと思ったんですけど、阿南市という地方都市の新庁舎としてこれほどのものが求められているのかということを少し疑問に感じました。

田中 果たしてどうなのかなと？私もちょっと気になったのは後のメンテナンスとかね、運用の仕方であると思うんですけど。まあそれはこれから期待するということ。よろしいですか？

近本 資料に日垂化学とありましたが、地場企業もたぶん誘致されて、予算かけて、保守

にもかなり気にして設計されたんじゃないかと思います。

田中 庁舎として使いながら建設するというステージプランニングの中でそれが最終形の形にうまく持っていけてるという点がうまいという事で、その形態が地元のイベントの阿波踊りという事に焦点当てている、その辺がうまいなという。地域の文化とか歴史とか伝統的なものもいれようと。そして地場の材料を使ってる。

じゃあこれは一応入選ということで、続いて4票になりましたコイズミ緑橋ビルと神戸海星女子学院マリア幼稚園ですね、まあ順当にいったらこの2点を入れて合計3点ということで決まりなんですが、ちょっとそれぞれについての論評、コメントいただけますでしょうか？

まずは神戸海星女子学院マリア幼稚園から。



神戸海星女子学院マリア幼稚園

弘本 そうですね、私はどちらも好感を持って拝見しましたが、神戸海星女子学院マリア幼稚園は、ソフト面・ハード面が優れて調和して、立地的にも、理念的にも、マンパワー的にも、コスト的にも、非常に恵まれた事例ですね。ここに通うお子さんたちが、うらやましいくらいです。

田中 現地でも質問したんですけど、既存の部分と今回の部分のつながりがどうなっているとか、バリアフリーになっているだけじゃないかと一瞬思ったんですけど、現場で見たときそのバリア空間じゃなくてむしろ子供たちはその空間を楽しんでいて、非常に新旧のつなぎ空間の活用の仕方がうまいのとやっぱりランドスケープとして立地特性を生かしているということで、大きく形態的には庭を囲むような配置のテラス、スロープ、階段、うま

くいつているなど、まあオープン式になっているところが結構うまくいつていますね。それから大きな建物にしないで分割してスリットから見る風景とかつながり風の通りなんか魅力的だったなと私は思いましたね。

弘本 私も最初に掲載されているのを見たときには、実際はどうなんだろうと、半分期待し半分難しい部分もあるかなと思って行ったんですが、予想以上に素晴らしいなと思いましたね。

田中 「建築と社会」よりも実物の良かったですね。

弘本 ええよかったですね。



神戸海星女子学院マリア幼稚園

阿部 私もそう思いました。ロケーションもいいし、それをうまく生かしてるなあ、という感じでしたね。

田中 ただ難をいえばちょっと子供にとって危ない部分があったのが気になりますね。これは対応されていましたがね。

弘本 そうですね、そういう教育方針なんですよね。

阿部 マリア幼稚園に関していうと建築主さんと設計者とが時間をかけて打ち合わせをして丁寧で作られているという感じでした。非常に細かいところまで気配りがされていて仕上がりも非常に良かったですね。

田中 そうですね。

阿部 納まりなんかもコンセントだとか設備機器もうまく収納されて作られてる。すみずみまでよく考えられていました。

田中 丁寧な設計ですね。

近本 建物に関しては細かいところまでトップライト、サイドライトで光を採り入れている。

階段の途中で上からと横からをあわせながらそこに居場所をちょこっと作ってる。

田中 あの壁の隅のところですね。ああゆうスポットがうまいなあと、子供がやすらう空間を作ってるという、大勢でわいわいやる空間だけじゃなくて一人の子供にも対応する配慮があっておもしろいですね。

それから雨どいを使う発想とかね。遊び心というか子供の遊びをうまく誘発するような仕掛けが面白いですね。

松本 見学できなかったのですが、敷地にごく余裕があるところが幼稚園としていいと思いました。建物とランドスケープとの関係はいかがでしょうか。

田中 建物は逆にあんまり気にならなかったんですけどね。元からある石垣とか残されて今は使っていないですけど修道院の時に出入りしていた入り口をトンネルになってるらしいんですけど、それをゲートに入口だけ残したり、坂の上にある施設ですけど外から建物が見えないというかそんな感じがしましたから。うまいこと高低差を使っているなと思いましたね。

多賀 現地建替えだったらいいですね。だから制約のある中で今の形ができているのだろうけどそれを感じさせなかった。

弘本 ええ。あれだけの住宅地になじんだ形のままで、幼稚園の空間を作っているというのはすごいなと思いましたね。

阿部 周辺がかなり起伏があるというか、この幼稚園があるあたりだけが丘状になっていてあと全部切り立っているんですね。

田中 一番天辺にあるんですけど威圧的な建物になっていないんで、そういう点がよかったかな。分割して小ぶりにして。で、緑のフラットな部分とシンボルツリー、シンプルにまとめているとか。まあいろいろと気を使った作品かなと思いますね。

コイズミ緑橋ビルの方はどうですか？

弘本 これたぶんヤマウチ メディアイノベーションセンターさんに入れた人とコイズミさんに入れた人とは分かれているんじゃないかっていう感じがしますけどね。どちらも

ある種の制約をプラスに転じて環境をよくしている好例だと思います。



コイズミ緑橋ビル

田中 緑化するという建築形態はふんだんにいろんな事例がありますけれども最初ばつと見たときにネクスト21をふっと思ひ出して(笑) そんな感じもしましたが、それと緑の規模、成長ということに対してどう配慮しているかということと、近隣に対するつくりかたの課題があるかないかとか、そういうことで聞きましたけど、非常に熱心に取り組んでデザインとしても非常に美しいものを求めているし、いいのかなと思いましたけどね。「建築と社会」賞に値すると思いますけどね。

弘本 こちらも写真で見るより行った方が良いいとこですね。

田中 そうですね。逆にいつて「建築と社会」の誌面ももうちょっとかっこよく作って。

弘本 そうですね。良さがあまり出てこない。「竣工写真」が出てくるからだと思うんですよね。「建築」として撮っているから、利用しているイメージが伝わってこないんですね。

阿部 植栽の剪定は業者にある程度任せていると仰ってましたね。

田中 業者でないと無理でしょう。地元の人と参加でなんかやっているということが、まあ出来る所を地域と一緒にやりましょうと。

阿部 ネクストも同じですけど、ああゆう人工地盤の上に50センチの土に木を植えるというのは難しいんですか？

弘本 いえ、問題ないですよ。

近本 十分ですよ。シートみたいなのをいつてその上に・・・。

田中 昔はそのまま土でしたけど、今はそうじゃなくて土にもなんかいろんな土があつて。

弘本 土も軽量になっていますし、建築の躯体を守る防根シートも張ってあります。木が台風で飛ばないように、根を張るための金網なども土中で工夫されています。

阿部 台風でも。

弘本 ある程度大きくなった木は専門家の指導で剪定しますし、危険な場合は伐採もします。ですから、台風で根こそぎ飛んだことはありません。



コイズミ緑橋ビル

多賀 いま俎上に上がっている作品を構造の立場から見ると、それぞれががんばっておられます。

コイズミ緑橋ビルも一見分かりにくくて聞いてみてわかったんですけど、25m×25mの無柱空間なのです。そこまでがんばったのに、あの吹き抜けのところにシャッターを付けないといけないから柱のようなシャッターレールがあって、残念でしたねということはあったんですけど。

それはともかく、立地条件として決して良くないじゃないですか。準工業地域ですから。そんな条件にあって外に対しても開いているというのが「建築と社会」賞にはふさわしいなとすごく思います。

逆に、戻って申し訳ないですが、幼稚園もすごく良い建築だったんだけど、弘本さんも仰ったように全てが恵まれてるよなっていうところに私自身は引かかって、それと比べるとコイズミは圧倒的に「建築と社会」賞に相応しいと思いました。

田中 高速道路の騒音と住宅地という既存大都市の中での環境問題に対するひとつのモデルというか答えとして提案されてそれ実践されている点は「建築と社会」賞の主旨に合うかなと思いますね。

まあ、先ほどの恵まれている環境の幼稚園とまた違う意味のがんばりがあったんじゃないかと思います。

阿部 結構構造的に。

多賀 さりげなくがんばっておられますね。

阿部 がんばってるんですね。

松本 照明メーカーの建物として緑化は目指すんですけど、ちょっと他にはないぐらいの照明の工夫はされていたのですか？

近本 照明だけというよりは、新しい規格も含めトライアルをやっている。

空間づくりとワークスタイルに合わせ色温度とか照度とかを実験室だけじゃなくてオフィスエリアでも調整できるようにトライしています。よくありがちな照明だけとかではなく、そこをどうやって使っていくのか、使い方のところまでもトライアル的に追いかけようとしている。ここは良く人が使ってる使っていないとかいう話もヒアリングし、光の角度もいろんな角度を使って検証したりとか、そこに座ると集中するんじゃないかとか。

田中 光だけではなくてインテリアとしてのデザイン性というのを非常に力入れているなと思いますね。特にあの、研究者と従業員の方のことを考えた空間作りを。参考になるところ多いと思います。

そうすると、以上3点は入選ということですよ、素晴らしいですか？

続いて3票のヤマウチ メディアイノベーションセンターはどうでしょう？

賛否両論ご意見ください。

構造的な面とか、設備的な面とかいろんな面で竹中の持つるノウハウを駆使して、凄くうまくまとめられているな、ということとあそこの工業団地の新たなファサード、ランドスケープとしてですね、他の施設と間違えられるというぐらい地域の方からも注目される、一つのプロトタイプをつくろうとされている点は高く評価されていいんじゃないかなと思いますね。

これもやっぱり現場見に行かないとわからないですね。結果として私思いましたね。図面だけだとどうしてもわからない。

阿部 明るいですね、両サイドこうあれだけ光が入ってくると。もう照明いらないうらいでした。



ヤマウチ メディアイノベーションセンター

田中 工場があるからその残ったところをやってるんだね。

近本 工場2棟建ててここが余っているから、まあそういうところがありますね。

短手方向には梁はちっちゃくない。

阿部 構造的にかなり挑戦をしている。

多賀 プレストレスという技を活用されていますね。平面が比較的細長いので老婆心ながら少し気がかりな点がなくはないのですが、今日見た3つのうちでは2番目はこれか幼稚園か、でも幼稚園は条件が恵まれてるしな、とそこはかなり迷っているんです。

甲乙つけがたいけど4作品もありかなという気もしますね。

阿部 あの柱4本で、しかもあれだけ細い柱で支持できている。

多賀 水平荷重は両サイドのコアで負担してそれ以外の柱は鉛直荷重だけ支えればよいと割り切った考え方ですね。

阿部 かなり透明感があって。

田中 そうですね。外との繋がり。

多賀 そういう意味でデザインしたかったことに対して構造の智慧は反映されていますね。

田中 凄くがばんばっていると思いますよ。

松本 写真で見える限りではこれだけ水平方向に透明感のある長いものはあまり見たことがないですね。両サイドのコアになっていますからオフィス空間としての歩行距離は長いでしょう。奥行き方向が両サイドともガラスのため外観のイメージより、内部は開放的です。

多賀 凄く明るかったですね。

松本 構造と環境にチャレンジしたい空間

だと思います。

田中 先ほど先生方に入れていただいた票が5、4、3、と次1でほんと、1と3の間に切れ目を感じるなと一つ上まで上げるのか、まあ、入賞4点でもいいということがあれば・・・多すぎるという話もあるんですが。

近本 設備的にいくとインテリア空間とペリメータ空間で考えが違う。ガラス張りなのでペリメータは注意が必要。ペリメータではブリーズラインという空調をしてインテリア側は輻射冷暖房という割り切りは設備的にも面白いな。まあただ輻射だけでいけないので外気処理はデシカント空調というちょっと変わった空調入れられてて、湿度が上がるとすぐに結露しそうなところを回避している。

田中 技術的な面で凄くがんばっておられると思います。加えて地域に対してどうやって見せてくるモデルを作るかっていうところの試みが捨てがたい。

工場というと、団地というところなんだ、みたいなイメージがあるのですが非常にこれは一つのヒントを有してるのではないかと思います。



ヤマウチ メディアインフォメーションセンター

近本 女性が働きやすそうな環境ですね。女性の方が多かった印象です。

弘本 そうですね。

田中 またそういうような空間になるようなことをやりましたね。

さっきのコイズミもなんか女性の方が生き生きしましたね。

入選は3点か4点か、考え方としてはちょっと多いから涙を呑んでもらおうという風にするのか、いやいやかなりがんばっておられるから多くなるんだけど入れてあげよう。

先生方のお考えを聞きたいなと思うんですけどいかがですか？

阿部 結構、チャレンジをしていると思います。その構造的にもそうですし設備的にも形式的にもそうで、かなり法律上、技術上調整して作り上げた作品だと思うので他と比べても遜色はないと思います。

近本 竹中さんばかりというのが気になりますけど。

田中 竹中さんは多いんですね。それはこの制度、システムの問題でもあるし、担当者はそれでいったら気の毒な話。

弘本 私も竹中さんが複数になることがちょっと気になりましたけど、それは特に気にしなくてもいいということであれば、小粒でもとてもがんばっている事例として社会的にインパクトもある、意義も大きいと思いますね。

近本 工場が候補に入ったのに結局工場が抜けちゃったのかという風になるのはどうでしょうか。

田中 あ、そうですね。

仕事としてはやっぱり工場の物件で多いんですかね。竹中さんに限らず。

阿部 昔はあんまり工場に力を注がなかった時代があったのが、最近はコーポレートアイデンティティみたいなものを工場に求めるので、かなりデザインに力を入れている。自社の製品とかブランドが表現できるようなメディアともなっている。

多賀 今残っている4つはそれぞれレベルも高いし、逆に「一つ落とさないといけない」としたらその理由を考えるのもつらいですね。前例にこだわる必要もないとしたら4作品でよいのではないのでしょうか。

松本 最初にコイズミ、阿南市新庁舎と選んだのですが、幼稚園はどうなのかなと思って入れてませんでした。みなさんのご意見ではいろんな意味でレベルの高い建築ということなのでお任せいたします。

ヤマウチは、意欲的なチャレンジがなされて、デザインも凄くシャープです。水平方向の開放性にオフィス空間の新しい可能性を感じま

す。

田中 ありがとうございます。

濃淡はありますがいま全員の先生方からの意見を集約すると4件というのは多そうだけど甲乙つけがたい部分もあるし入れていいんじゃないか、という結論にしたいなとは思いますが、よろしいでしょうか？

というところで。

論考部門は1点12月号の加藤耕一さんの「建築時間論」、審査員特別賞が10月号の「社会と繋がるディテール」ですね。

作品の方は阿南市新庁舎とマリア幼稚園とコイズミとヤマウチの4点。ちょっと作品が今年は多くなりましたけど、甲乙つけがたいということ。

ただ課題としては同一事業者の場合が非常に目立つので今後、まず掲載してもらえようにいろんな企業者の方にそういう努力を含めてやらないといけないなということを感じました。

長時間ありがとうございました。

暑中お見舞申し上げます

平成30年盛夏

常任理事

勝 山 太 郎

日 建 設 計
理事 設計部門 設計部長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

近 藤 康 之

不二熱学工業 株式会社
代表取締役

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-1-1 TEL(06)6261-4321

千 種 幹 雄

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒531-0072 大阪市北区豊崎4-12-10 TEL(06)7174-8787

理事

金 井 隆 夫

大成建設 株式会社
専務執行役員関西支店長

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-14-10 TEL(06)6265-4556

理事

酒 井 祥 三

西松建設 株式会社 西日本支社
常務執行役員支社長

〒540-8515 大阪市中央区釣鐘町2-4-7 TEL(06)6942-1173

理事

中 井 進

日建設計コンストラクション・マネジメント
相談役

〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-27 TEL(03)5803-9770

亀 井 忠 夫

日 建 設 計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

佐 野 吉 彦

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

永 嶋 元 博

東リ 株式会社
代表取締役社長

〒664-8610 兵庫県伊丹市東有岡5-125 TEL(06)6492-1331

理事

栗 原 信 英

栗原工業 株式会社
取締役社長

〒530-0017 大阪市北区角田町1-1 TEL(06)6313-1101

会長

設 楽 貞 樹

株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役執行役員

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

藤 澤 一 郎

ダイダイン 株式会社
代表取締役社長

〒550-8520 大阪市西区江戸堀1-9-25 TEL(06)6447-8000

理事

児 玉 謙

日 建 設 計
執行役員 設計部門 設計代表

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

副会長

田 中 日出男

株式会社 きんでん
取締役常務執行役員技術本部長

〒531-8550 大阪市北区本庄東2-3-41 TEL(06)6375-6229

副会長

米 井 寛

株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋2-6-10 TEL(06)6202-0391

暑中お見舞申し上げます

平成30年盛夏

設計事務所有志

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長 米 井 寛

本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2-6-10 TEL (06) 6202-0391

大阪・東京・名古屋・九州・東北

<http://www.tohata.co.jp>

NIKKEN

EXPERIENCE, INTEGRATED

日建設計

代表取締役社長 亀井忠夫

東京都千代田区飯田橋2-18-3

Tel. 03-5226-3030

大阪府中央区高麗橋4-6-2

Tel. 06-6203-2361

<http://www.nikken.jp>

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野吉彦

本社 〒540-0034 大阪府中央区島町2-4-7 TEL:06-6943-1371

支社 大阪・東京・名古屋・広島・九州 www.yasui-archi.co.jp



暑中お見舞申し上げます

平成30年盛夏

建設業有志



OBAYASHI

時をつくる ところで創る

大林組

取締役社長 蓮輪 賢治

本社 東京都港区港南 2-15-2 TEL 03 (5769) 1111

専務執行役員 掛布 勇

大阪本店 大阪市北区中之島 3-6-32 TEL 06 (6456) 7000

子どもたちに誇れるしごとを。



清水建設株式会社

取締役社長 井上 和幸

取締役専務執行役員関西支店長 池田 耕二

本社 〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号 Tel. 03 (3561) 1111

関西支店 〒541-8520 大阪市中央区本町三丁目5番7号 御堂筋本町ビル Tel. 06 (6263) 2800

地図に残る仕事。®



TAISEI

大成建設株式会社

For a Lively World

代表取締役社長

村田 譽之

専務執行役員関西支店長 金井 隆夫

本社 東京都新宿区西新宿 1-25-1

電話 03-3348-1111

関西支店 大阪市中央区南船場 1-14-10

電話 06-6265-4504

<http://www.aisei.co.jp/>

想いをかたちに 未来へつなぐ



TAKENAKA

竹中工務店 取締役社長 宮下 正裕

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13 tel: 06-6252-1201

〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1 tel: 03-6810-5000



戸田建設株式会社

代表取締役社長 今 井 雅 則

常務執行役員大阪支店長 光 用 薫

本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1

TEL 東京03(3535)1354

大阪支店 〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-47

TEL 大阪06(6531)6095

支店 東京・首都圏土木・千葉・関東・横浜・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

暑中お見舞申し上げます

平成30年盛夏

学校有志



大阪工業技術専門学校

OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

設備環境デザイン学科・建築学科・インテリアデザイン学科・大工技能学科・建築設計学科(リカレント生対象)
建築学科II部(夜間)・フレックス建築学科(夜間・単位制)・建築士専科(二級建築士受験資格取得者対象)

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目8番24号 ☎ 0120-0910-19 🌐 <http://www.oct.ac.jp/> Tel. 06-6352-0093



学校法人 修成学園

修成建設専門学校

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5-19-30 TEL:06-6474-1644(代)

☎ 0120-446-456 <https://www.syusei.ac.jp/>

- 建築学科
- 建築CGデザイン学科
- 空間デザイン学科
- 住環境リノベーション学科
- 土木工学科
- 建設エンジニア学科
- ガーデンデザイン学科
- 専科 2級建築士科
- 建築デュアルシステム科

建材有志



一般社団法人

日本建築材料協会

会 長 立 野 純 三

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階 TEL(06)6443-0345 FAX(06)6443-0348
<http://www.kenzai.or.jp/>

暑中お見舞申し上げます

平成30年盛夏

団体有志



一般社団法人 **日本建築協会**

会 長 設 楽 貞 樹

〒540-6591 大阪府中央区大手前1-7-31 TEL (06) 6946-6981



一般社団法人 **日本建築協会中国支部**

支 部 長 高 松 隆 夫

〒732-0805 広島市中区十日市町1-1-9 (相生通り鷹匠ビル4階山陽工業㈱内) TEL (082) 232-6471



一般社団法人 **日本建築協会東海支部**

支 部 長 篠 原 佳 則

〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19 (名古屋商工会議所ビル9階) TEL (052) 201-2201



一般社団法人 **日本建築協会京都支部**

支 部 長 長 瀬 博 一

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入橘町641 京都建設会館別館 TEL (075) 211-2857

〈第1回建築セミナー〉

「暮らし」から考える
住まいの寸法入門講座

講師 堀野和人

一級建築士事務所スマイルズム.

司会進行 西 博康

日本建築協会出版委員会委員長

記録 入谷明宏 日本建築協会事務局

2018年5月16日(水)、TO TOテクニカルセンター大阪において、〈第1回建築セミナー〉が開催されました。

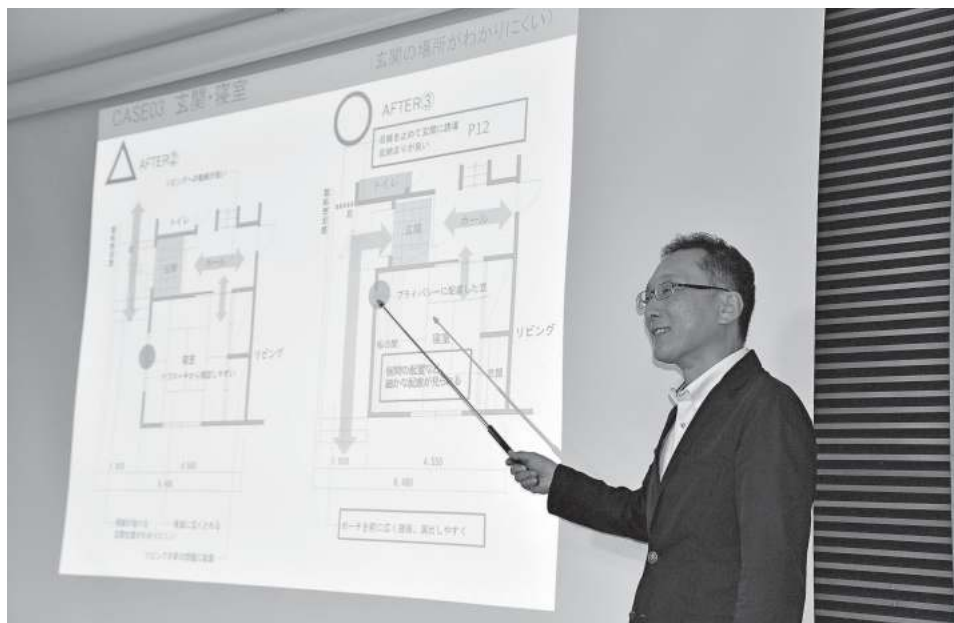
出版委員会ではこれまで160冊余の建築関連本を刊行し、開催したプロのノウハウ講座は39回を数えます。今年からは趣向を変えて学芸出版社と共催し、協会企画本にとどまらず広く建築の本の著者を招いて気軽に参加いただけるセミナーを開催することになりました。

記念すべき第1回セミナーは「図解 住まいの寸法」の出版記念として行われました。

本書では住宅を13の空間に整理し、そこで行われる生活行為に支障のない理にかなった寸法を解説しています。

講師の堀野氏は、本書を書くきっかけとなった、街中にあふれる良くない住宅プランニングの例を挙げた後、芦屋の高級住宅から岸和田でのだんじり小屋まで、自らが建築士としてかかわった多彩な物件を紹介されました。

堀野氏は、住みやすい家の条件として、まず、したいことができる広さがあり、動線が考慮されていることが大切だと強調されまし



ビフォー・アフター形式で寸法、間取りについて解説する堀野氏(写真上)と会場の様子(同右)

た。その上でセミナーでは本書を使ったケーススタディが行われました。13の空間のうち玄関では、玄関土間、玄関ホール共に1.25m以上の奥行きがあれば、お辞儀など挨拶の姿勢や来客応対にも支障がない、奥行き40cm程度の玄関収納(靴箱)をホール、土間どちらからも利用できる位置に設置すること。また、間取りや住宅性能評価の観点から、玄関土間からはトイレが見通せないようにする、トイレの内開き扉はお年寄りにとって危険、などビフォー・アフター形式で事例を挙げ、分かりやすく解説されました。

堀野氏は、設計者は施主の思いを大切にすることはもちろん大切だが、プランの良し悪しをきっちりコンサルティングできる能力こそ必要と締めくくられました。

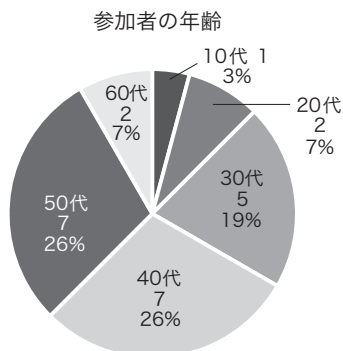


熱の入った講義に定刻の2時間はあっという間に過ぎましたが、参加者からはもっと聞きたい、時間が短いという要望も寄せられました。その他アンケートでは、とても勉強になった、景観形成の話も聞けて良かった、などの感想も多数寄せられました。

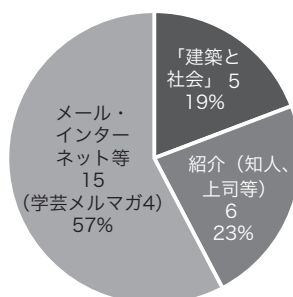
ご参加いただいた皆様に御礼を申し上げますと共に、堀野氏を始め関係各位、会場を提供いただいたTO TO様に改めて感謝申し上げます。当日、ご参加いただけなかった方にも、ぜひ本書をご購読いただければと存じます。

アンケート集計結果

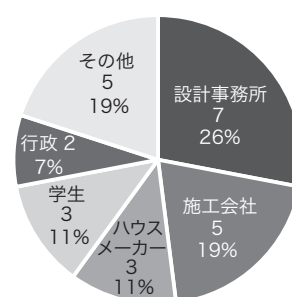
参加者の年齢層は10代から60代まで幅広い。セミナーを知ったきっかけでは、メール・インターネット等が半数を超え、学芸出版社との共催になったこともあり、同社のメールマガジンも4人となった。所属ではハウスメーカー3人と本書の特色が表れていた。



セミナーを知ったきっかけ



所属



▶ JIA近畿支部大会2018（滋賀大会） テーマ「水と建築」

JIA近畿支部大会2018が滋賀県の近江八幡で開催される。
国内最大の湖「びわ湖」に注ぎ込む流域の物語は水源の森まで遡り、都市を貫き大阪湾に注ぎ出るまで流下する。建築のあり方はその流域ごとの風景や経済・文化によって決まってきたようにも見える。社会と営みの中には常に「水」があり、会場となる滋賀県近江八幡市もまた、びわ湖への疎水を持つ水郷の文化とともに個性のあるまちが育まれてきた。この個性の深さが地域をかたちづくり、今なお保存と再生を繰り返しながら、新しい価値も生み出している。
「水」というキーワードを起点に、建築を語り合い、都市や集落への関わり方を考える機会になればと願う。

日時 7月13日(金)【作品展：7月11日(水)～16日(月)】
会場 酒遊館・近江八幡まちや倶楽部界隈
(滋賀県近江八幡市仲屋町中6)

プログラム

- 大会受付【近江八幡まちや倶楽部】 10:00～
- エキスカッション 10:30～12:30
- ①「まちの拠点」コース
近江八幡市内に点在する、建築家ヴォーリスの設計による非公開住宅の見学（内部・ガイド付）
- ②「ラコリーナ近江八幡」コース
菓子製造でおなじみの「たねや」グループの施設、建築家／藤森照信氏設計の「ラ コリーナ近江八幡」の施設見学
- CAFE BAR JIA～建築を語ろう～ 11:00～13:00
近畿各地域のゲスト建築家がspeakerとして建築にまつわる自由なテーマでショートレクチャー（400秒）を行い、Bartenderとしてもトークする。飲みながらの連続ショートトークイベントなので気軽に参加できる。
- 基調講演／アーキサロン 13:30～16:00
・基調講演「近江八幡へのおもい」
講演者／山本昌仁氏（たねやグループCEO）
・対談「地域の創造と建築家の関わり」
山本昌仁氏×松岡拓公雄氏（亜細亜大学教授）
- 大会式典 16:15～17:30
- 交流パーティー 17:45～19:30
滋賀の味覚と各地域の地酒を堪能できる。アトラクションでは会員有志によるバンド演奏が披露される。

作品展【近江八幡まちや倶楽部】

7月11日(水)～16日(月) 10:00～18:00
(13日は19:30まで、16日は16:00まで)

JIA近畿支部会員が手がけた建築作品を中心に、企業、学生による展示を行う。また、美術家 大船真言氏の特別展も同時開催。

1 | 明治維新150年 NHK大河ドラマ特別展 「西郷どん」

明治維新のヒーロー・西郷隆盛には、肖像写真が一枚も残っておらず、その生涯は謎に満ちている。薩摩（鹿児島県）の下級藩士の家に生まれた西郷隆盛（小吉、吉之助）は、両親を早くに亡くし、家計を補うため役人の補佐として働く。やがて薩摩藩主の島津斉彬に目を留められた西郷は、斉彬の密命を担い江戸へ京へと奔走し、薩摩のキーパーソンとなっていく。多感な青年期を経て、3度の結婚、2度の島流し。極貧の下級武士に過ぎなかった素朴な男は、勝海舟、坂本龍馬ら盟友と出会い、揺るぎなき「革命家」へと覚醒し、徳川幕府を転覆させる。類まれな「勇気と実行力」で明治維新を成し遂げた西郷だが、最後は明治新政府と闘い、命を散らすことになる。

この展覧会では、NHK大河ドラマ「西郷どん」と連動し、西郷隆盛ゆかりの品や、同時代の歴史資料などを紹介、西郷の人間像と彼が生きた時代を浮き彫りにする。



石川静正筆 西郷隆盛肖像画
個人蔵
鹿児島県歴史資料センター
黎明館保管

期 間 7月28日(土)～9月17日(月・祝)
9:30～17:00（金曜日は20:00まで）

※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 火曜日（ただし8/14は開館）
会 場 大阪歴史博物館 6階特別展示室
大阪市中央区大手前4-1-32
TEL.06-6946-5728

観 覧 料 一般1,300円、高大生900円

*中学生以下無料

*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

2 | 生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。

2018年、いわさきちひろ（1918～1974）は生誕100年を迎える。にじむ色彩で描かれた子どもたち、花々、そして大きく空けられた余白。絵本、挿絵、カレンダーなど、さまざまなメディアを通じてその絵は生活の隅々にまで浸透し、没後40年を超えてなお膨らみ続ける人気は今や世界に広がりつつある。

一方で、その作品に関しては、「子ども、花、平和」などのモ



ハマヒルガオと少女
1950年代中頃
ちひろ美術館蔵

ティーフ、あるいは「かわいい、やさしい、やわらかい」といった印象ばかりが注目されやすいようである。「いわさきちひろ、絵描きです。」——のちの伴侶と出会った際に自己紹介したちひろの言葉をタイトルに掲げる本展は、「絵描き」としてのちひろの技術や作品の背景を振り返る展覧会である。ちひろはどのような文化的座標に位置し、どのような技術を作品に凝らしたのか。新出の資料も交えた約200点の展示品を通じて作品の細部に迫り、童画家としてのちひろイメージの刷新を試みる。

期 間 7月14日(土)～9月9日(日)
10:00～18:00 (金曜日は20:00まで)
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 7/16、8/13、9/3をのぞく月曜日、7/17

会 場 東京ステーションギャラリー
東京都千代田区丸の内1-9-1
TEL.03-3212-2485

観 覧 料 一般1,000円、高大生800円
*中学生以下無料
*障がい者手帳等をお持ちの方は100円引き、
その介助者1名は無料

3

ビッグコミック50周年展 —半世紀のビッグな足跡—

今年、創刊50周年を迎えたマンガ雑誌「ビッグコミック」(小学館)。マンガが若者たちの文化として大きく広がっていった時代に産声をあげ、「大人のためのコミック誌」という領域を切り拓いたそのあゆみを、その誌面を飾った名作の数々とともに振り返る。戦後マンガ史にその名を刻んだ巨匠たちの力作から、いままさに大人のマンガ読者のためのドラマを紡ぐ作家たちの多彩な作品まで、この雑誌が戦後マンガ史に残してきた大きな足跡をご覧いただきたい。



「BLUE GIANT
SUPREME」
©石塚真一

期 間 9月2日(日)まで
10:00～18:00
※入館は17:30まで

休 館 日 水曜日(ただし7/18・25、8月の水曜日は開館)

会 場 京都国際マンガミュージアム2階
ギャラリー1・2・3
京都市中京区烏丸通御池上ル(元龍池小学校)
TEL.075-254-7414

観 覧 料 一般800円、中高生300円、小学生100円
(ミュージアム入場料)

▶第32回大阪市ハウジングデザイン賞 推薦募集

●募集期間

7月20日(金)まで(当日消印有効)

●対象となる集合住宅

大阪市内で建設された「共同住宅」「長屋」「戸建住宅の集合」で、次に該当するもの

①新築

平成25年4月1日から平成30年5月31日の間に建築したもの(概ね築5年以内)

②既存建物の改造等

平成25年4月1日から平成30年5月31日の間に優れたリフォームやリノベーション等をしたもの(概ね工事後5年以内)

③維持管理

平成10年5月31日までに建築し良好な維持管理がなされているもの(築20年以上)

※大阪市、大阪市住まい公社及び独立行政法人都市再生機構等の公的団体が事業者として建設した住宅については、①②は分譲・賃貸とも、③は賃貸のみ対象外となる

●応募方法

リーフレット内推薦はがき又は、都市整備局ホームページより応募

●リーフレット配布場所

各区役所、大阪市サービスカウンター(梅田・難波・天王寺)、大阪市立住まい情報センター4階住情報プラザ、大阪市役所1階市民情報プラザ等

●応募先・問合せ

〒530-8201 大阪市北区中之島1丁目3番20号
大阪市都市整備局企画部住宅政策課民間住宅助成グループ
【電話】06-6208-9229

●その他

推薦者の中から、抽選で50名に図書カード(500円分)がプレゼントされる。

本欄掲載の1～3の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手(82円)を日本建築協会事務局までお送りください。

理事会

第2回常任理事会

5月23日(水) 16:00~17:30

日本建築協会会議室

出席者 設楽会長ほか8名

- 議 事 (1) 平成29年度事業報告(案)
 (2) 平成29年度決算報告(案)
 (3) 常設委員会新設(案)
 (4) 平成30年度事業計画(案)
 (5) 平成30年度収支予算
 (6) 平成30年度役員、評議員の就任承諾の回答状況
 (7) 総会、表彰式等タイムスケジュール
 (8) 4団体「大阪のまちづくり提言書」の委員名簿
 (9) 「KENTEN2018」レセプションへの出席
 (10) 論考コンクール受賞者からの意見
 (11) 「イケフェス大阪」関連事業
 (12) 第17回「建築と社会」賞の選考結果

編集委員会

第2回広告企画・編集合同委員会

5月14日(月) 18:00~19:00

日本建築協会会議室

出席者 勝山委員長ほか7名

- 議 事 (1) 6月号特集 片岡安賞
 (2) 7月号特集 青年技術者
 (3) 8月号特集 平成と建築
 (4) 9月号特集 (仮) 木造建築物利用円滑化の取り組み
 (5) 10月号特集 案1(仮) 山と建築
 案2(仮) AI、ロボット

計画系分科会

5月15日(火) 18:30~20:30

日本建築協会会議室

出席者 田中幹事ほか3名

議 事 (1) 2018年特集企画

第1回インテリア・住宅系分科会

5月31日(木) 19:30~20:10

日本建築協会会議室

出席者 黒柳幹事ほか1名

議 事 (1) 2018年特集の企画

第2回構造分科会

5月17日(木) 18:30~20:00

日本建築協会会議室

出席者 角田幹事ほか3名

- 議 事 (1) 構造の頁の企画
 (2) 2018年特集の企画

第2回施工材料分科会

5月25日(金) 17:00~18:10

日本建築協会会議室

出席者 高橋幹事ほか3名

議 事 (1) 2018年特集の企画

第2回法令分科会

5月16日(水) 15:00~16:40

日本建築協会会議室

出席者 垣内幹事ほか6名

- 議 事 (1) 法令コーナーの企画
 (2) 2018年特集の企画

第2回作品作風小委員会

5月24日(木) 19:00~19:45

日本建築協会会議室

出席者 東井小委員長ほか4名

- 議 事 (1) 作品の選定
 (2) 作品の掲載状況、予定
 (3) gallery掲載報告、予定
 (4) その他

事業委員会

第2回情報見学小委員会

5月10日(木) 18:35~19:00

日本建築協会会議室

出席者 中尾委員長ほか11名

- 議 事 (1) 見学会について
 (2) イケフェス協力の検討

出版委員会

第2回出版委員会

5月24日(木) 18:00~18:50

日本建築協会会議室

出席者 西委員長ほか3名

- 議 事 (1) 既刊書籍経過報告
 (2) 制作進行中の書籍
 (3) 今後の出版テーマ
 (4) 建築セミナー

教育委員会

第2回大阪府住まい・まちづくり普及協議会

5月18日(金) 10:30~12:00

大阪建築会館会議室

報告・議題

- (1) 出前講座
 (2) マニュアル作り
 (3) 通常総会について
 (4) その他

第2回史料研究会

5月29日(火) 18:00~19:30

日本建築協会会議室

出席者 橋寺委員長ほか4名

- 議 事 (1) 協会誌での連載
 (2) 新委員候補について

未来創生プロジェクト

第2回建築次世代委員会

5月18日(火) 18:35~19:55

日本建築協会会議室

出席者 川上委員ほか7名

- 議 事 (1) 現場見学会について
 (2) 日本建築協会 新パンフレット検討

第2回2040委員会

5月9日(水) 19:30~21:30

日本建築協会会議室

出席者 駒井リーダーほか5名

- 議 事 (1) 企画内容
 (2) 今後の委員会活動

第3回U-35委員会

5月17日(木) 19:00~

大成建設会議室

出席者 宮武リーダーほか10名

- 議 事 (1) 活動/予定
 (2) 次回予定/その他

第4回U-35委員会

5月28日(月) 19:00~

日建設会議室

出席者 宮武リーダーほか15名

- 議 事 (1) 活動/予定
 (2) 次回予定/その他

見学会

「奈良県農業研究開発センター及びなら食と農の魅力創造国際大学校」見学会

5月16日(水) 14:30~17:00

講 師 ㈱徳岡設計 取締役副社長 藤城義丈氏・
 兵庫事務所SE室 中島慎一氏
 奈良県農業研究開発センター 研究企画
 推進部研究企画推進課 課長 國本佳範氏
 小平弥史情報見学小委員会副委員長
 ほか4名

参加者 31名

編集委員会(平成30年度)

■副会長

米井 寛

■編集担当理事

木谷 晃之

○勝山 太郎

佐藤 榮一

杉本 浩

竹中 統一

西 博康

松崎 公一

船越 淳久

吉村 英祐

■副委員長

○戸川 勝之

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡

鈴木 克彦

△田中 直人

松田奈緒子

守井 辰

吉村 英祐

★建築計画系

神戸 嘉也

△桑原 悠樹

下坂 浩和

中辻 浩介

東 拓郎

樋口 展寛

松岡 英緯

三谷 帯介

米山 剛史

渡部 剛

★インテリア・住宅系

赤川貴世友

今井 充彦

岩田 圭司

川合 隆之

河西 孝平

△黒柳 亮

塚口 洋之

ベリー史子

■構造分科会

宇野 綾真

岡田 健

岸本 光平

瀧野 敦夫

△角田 耕一

種原 学

松本 裕之

宮久保秀樹

向井 洋一

■設備分科会

有尾清二郎

木谷 晃之

北野 勝也

佐々木章二

寺井 千佳

夏井 重行

△橋本 直樹

梶井 貴廣

宮崎ひろ志

森山 正和

山本 雅洋

■施工材料分科会

門野 陽

桜井 和男

△高橋 秀一

藤丸 啓一

山口 紀宏

山崎 順二

吉田 正友

吉居 哲

■法令分科会

植平 浩司

岡田 耕介

△垣内 明

河野 学

高田 大輔

福岡 誉顕

■作品作風小委員会

▲東井 嘉信

居内 章夫

池上 明

稲垣 和江

太田 栄治

加嶋 章博

菊池 浩輔

倉瀬奈千子

澤田 純一

高木 秀晃

輦野 淳司

西田 佳代

芳谷 晴彦

平野 尉仁

増田 敬彦

■広告企画小委員会

小川 雄介

金築 雄

小山 昭

野山 将男

藤田 昌宏

▲前田 衛

山辻 直樹

(順不同)

◎委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印刷 2018年6月27日

発行 2018年7月1日

発行人 一般社団法人日本建築協会

大阪府中央区大手前1-7-31

電話 06-6946-6981

印刷所 ㈱中島弘文堂印刷所

定価 1230円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます

**お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応できるように**

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本 社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

年間広告のご案内

会誌「建築と社会」では、後付部分に
広告スペースを設けております。

1年を通じて、社名広告を掲載されませんか？

掲載期間：4月号～翌年3月号までの1年間

掲 載 料：48,000円（消費税込み）

サ イ ズ：1/12頁（タテ40mm×ヨコ90mm）

※毎月掲載誌をご送付します。

※原稿は1年間同じ原稿を使用します。

お問い合わせ先

一般社団法人 日本建築協会 内山・井筒

TEL：06-6946-6981 FAX：06-6946-6984 E-mail：koukoku@aaj.or.jp

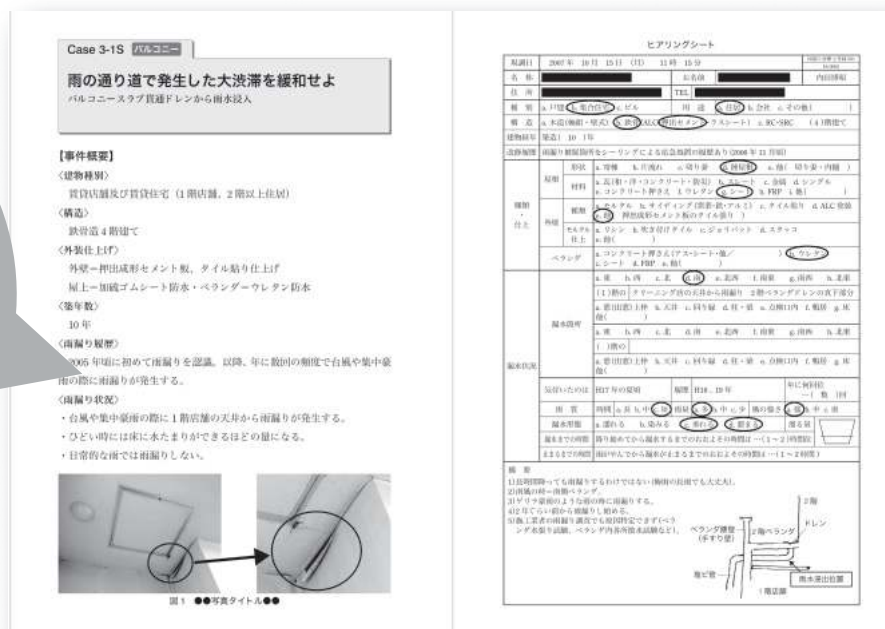
◆ 第2回 建築セミナー ◆

主催：日本建築協会出版委員会 共催：学芸出版社

日本建築協会出版委員会では、「建築の本」の著者をお招きし、手軽にご参加いただける連続セミナーを開催しています。第2回として日本建築協会企画『図解雨漏り事件簿』の出版を記念して実施いたします。お気軽にご参加ください。

日本最大のプロ集団「雨漏り110番」が教える 雨漏り調査の対策とポイント

講師：玉水新吾 氏・唐鎌謙二 氏



『図解雨漏り事件簿』は、住宅トラブルの大半を占める雨漏りの原因調査と対策について、修理実績1万1千件以上・解決率97%超、日本最大のプロ集団である「雨漏り110番」が総力を挙げた一冊です。多数の生の事例をもとに実務に役立つポイントをお伝えします。

〈講師プロフィール〉

玉水 新吾 (たまみず しんご)

一級建築士事務所「ドクター住まい」主宰、雨漏り診断士協会技術研究所長。

唐鎌 謙二 (からかま けんじ)

雨漏り110番グループ代表、日本外装株式会社代表取締役、NPO法人雨漏り診断士協会理事。

このセミナーは、建築 CPD 情報提供制度認定プログラムです。建築関連 CPD (2単位)

日 時： **2018 年 8 月 22 日 (水)**
18:00 ~ 20:00 (17:45 開場)

場 所： **TOTOテクニカルセンター大阪**
大阪市中央区久太郎町3-6-8御堂筋ダイワビル2階 地下鉄本町駅から徒歩4分

参加費：テキスト購入+受講3900円
受講のみ1500円 (※日本建築協会会員と学生はテキスト購入+受講3400円、受講のみ1000円)

定 員：50名

使用テキスト：玉水新吾・唐鎌謙二著『図解雨漏り事件簿』
A5判・216頁・本体2500円+税

※当日はテキストを税込2700円⇒税込特価2400円で販売します。

【申込み方法】

下記を記載の上、メールもしくはFAXにてお申込ください。

①催し名(第2回建築セミナー)②氏名(ふりがな)③所属④会員・一般・学生の別⑤当日の書籍購入希望の有無⑥受講票郵送先住所⑦電話番号⑧E-mail アドレス⑨CPDを申請される方は申請先団体名と番号
申込先：(一社)日本建築協会 TEL 06-6946-6981 FAX 06-6946-6984
E-mail:hensyu2@aaj.or.jp (担当：入谷)

